

マツバラ *Psilotum nudum* (L.) Beauv.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。自然度の高い森林や岩崖地に生育する暖地性の植物で、愛知県では個体数が少ない上に、著しい園芸目的の採取圧がある。

【形態】

常緑性の多年生シダ植物。根はなく、葉もない。根茎は不規則に分岐し、直径 1~2mm、褐色の仮根を密につける。地上茎は直立、斜上または下垂し、2~3回 2又分岐し、高さは 10~40cm であるが愛知県のもは大きくても 25cm 程度、緑色で無毛、枝は稜があって、断面が三角形となる。単体胞子のうは 3 室に分かれ、枝につくごく短い側枝の上につき、直径 1.5~2mm、はじめ緑色であるが、熟すと黄色になる。胞子は黄白色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部(福原 稔 16518)、豊田東部(山崎玲子 1556)、幡豆(芹沢 68944)。ただし幡豆は近況未確認。田原赤羽根(田原町六連、瀧崎吉雄 s.n., 1969-8-31)で採集された標本もある。大原(1971)は産地として足助、松平、幡豆、鳳来、椎代、田原を挙げており、以前はもう少し広い範囲にあったものと思われるが、裏付けとなる資料はほとんど残されていない。

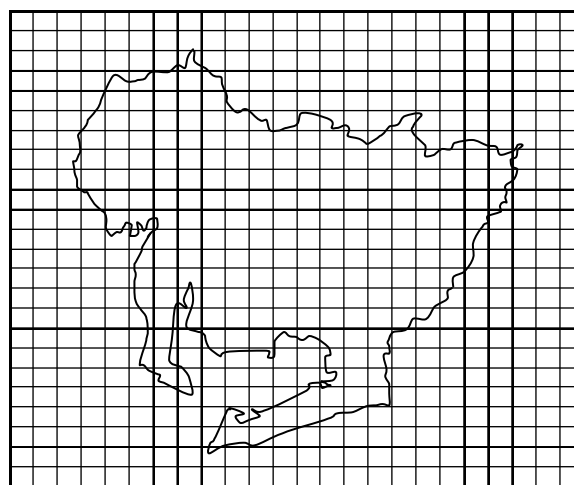
【国内の分布】

本州(太平洋側は宮城県、日本海側は石川県以南)、四国、九州、琉球、小笠原に生育しているが、全国的にも減少傾向が著しい。ただしその一方で、市街地の歩道わきなどに出現したという事例もある。

【世界の分布】

世界の熱帯、亜熱帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

熱帯・亜熱帯域では山地の自然林の樹幹に着生することが多いが、愛知県も含めて、分布域の北限近くではほとんど岩場に生育している。稀に地上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所も個体数は少ない。園芸目的の採取が著しく、目につきやすいところでは、手が届く範囲のものはすでに採りつくされている。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止することが何より必要である。常時監視ができない場所については、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

根も葉もなく、茎だけが 2 又分岐をくり返す単純な体制は、現生の植物では他に類似したものがない。日本では古くから観賞用に栽培され、江戸時代には多数の園芸品種が知られていた。

【引用文献】

大原準之助, 1971. 愛知県国有林の植物誌 p.35. 名古屋営林局, 名古屋.

【関連文献】

保シダ p.6、平シダ p.41、SOS 旧版 p.35+図版 9、環境庁 p.417、SOS 新版 p.43,44。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 2-7. 東京大学出版会, 東京.

アスヒカズラ *Lycopodium complanatum* L.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県は分布域の南限に近い。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の多年生シダ植物。匍匐茎は地中または地上を長く這い、まばらに分岐し、直径 1~2mm、鱗状の葉をまばらにつける。直立茎は通常扇状に分岐し、高さ 10~25cm、小枝は扁平になり、幅 2~4mm である。葉は茎に圧着して 4 列に並び、背葉と腹葉は側葉より小さく、先端は棘状になる。胞子のう穂は 3~10cm の柄の先に 1~5 個つき、線状楕円形、長さ 1~3cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(落合圭次 1)、旭(芹沢 62185)。瀬戸尾張旭(東白坂町, 犬飼 清 8411, 1987-9-10)にもあったが絶滅した。豊根(茶臼山, 鳥居喜一 30151, 1950-6-25, HNSM)、稲武(黒田ダム, 加藤等次 s.n., 1967-6-18)で採集された標本もある。

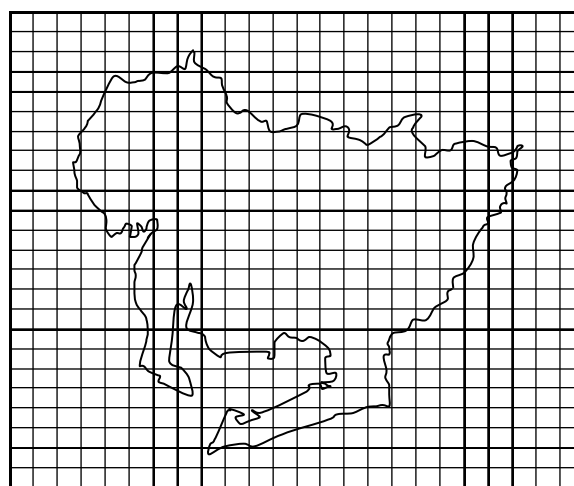
【国内の分布】

北海道から近畿地方北部のほか、兵庫、鳥取、徳島各県に生育する。東北日本の山地では比較的普通に見られる植物である。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の林縁などの日当たりのよい場所に多いが、林内に生育することもある。マット状の群落を作ることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県ではもともと少なく、山地の開発により減少している。ただし、林道わきの斜面など開発の影響を受けた場所に生育している場合もある。豊根村では牧場の造成により、また豊田市(旧稲武町)ではダムのかさ上げ工事により絶滅した。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているわけではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

和名は、枝ぶりがアスナロに似ているからである。

【関連文献】

保シダ p.14、平シダ p.48。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 52-56. 東京大学出版会, 東京.

スギラン *Lycopodium cryptomerinum* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。自然度の高い森林に依存する植物で、全国的に見ても減少傾向が著しい。伐採などの影響を受けやすく、園芸目的の採取圧も高い。

【形態】

常緑性の多年生シダ植物。茎はまばらに叉状に分岐し、斜上して先端が下向きにたれることも、斜め下に出て先端が立ち上がることもあり、長さは大きいもので 30cm をこえ、直径 3~5mm、わり色か緑色で、多数の葉をらせん状につける。葉は開出または斜上し、線形~狭披針形、長さ 1~2cm、全縁、革質で緑色~深緑色である。胞子のうは枝端近くの葉の基部につき、胞子葉は栄養葉よりやや小さい。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山（小林 57087）、設楽西部（芹沢 34361）、鳳来北東部（村松正雄 14910）、稲武（芹沢 82141）、旭（塚本威彦 561）。豊根（茶臼山，加藤等次 s.n., 1966-6-9）、新城（富岡，加藤等次 s.n., 1963-9-8）、豊川宝飯（本宮山，鳥居喜一 30071, 1955-10-30, HNSM）で採集された標本もある。

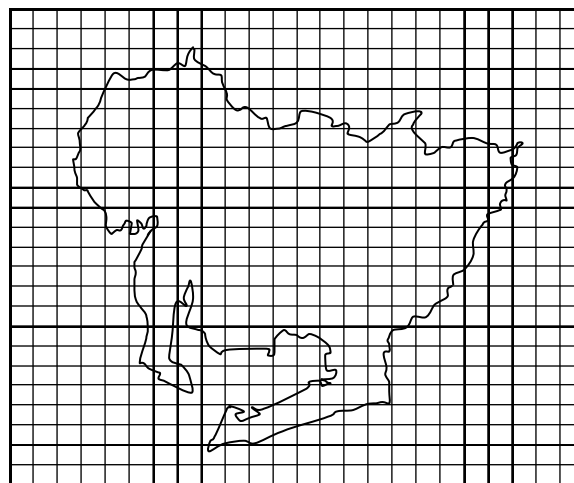
【国内の分布】

北海道東部から屋久島にかけて分布する。

【世界の分布】

日本、濟州島、台湾。インドからも記録されている。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常深山の沢沿いの自然林の樹幹に着生するが、岩上に生育することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの生育地も個体数が少なく、ある程度の量があって確実に観察できるのは愛知県内では 1 カ所だけである。第二次大戦後の自然林が広範囲に伐採された時期には、それにより著しく減少したものと思われるが、現在は園芸目的の採取が減少の主要因である。

【保全上の留意点】

本種が生育できるような自然度の高い森林は、愛知県では僅かに残存するだけである。現在残っている林は、厳重に保全する必要がある。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、スギの枝に似た形の着生植物だからである。樹幹に着生するヒカゲノカズラ類としては、最も北まで分布する。

【関連文献】

保シダ p.10、平シダ p.45、SOS 旧版 p.35+図版 2、環境庁 p.255。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 58-62. 東京大学出版会, 東京.

## ヤチスギラン *Lycopodium inundatum* L.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。愛知県の湧水湿地を特徴づける寒冷地性植物の一つで、分布域の南限に近い。生育地に対する開発圧力も高い。

### 【形態】

ほとんど夏緑性の多年生シダ植物。ヒカゲノカズラのなかまであるが、茎も葉もやわらかい。匍匐茎は地表をはい、まれに分岐し、長さ 20cm 以下、葉を含めて直径 4~6mm、まばらに根を出す。葉はらせん状にやや密につき、線形、長さ 5~6.5mm、幅 0.5~0.7mm、先端は鋭尖頭である。直立茎は高さ 4~13cm、胞子のう穂は直立茎の先端に通常 1 個つき、長さ 2~4cm、胞子葉はやや開出し、狭線形、基部は広く、先は細くとがる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

設楽西部(芹沢 83152)、作手(芹沢 53218)、藤岡(塚本威彦 1624)、瀬戸尾張旭(芹沢 75876)、犬山(芹沢 57002)で生育が確認されている。三好(黒笹, 芹沢 52537, 1989-8-1)にもあったが絶滅した。大原・千賀(1985)によれば岡崎南部(池金町)にもあったというが、すでに絶滅したらしく、裏付けの標本もない。

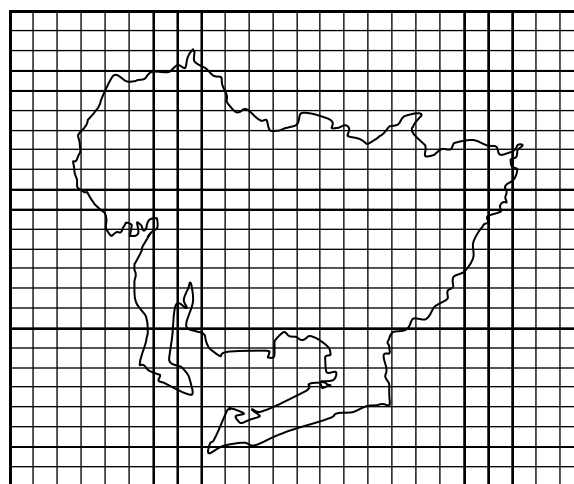
#### 【国内の分布】

北海道および本州(近畿地方中部以北)に分布する。温暖な東海地方の低地に、ミズスギのような熱帯系の植物と並んで生育しているのは、特に注目される。

#### 【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

貧栄養の湿地に生育する植物で、愛知県では湧水湿地の裸地状の場所に見られることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

作手村と瀬戸市には比較的多いが、他の場所では生育地も個体数も極めて少ない。開発の影響がない場所では良好に生育しているが、設楽西部の 1 カ所(標本：芹沢 56866)では生育地の湿地が埋め立てられて絶滅し、三好町でも湿地の水源部が工場用地として造成され、湿地が乾燥して絶滅した。瀬戸市でも、一部の自生地は国道工事等のため破壊された。

### 【保全上の留意点】

愛知県の丘陵地に点在する湧水湿地には、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。保全上の優先順位も高い。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形もあわせて保全する必要がある。

### 【引用文献】

大原準之助・千賀敏之, 1985. 岡崎市植物目録. 新編岡崎市史 14 p.428. 岡崎市.

### 【関連文献】

保シダ p.14、平シダ p.48、SOS 旧版 p.35+図版 18、SOS 新版 p.99,100.

## ヒメクラマゴケ *Selaginella heterostachys* Baker

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県は伊豆諸島、伊豆半島周辺を除けば分布域の東限である。県内では生育地が極めて少なく、開発により絶滅する可能性もある。

### 【形態】

常緑性の多年生シダ植物。茎は匍匐茎と直立茎があり、匍匐茎はよく分岐してマット状になり、葉を含めて幅 3～5mm、黄緑色でやわらかい。葉は 4 列に並び、ややゆがんだ卵形の腹葉と、狭卵形で先端が長く伸び反り返る背葉の 2 形がある。直立茎は夏から秋にみられ、分枝して高さ 5～15cm になり、匍匐茎のものよりやや大きい 2 形の葉をつける。胞子のう穂は直立茎の枝の先端に 1～2 個つく。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

足助(芹沢 81988)、知多南部(芹沢 62135)。各 1 カ所自生地が知られている。

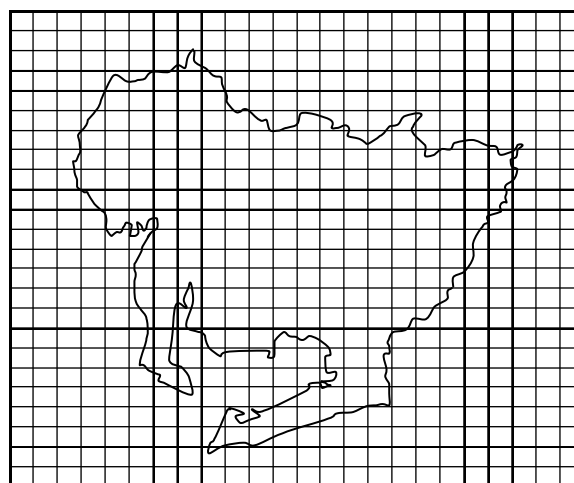
#### 【国内の分布】

本州(伊豆諸島、静岡県東部、および福井県以西)、四国、九州。静岡県西部からは知られていない。西南日本では普通に見られる種類である。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、ベトナム。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や山地の林縁の斜面、岩上などに生育する。明るい場所に多く、石垣などに生えていることもある。愛知県の生育地は、どちらも山すその道路わきの斜面である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

知多南部では 10m ほどの範囲に群生しており、個体数は比較的多い。足助は小群落である。現在のところ特に減少してはいないが、路傍のため、道路が拡幅されれば絶滅する。

### 【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。草刈りなど地形の改変を伴わない軽度の攪乱は、保全上むしろ望ましいと思われる。

### 【特記事項】

ヒメタチクラマゴケとも呼ばれる。

### 【関連文献】

保シダ p.20、平シダ p.16。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 140-150. 東京大学出版会, 東京。

## ヒロハハナヤスリ *Ophioglossum vulgatum* L.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の植物で、県内では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

小形の多年生草本。根茎はあまり発達せず、根をまばらに生じ、年に 1 枚、高さ 10~30cm (愛知県のもの高さ 15cm 程度) の葉を出す。共通柄は長さ 2~15cm である。栄養葉は無柄、葉身は広披針形~広卵形、長さ 6~12cm、幅 2.5~7cm、基部は孢子葉の柄を包み、葉質はやわらかく、全縁、葉脈は細かい網目をつくり、二次脈も鮮明である。孢子葉は長さ 10~20cm、孢子のう穂の長さは 3cm を超えることもある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊根 (小林 37497)、渥美 (小林 59438)、瀬戸尾張旭 (芹沢 81236)。豊橋北部 (馬越, 鳥居喜一 30328, 1954-4-29, HNSM) で採集された標本もある。

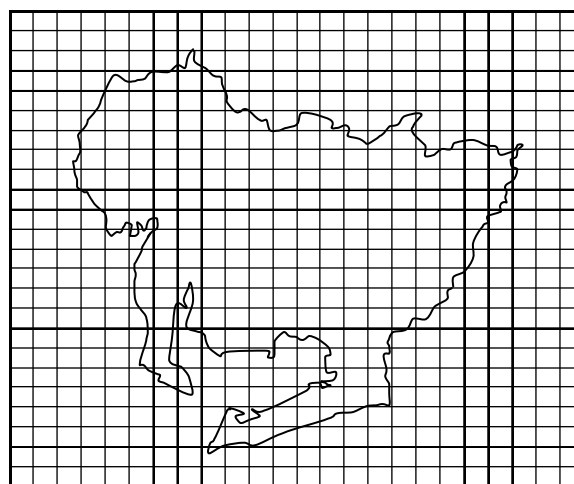
#### 【国内の分布】

北海道から九州の各地に生育するが、中部地方以北に多い。

#### 【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林の明るい林内や、林縁の草地などに生育する。4 月から葉を展開させ、夏には枯れてしまう。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊根では、かろうじて牧場化を免れた林内に残存している。渥美では遷移の進行による被陰で、生育状況が悪化している。一方で、開発や森林の伐採により消滅する可能性もある。

### 【保全上の留意点】

早春植物に似た年生活環を持つため、下草が茂りすぎると存続できなくなる。生育地の個別的な保全が必要である。

### 【特記事項】

ハルハナヤスリとも呼ばれる。

### 【関連文献】

保シダ p.31、平シダ p.63、SOS 旧版 p.36。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 278-283. 東京大学出版会, 東京。

タカサゴキジノオ *Plagiogyria adnata* (Blume) Bedd.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は太くて短く、斜上し、枯葉の基部が密につき、頂端に葉を束生する。栄養葉は放射状に開出し、葉柄は長さ 5~20cm、四角柱状、葉身は披針形で単羽状全裂し、長さ 20~50cm、幅は広いところで 10~15cm、羽片は独立せず、下部のものも上側が中軸に流れてつく。上部の羽片は次第に短くなり、頂羽片ははっきりしない。孢子葉は株の中央に直立し、栄養葉より高く伸びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山 (村松正雄 17176)。1カ所に小群落がある。蒲郡御津 (御堂山) で採集されたという記録 (倉田・中池, 1979) もある。

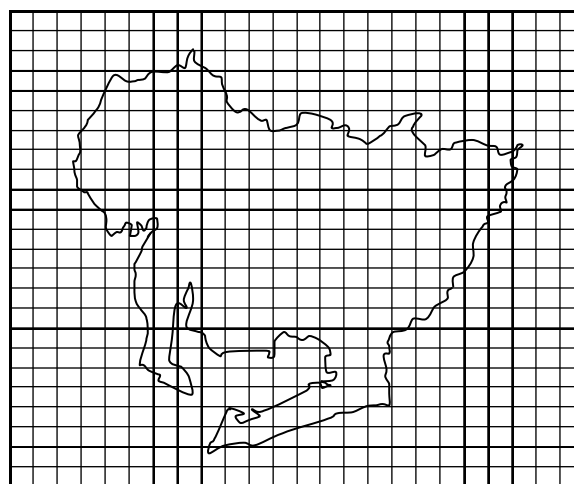
【国内の分布】

本州 (伊豆諸島、伊豆半島以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、フィリピン、マレーシア。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の沢沿いの照葉樹林、造林地などの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少なく、株も比較的小さい。生育地の近くに採石場があり、その拡大や森林の伐採による消滅が危惧される。周辺には、本種とキジノオシダとの自然雑種であるアイキジノオ *P. × wakabae* Sa. Kurata ex Nakaike も生育している。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

本種は岐阜県南部では点在するのに、愛知県では極めて少ない。乾燥気味の気候が、県内に少ない原因ではないかと思われる。

【引用文献】

倉田 悟・中池敏之 (編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 348-354. 東京大学出版会, 東京.

【関連文献】

保シダ p.69、平シダ p.76、SOS 旧版 p.37。

**ミカワコケシノブ** *Hymenophyllum mikawanum* (Seriz.) Seriz.

**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。東海地方西部の固有種で、自然度の高い森林に依存する植物である。

**【形態】**

小型の常緑性多年生草本。根茎は細い針金状で長くはう。葉柄は長さ 1.2～3cm、翼はほとんど発達せず、ある場合でも上端部にわずかにつく程度である。葉身は2回羽状に切れ込み、長さ 3～5.5cm、幅 1.3～3cm、裂片は比較的狭い角度で開出する。胞子のう群は葉の先端に集まってつき、包膜は三角状卵形～広披針形、長さ 1.3～2mm で、辺縁に欠刻状の著しい歯牙がある。包膜のへりに欠刻があることで、日本産の近似種から容易に区別できる。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

富山（芹沢 46815）、豊根（芹沢 77979）、津具（村松正雄 20809）、稲武（塚本威彦 2467）、旭（芹沢 30765-基準標本）。

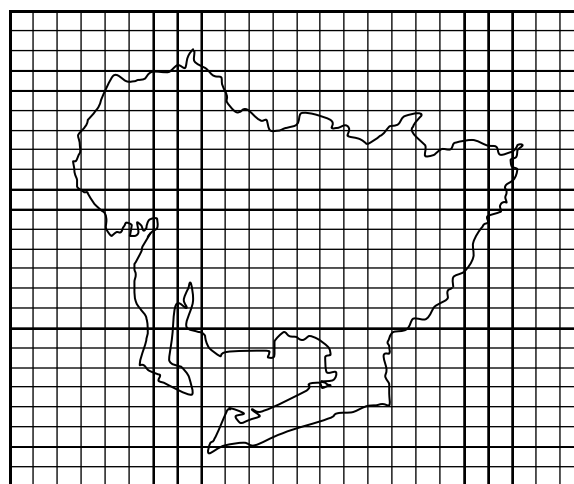
**【国内の分布】**

本州中部。既知の分布域は愛知県および岐阜県美濃地方であるが、静岡県西部にも生育しているのではないかとと思われる。

**【世界の分布】**

日本固有種。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

深山の林内。沢沿いの湿った岩上に生育し、しばしばマット状の群落を作る。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

東三河北部には点在するが、多いものではない。基準標本が採集された場所では大きな群落があったが、森林の伐採のため空中湿度が低下し、絶滅寸前である。

**【保全上の留意点】**

沢沿いの森林を保全し、空中湿度の高い状態を維持する必要がある。

**【特記事項】**

旭町産の標本に基づき、1983年に記載された種類である（芹沢, 1983）。線画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 9 に掲載されている。

**【引用文献】**

芹沢俊介, 1983. 本州産ホソバコケシノブ属の 1 新種. 植物研究雑誌 58: 62-64.

**【関連文献】**

SOS 旧版 p.37、SOS 新版 p.22,24.



フモトカグマ *Microlepia pseudo-strigosa* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 3。本州中部太平洋側の固有種で、愛知県は分布域の西限にあたる。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

緑性の多年生草本。根茎はやや短くはう。葉身は長楕円状披針形、長さ 30~60cm、幅 15~30cm。羽片は羽状複生し、基部付近では小羽片は独立する。イシカグマの切れ込みが浅いものとも似ているが、羽軸の表面が有毛で、包膜の前縁が裂片の辺縁から離れている点で異なる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（芹沢 82610）、豊橋北部（芹沢 50878）、田原赤羽根（犬飼 清 11936）、知多南部（芹沢 62694）。

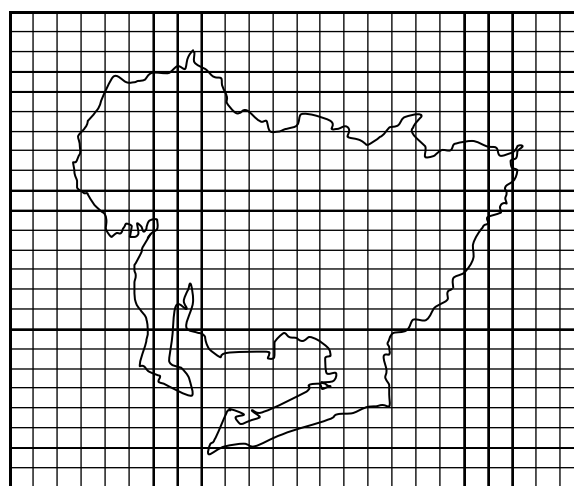
【国内の分布】

本州中部（関東地方南部、静岡県、愛知県）。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの造林地や二次林の林内に生育する。特に石灰岩地を好む植物というわけではないが、豊橋北部と田原赤羽根の生育地は石灰岩地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊川宝飯には比較的大きい群落がある。この場所は 20 年くらい前には少なくとも現在ほどはなかったはずで、比較的近年に形成された群落である。知多南部の自生地でもよく生育した株が点在している。しかしどちらも造林地なので、そのうちに伐採される可能性がある。他の 2 カ所の生育状況はよくない。田原赤羽根では最近の状況が確認されていないが、石灰岩の採掘により絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

フモトシダとイシカグマの中間的な特徴を持つ 6 倍体植物で、両者の雑種起源と推定されている。F<sub>1</sub> 雑種であるクジャクフモトシダ *M. × bipinnata* (Makino) Shimura は、小羽片が多少なりとも羽軸に沿着する点で本種から区別される。

【関連文献】

保シダ p.50、平シダ p.103、SOS 旧版 p.37。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 166-169. 東京大学出版会, 東京。

ナカミシシラン *Vittaria fudzinoi* Makino

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本から中国大陸南部にかけての湿潤な山地に分布の中心をもつ、いわゆる日華区系の植物。愛知県では生育地が少なく、また自然度の高い場所に限定されている。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く匍匐し、線状披針形、灰褐色～暗褐色で格子状の鱗片を密につける。葉は接近してつき、葉柄ははっきりせず、葉身は線形の単葉、先端に向けて次第に狭くなり、長さ 25～45cm、幅 3～5mm、厚くて肉質、葉の表面の中肋両側には 2 本の明瞭な溝がある。胞子のう群は葉縁と中肋の中間の浅い溝につく。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武（芹沢 30773）、設楽西部（村松正雄 90-270）、旭（芹沢 31492）。ただし稲武と旭はほぼ絶滅状態である。

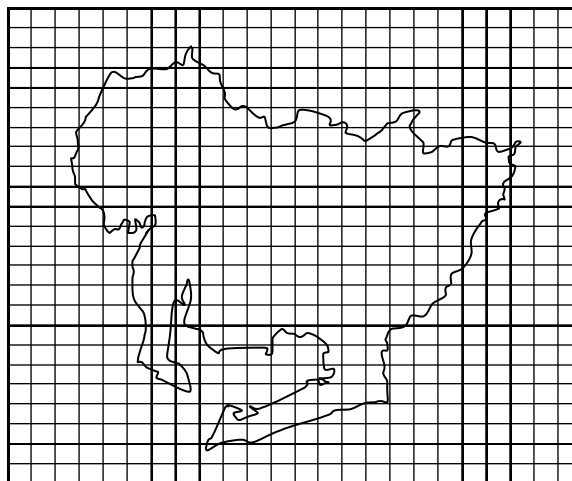
【国内の分布】

本州（東京都奥多摩および中部地方以西）、四国、九州の山地に分布する。

【世界の分布】

日本および中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの、岩上や樹幹に着生する。通常は深山の空中湿度の高い場所に限られている。愛知県では岩上に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

一般に小群落を作っている。稲武には大きな群落があったが、森林が伐採されたため、ほとんど絶滅状態になってしまった。

【保全上の留意点】

渓谷林の保全に、特に配慮する必要がある。

【特記事項】

シシランに比べ、葉は細くて厚く、表面に 2 本の溝がある。和名は、胞子のう群が葉縁の内側につくからである。

【関連文献】

保シダ p.169、平シダ p.130、SOS 旧版 p.38。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1987. 日本のシダ植物図鑑 5: 766-769. 東京大学出版会, 東京.

ホウビシダ *Asplenium hondoense* Murakami et Hatanaka

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は長く横走り、直径 2～3mm、上面からまばらに葉を出す。葉柄は長さ 10～25cm、赤褐色～紫褐色で光沢がある。葉身は披針形から長楕円状披針形、単羽状に切れ込み、長さ 10～20cm、幅 4cm くらいのごとが多く、先端は鋭尖頭になる。羽片は 15～20 対、丸みのある長い四辺形、長さ 3cm、幅 1cm 程度、基部は前側が切形かやや耳形、後側は狭いくさび形になる。孢子のう群は長さ 4～6mm、羽片の中肋近くにつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（鈴木 清 s.n.）、鳳来南部（芹沢 83833）。3 カ所に小群落がある。

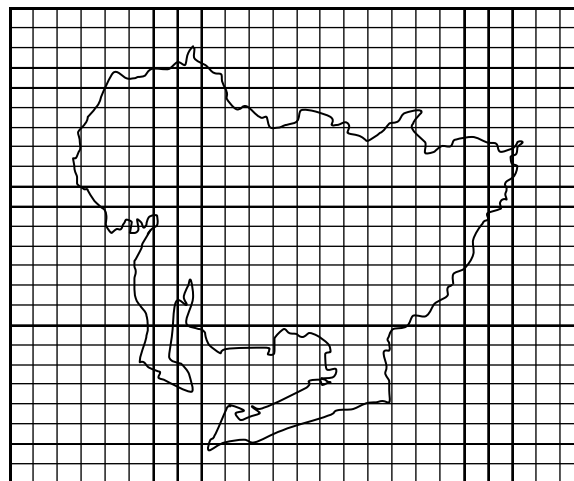
【国内の分布】

本州（石川県、千葉県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本、韓国（済州島）、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の沢沿いの、湿った岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小群落であるが、生育状況は良好である。現在のところ特に減少しているわけではないが、伐採や鉄砲水で絶滅する可能性がある。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林の保全が必要である。

【特記事項】

愛知県では、もっとあってもよさそうであるが、実際には生育地の少ないシダ植物である。ナンゴクホウビシダ *A. cataractarum* Rosenst. は羽片が鎌形に曲がり、孢子のう群は辺縁よりにつくもので、伊豆諸島および紀伊半島以西に分布している。

【関連文献】

平シダ p.151、SOS 旧版 p.38。

オクタマシダ *Asplenium pseudo-wilfordii* Tagawa

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。深山性のシダ植物で、愛知県では点在しているが、どこも個体数が少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は直立または斜上し、葉を束生する。葉柄は長さ 8~15cm、背面は緑色、腹面は紫褐色、黄部はやや密に、上部はまばらに披針形の小さい鱗片をつける。葉身は広披針形、2回羽状に切れ込み、長さ 10~25cm、幅 3~7cm、先端は鋭尖頭になる。羽片は 10~15 対、長さ 5mm に達する柄があり、小羽片は 2~4 対、基部上側のものは羽状に中~全裂する。胞子のう群は長さ 1.5~4mm、裂片の中肋と辺縁の中間、またはやや中肋寄りにつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (芹沢 46800)、豊根 (山崎玲子 724)、東栄 (芹沢 79351)、設楽西部 (芹沢 82598)、設楽東部 (芹沢 64509)、鳳来北東部 (芹沢 83842)、新城 (小林 31230)、犬山 (村瀬正成 4881)、春日井 (日比野修 2019)。津具と稲武にもあるという (小林, 2006)。

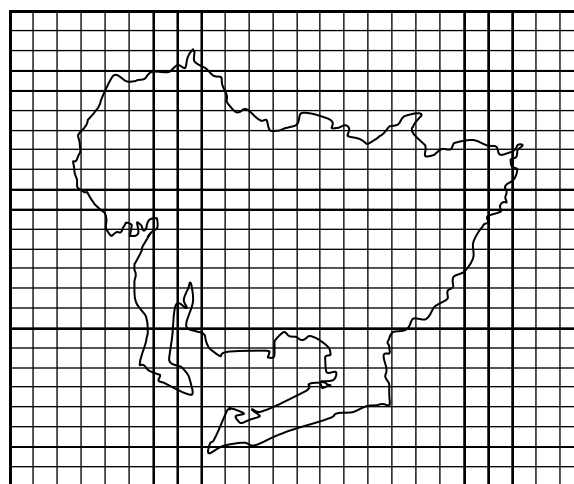
【国内の分布】

本州 (東北地方南部以南)、四国、九州 (宮崎県)。

【世界の分布】

日本、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

空中湿度の高い沢沿いの岩壁の、しかし岩自体はそれほど過湿でない場所に着生する。樹幹に着生することもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

産地は比較的多いが、どこでも個体数は少ない。一部の場所では、夏の高湿乾燥傾向の影響を受けて衰退している。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林の保全が必要である。

【特記事項】

自生地には、しばしば本種とトキワシダとの雑種であるミサクボシダ *A. × iidanum* (Sa.Kurata) Shimura et Takiguchi も生育している。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.108. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保シダ 151、平シダ p.147-148.

コタニワタリ *Asplenium scolopendrium* L.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性で日本海側に多い植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く、葉を束生する。葉柄は長さ 3~12cm、褐色~暗褐色でやや密に鱗片がある。葉身は単葉で披針形、長さ 12~50cm、幅 3~6cm、先端は鋭頭、下部はやや狭くなり、基部は心形で両側に耳片をつくる。葉質はやや多肉質で緑色、下面に鱗片がある。葉脈は遊離し、先端は辺縁に達しない。胞子のう群は線形で長さ 4~18mm、中肋の両側にならんでつく。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 76237）、作手（加藤等次 4527）。

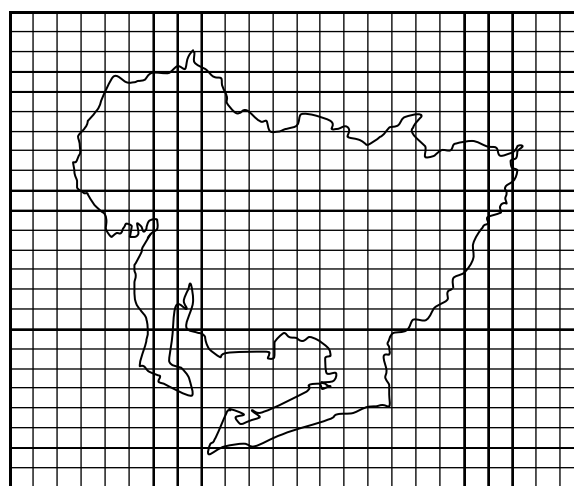
【国内の分布】

北海道から九州までの温帯域に生育するが、本州中部以西の太平洋側では少ない。日本海側では比較的多く見られる種類である。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林内の地上や岩上に生育する。愛知県では 2 カ所とも古い石垣に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

作手は小群落だが、設楽西部は小株が 1 株あるだけである。現在のところ特に減少しているわけではないが、道路の拡幅等により石垣が改修されれば絶滅する。また、園芸目的の採取、伐採、鉄砲水などで消滅する可能性がある。

【保全上の留意点】

道路の改修に際しては、特に注意が必要である。園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

独立属 *Phyllitis* とされることもある。

【関連文献】

保シダ p.153、平シダ p.142、SOS 旧版 p.39。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 174-183. 東京大学出版会, 東京.

ヒロハヤブソテツ *Cyrtomium macrophyllum* (Makino) Tagawa

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。日本から中国大陸南部にかけての暖帯域に分布の中心をもつ、いわゆる日華区系の植物。県内では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は斜上し、少数の葉を束生する。葉柄は長さ 20~30cm、基部の鱗片は暗褐色で比較的硬く、長さ 1cm 程度である。葉身は頂羽片のはっきりした単羽状複生で、側羽片は 2~8 対、大きな側羽片は卵形から卵状長楕円形で基部は丸く、先端は鋭尖頭である。葉質は紙質で淡緑色、葉脈は網状である。胞子のう群は葉裏に散在し、包膜は円形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽東部（小林 53666）。1 カ所に小群落がある。

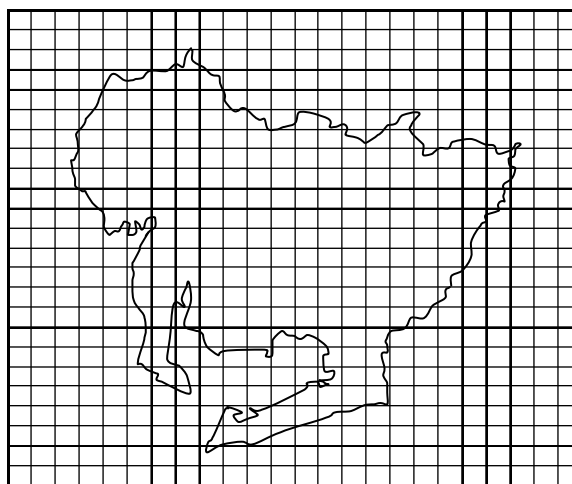
【国内の分布】

本州（新潟県、千葉県以西）、四国、九州に生育しているが、それほど多いものではない。

【世界の分布】

日本から中国大陸、ヒマラヤにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林内。岩の多い場所に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

道路わきの林内のガレ場に、少数株が生育しているという。道路の拡幅や森林の伐採により、絶滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。道路を改修する際には、特に注意を要する。

【特記事項】

同属のメヤブソテツ *C. caryotideum* (Wall. ex Hook. et Grev.) Presl は愛知県では偶産的な種で、鳳来北東部と作手でそれぞれ 1 株の生育が確認されているにすぎない。

【関連文献】

保シダ p.85、平シダ p.164、SOS 旧版 p.39。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 418-423. 東京大学出版会, 東京.

**サクライカグマ *Dryopteris gymnohylla* (Baker) C.Chr.**

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に見てもそれほど多くない種類である。愛知県ではほとんどの生育地が人里近くで、人為的影響を受けやすい。

**【形態】**

常緑性の多年生草本。根茎は短く、先端に少数の葉をつける。葉柄は淡緑色からわら色、基部だけに鱗片があり、長さ 40cm に達する。葉身は五角状広卵形、3 回羽状深～全裂、長さ 20～40cm、幅 15～30cm、最下羽片は大きく、非相称の三角状長楕円形で長い柄がつき、下向き第 1 小羽片は長くのびる。第 2 羽片より上は急激に小さくなり、葉身の先端は長い鋭尖頭となる。中軸や羽軸には鱗片が残らない。孢子のう群は裂片の中肋と辺縁の中間につき、包膜は円腎形である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

稲武（芹沢 30755）、設楽西部（芹沢 62947）、旭（芹沢 62486）、足助（村松正雄 24387）、豊田東部（芹沢 68885）。豊田北西部（猿投山，岡本英一 51, 1958-4-1）で採集された標本もある。

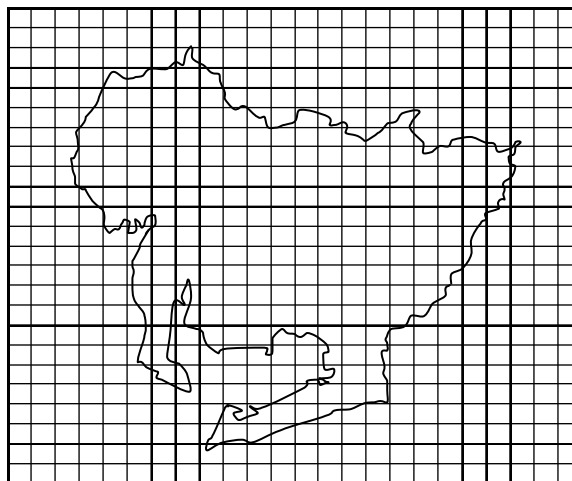
**【国内の分布】**

本州（東北地方南部～近畿地方）に点在し、中国地方（広島県）と九州（大分県）にも稀産する。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、中国大陸、タイ北部。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

道路わきなどの、やや乾燥した林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

点在するが、どの場所でも個体数はそれほど多くない。比較的人里近くの路傍に多いため、道路の拡幅などの影響で著しく減少し、最近ではあまり見かけない植物になっている。

**【保全上の留意点】**

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。道路の改修に際しては、特に注意を要する。

**【特記事項】**

和名は、発見者の桜井半三郎氏に因む。

**【関連文献】**

保シダ p.99、平シダ p.191。

倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 448-451. 東京大学出版会, 東京

**ワカナシダ** *Dryopteris pycnopteroides* (Christ) C.Chr.

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本列島で多様に分化しているイワヘゴ群の 1 種で、愛知県では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

**【形態】**

常緑性の多年生草本。根茎は短く、斜上または直立して葉を束生する。葉柄は長さ 25～40cm、基部の鱗片は黒褐色～褐色で辺縁に突起がある。葉身は単羽状、倒披針形から長楕円状倒披針形、長さ 40～80cm、幅 15～25cm、先端は鋭尖頭で、下部の羽片はやや短くなる。羽片は中裂し、裂片の間は逆三角状に開き、葉脈の表面はややくぼむ。胞子のう群は裂片のやや中肋よりにつき、包膜は円腎形である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

新城（芹沢 62419）、豊川宝飯（瀧崎吉伸 17867）、豊橋北部（小林 69134）、瀬戸尾張旭（日比野修 5401）。

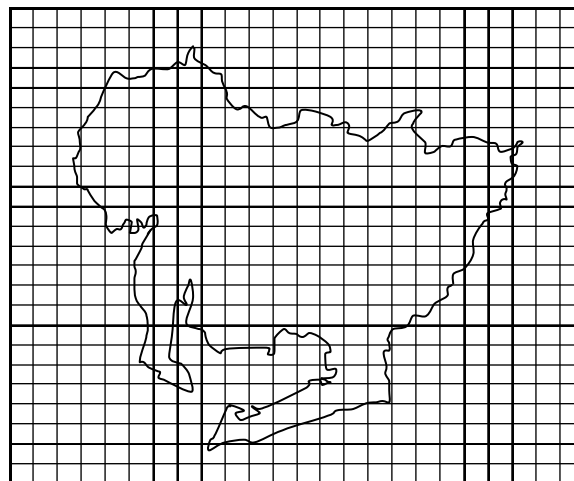
**【国内の分布】**

本州（群馬県以西）、四国、九州に生育するが、多いものではない。

**【世界の分布】**

日本および中国大陸。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

湿度がよく保たれた造林地、二次林などの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

シカの食害や砂防工事などにより、大きな影響を受けている。豊川宝飯の自生地のうち 1 カ所はシカ食害によりほぼ全滅し、他の 1 カ所も砂防ダム建設により激減した。

**【保全上の留意点】**

生育地の個別的な保全が必要である。

**【特記事項】**

本種が中国大陸で記載された上記学名の植物と同一であるかどうかについては、異説もあり、今後詳細な検討が必要である。

**【関連文献】**

平シダ p.187、SOS 旧版 39。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1985. 日本のシダ植物図鑑 4: 478-481. 東京大学出版会, 東京.



オワセベニシダ *Dryopteris ryo-itoana* Sa.Kurata

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。西南日本で多様に分化しているベニシダ群の 1 種で、本州西部と四国の固有種であり、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は塊状となり、少数の葉を束生する。葉柄は長さ 20~30cm、わら色または暗褐色、やや密に鱗片がある。鱗片は赤褐色~黄褐色で、辺縁に微突起がある。葉身は三角状卵形で 2 回羽状複生、大きいものは長さ 40cm をこえる。羽片はほぼ対生し、ほとんど無柄、羽軸は中軸からほぼ直角に出て鎌形に曲がる。最下羽片の下側第 1 小羽片は、次の小羽片より多少長くなる。胞子のう群は小羽片の辺縁と中肋の中間につき、包膜は円腎形、中央部が紅色となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北西部(村松正雄 15860)、犬山(村松正雄 90-143)、豊川宝飯(村松正雄 20551)、瀬戸尾張旭(芹沢 74721)。鳳来北西部では 1 カ所、犬山では 2 カ所に小群落があるが、豊川宝飯と瀬戸尾張旭では 1 株が確認されただけである。岐阜県南部には点在する。

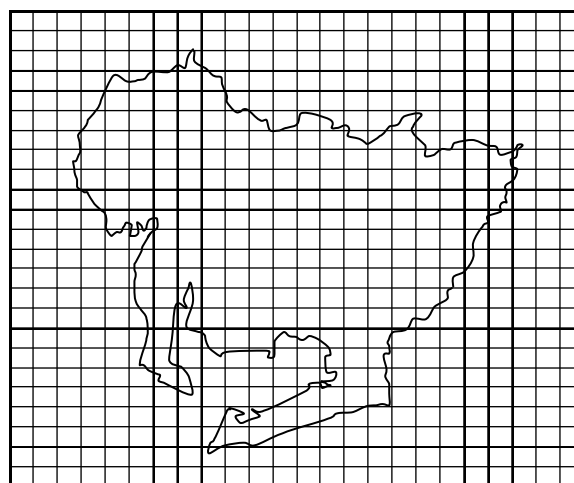
【国内の分布】

本州(東海地方、紀伊半島、山口県)、四国。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常林内の岩場に生育するが、瀬戸尾張旭では造林地の林床に生育していた。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ特に減少しているわけではないが、森林の伐採などにより絶滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

沢沿いの森林の保全が必要である。

【特記事項】

サイコクベニシダ *D. championii* (Benth.) C.Chr. ex Ching とタヌキシダ *D. labordei* (Christ) C.Chr. の中間的な特徴を持つ植物である。

【関連文献】

平シダ p.196、SOS 旧版 p.39、SOS 新版 p.35,37。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 476-479. 東京大学出版会, 東京。

ツクシヤワラシダ *Thelypteris hattorii* (H.Ito) Tagawa var. *nemoralis* (Ching) Sa.Kurata

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。日華区系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内の生育地も少ない。

【形態】

夏緑性の多年生草本。基準変種のヨコグラヒメワラビ var. *hattorii* (146 頁) に似ているが、葉身はやや幅が狭く、切れ込みがやや浅く、小羽片は浅～中裂、葉柄は表側だけに短毛があり、裏側は無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部 (小林 65451)、鳳来北西部 (小林 58200)、作手 (小林 55158)、犬山 (芹沢 78429)。注意して探索すれば、生育地は更に追加されるものと思われる。

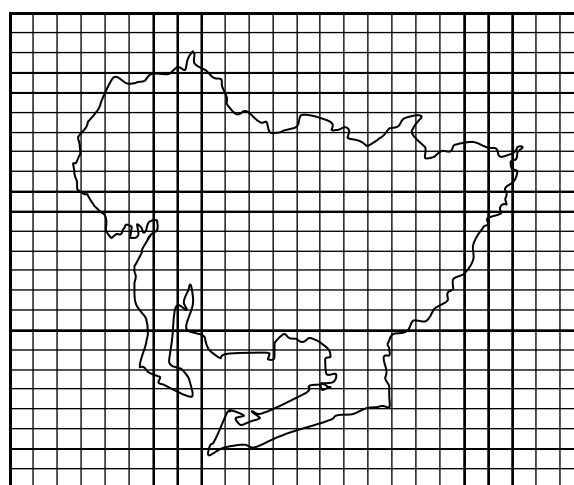
【国内の分布】

本州 (愛知県、岐阜県、奈良県、広島県)、四国 (愛媛県)、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の腐植質の多い林床に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所でも個体数は少ない。森林の伐採や林道の拡幅により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

本変種はヨコグラヒメワラビ var. *hattorii* とヤワラシダ *T. laxa* (Franch. et Sav.) Ching の中間的な性質を持っており、時にヤワラシダの深裂型とまぎらわしくなることがある。

【関連文献】

平シダ p.213。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 582-585. 東京大学出版会, 東京.

ミドリワラビ *Deparia viridifrons* (Makino) M.Kato

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に見てもそれほど多くない種類で、県内でも生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く横走り、葉を接近してつける。葉柄は長さ 40~60cm、葉身は三角状広卵形、長さ 30~70cm、幅 25~60cm、やや薄い草質で、3回羽状に切れ込む。小羽片は広披針形から卵状披針形、羽状に深く切れ込み、中軸の翼がはっきりしている。胞子のう群は裂片の中肋近くにつき、長さ 1mm 以下である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (芹沢 72233)、旭 (芹沢 61663)。各 1カ所に小群落がある。

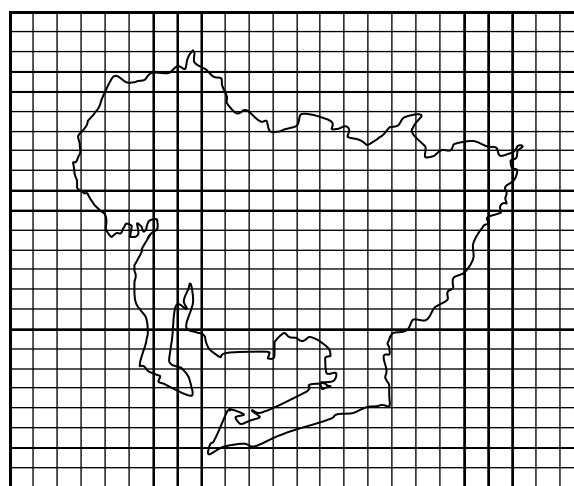
【国内の分布】

本州 (日本海側を除く)、四国、九州に分布するが、多いものではない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、中国大陸中部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの湿った林内。愛知県の自生地は、どちらも造林地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

旭の群落は発育良好だが、富山の群落は林内の光条件が悪化し、衰退気味である。造林地の手入れ不足が衰退の原因になっている反面、伐採により消滅するおそれもある。また富山の自生地周辺では、シカによる林床植物の食害が著しい。ごく最近の状況は確認できなかったが、すでに絶滅した可能性もある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。個体数調整などの草食獣の増加への対策も、緊急を要する課題である。

【特記事項】

オオヒメワラビ *D. okuboana* (Makino) M.Kato に似るが、葉の切れ込みが深い。

【関連文献】

保シダ p.131、平シダ p.244、SOS 旧版 p.40。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1990. 日本のシダ植物図鑑 6: 852-855. 東京大学出版会, 東京。

ウスバシケシダ *Deparia* sp.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。人里周辺に生育する未記載の植物で、愛知県が分布域の中心になっている。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は細く、長くは、1~2cm 間隔で葉を出す。葉柄は孢子をよくつけた葉で長さ 20~40cm になる。葉身は広披針形~三角形、長さ 25~40cm、幅 13~25cm、草質、2 回羽状に切れ込む。羽片は 8~10 対、下部のものはほぼ直角に、中部のものも広い角度で開出し、羽状に深裂し、裂片は円~鈍頭で辺縁に比較的目立つ鋸歯があり、裏面は脈上に多細胞毛があるほかは無毛である。孢子のう群は半月形、長さ 1~3mm、裂片の中肋よりにならないでつき、包膜は無毛、辺縁は若時内側に折れる。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手（芹沢 42094）、豊川宝飯（犬飼 清 10176）、田原赤羽根（小林 72169）、瀬戸尾張旭（芹沢 82032）、名古屋北部（芹沢 76998）、名古屋南東部（芹沢 77734）、一宮木曾川（村松正雄 89-193）。犬山（栗栖、芹沢 53769, 1989-10-6）にもあったが絶滅した。初期の発見地である小牧（小牧山北麓、村松正雄 76-267, 1976-9-15）と海部西部（津島市津島神社、村松正雄 78-522, 1978-10-7）でも、現存は確認できない。

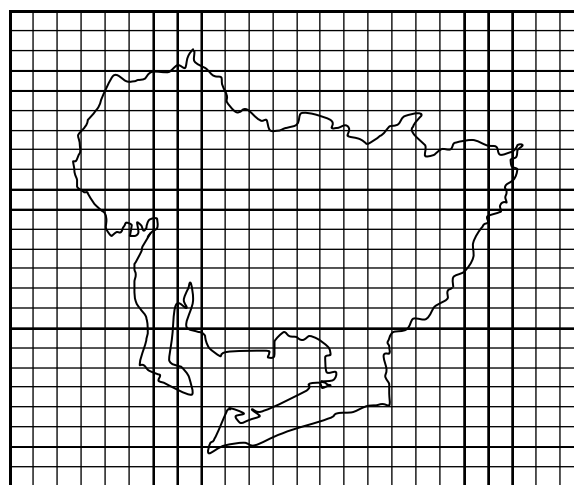
【国内の分布】

本州および九州。濃尾平野とその周辺の丘陵地に点在するほか、和歌山県、宮崎県、鹿児島県にも各 1 カ所自生地がある。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

社寺境内、河川敷などのやぶ、丘陵地の林縁などに生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

一宮木曾川は比較的大きな群落があるが、他は小群落が点在するのみである。犬山は治山工事に伴う地形改変により絶滅した。また、小牧は公園整備、海部西部は境内整備のため、自生地が破壊された。名古屋北部も自生地が開発計画にかかっており、存続が懸念される。

【保全上の留意点】

人里周辺であるが、自然環境が良好な場所に生育している。本種が生育している場所は、そのような意味でも保全の必要性が高い。僅かな残存緑地に生育していることもあり、絶滅区画でも今後新たな自生地が発見される可能性はある。

【特記事項】

発見の経緯は、芹沢（1995）に述べられている。線画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 10 に掲載されている。

【引用文献】

芹沢俊介, 1995. エコロジーガイド 人里の自然 p.153-154. 保育社, 大阪.

【関連文献】

SOS 旧版 p.41、SOS 新版 p.202,205.

イワヤシダ *Diplazium cavalerianum* (Christ) M.Kato

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。西南日本から中国大陸にかけての暖帯に分布する日華区系の植物で、県内では生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は直立または斜上し、葉を束生する。葉はやや 2 形になり、胞子のうをつける葉は葉柄が長く、直立し、つけない葉は葉柄が短く、葉身は開出または斜上してつく。葉柄は長さ 30~60cm、葉身は披針形~広披針形、頂羽片の明確な単羽状複葉、長さ 30~70cm、幅 15~30cm、草質、側羽片は 8~12 対、三角状狭披針形、基部はくさび形~切形で無柄、先端は次第に狭くなり鋭尖頭、葉脈は結合して網状となる。胞子のう群は中肋近くに並び、包膜は胞子のう群を包み込んでソーセージ状となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部 (小林 58791)、鳳来南部 (堀田喜久 s.n.)。

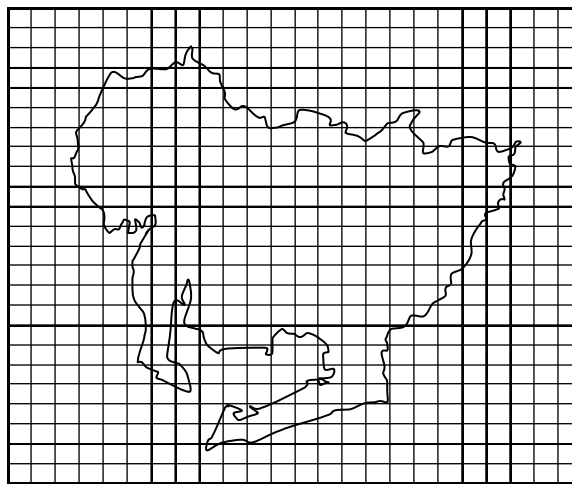
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの陰湿な林内。愛知県の自生地はいずれも造林地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

鳳来南部は小群落があったが、ごく最近の状況は確認されていない。鳳来北部では数十株が生育していたが、最近激減し、数株を残すだけになってしまったという。原因としては、夏の高湿乾燥化傾向が考えられる。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているものではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

和名は、国内で最初に発見された愛媛県岩屋寺に因む。ノコギリシダ属の中ではやや変わった形態を持つ種であり、独立属 *Diplaziopsis* とされることもある。

【関連文献】

保シダ p.141、平シダ p.258。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 68-72. 東京大学出版会, 東京.

ウスバミヤマノコギリシダ *Diplazium deciduum* N.Ohta et M.Takamiya

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。本来は深山性の植物で、県内では生育地が少なく、また森林伐採により減少している。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く、または長くはい、少数の葉をつける。葉柄は長さ 20～35cm、下部に褐色の鱗片をつける。葉身は長卵形～三角状広卵形、2 回羽状中～深裂、鋭尖頭、長さ 25～40cm、幅 18～30cm、羽片は 6～8 対、最下のものは最も長く深裂し、短い柄がある。孢子のう群は裂片の中肋に接してつき、長いものは 8mm くらいになる。ミヤマノコギリシダの変種とされているが、独立種とすべきものという見解もある。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 76238）、瀬戸尾張旭（芹沢 74806）、犬山（久野鉦一 s.n.）、春日井（日比野修 3024）。それぞれ 1 カ所に 1～数群落があるだけである。

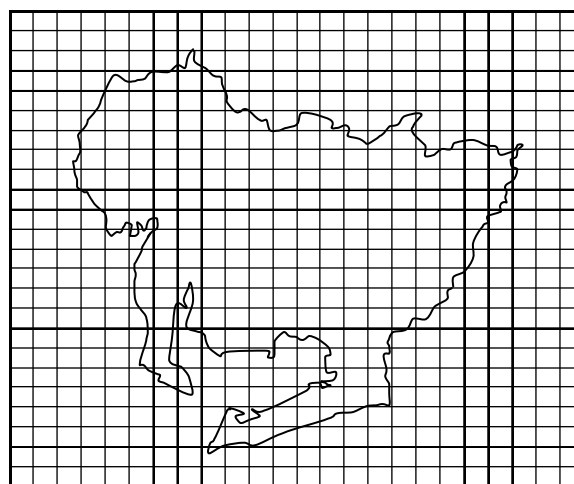
【国内の分布】

本州（伊豆半島以西）、四国、九州の山地に分布する。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

一般的には、深山性の植物である。愛知県の場合、設楽西部は温帯林の林床であるが、尾張の 3 区画は本種の生育地としては例外的な平野近くの浅い山で、造林地の林内に生育している。いずれも孢子は正常で、雑種性のものではない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

設楽西部では、自然林の伐採が進む前はかなり生育していたようであるが、現在ではわずかに残存しているだけである。尾張の生育地はいずれも小群落で、伐採や開発により失われる可能性がある。

【保全上の留意点】

尾張の生育地については、特に個別的な保全が必要である。

【特記事項】

設楽西部は本種の典型的な生育地として、また尾張の 3 区画は例外的な生育地として、ともに重要である。本種とキョウタキシダの自然雑種であるダンドシダ *D. × torianum* Sa.Kurata は、設楽西部（段戸山本谷）で最初に発見され、記載されたものである。現地には比較的大きな 1 群落があったというが、伐採のため絶滅した。

【関連文献】

平シダ p.253.  
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 120-124. 東京大学出版会, 東京.

コクモウクジャク *Diplazium virescens* Kunze

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、分布域の北限に近い。県内では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は横走し、少数の葉をつける。葉柄は長さ 30～50cm、基部に黒褐色の鱗片がつく。葉身は三角形～卵状三角形、2回羽状複生、長さ、幅ともに 30～75cm、下部の羽片には長い柄がある。小羽片は披針形～三角状披針形、基部はほとんど切形、短い柄があり、羽状に浅裂～中裂する。裂片は円頭で、小脈は通常分岐しない。胞子のう群は長楕円形～線形、中肋と辺縁の中間につく。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（小林 63063）、豊橋北部（小林 66763）、幸田（小林 59092）。

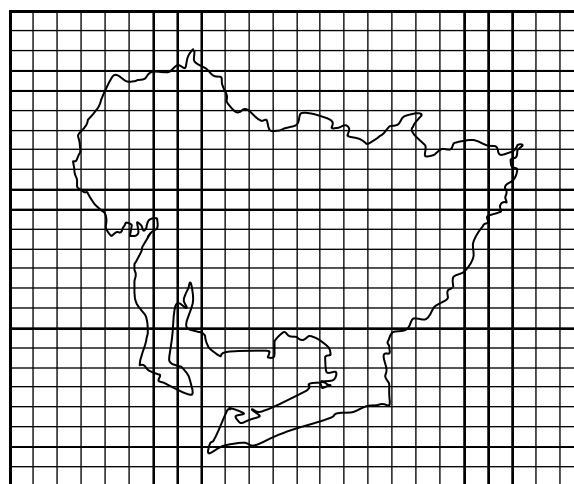
【国内の分布】

本州（伊豆諸島、伊豆半島、東海地方、紀伊半島）、四国、九州、琉球、小笠原。紀伊半島南部では比較的多い植物である。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、インドシナ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の低山地の、通常沢沿いの林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

3区画に、それぞれ小群落があるだけである。愛知県のは比較的小形で、胞子のう群もあまりつけていない。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているわけではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

シロヤマシダに似ているが、葉柄基部に黒褐色の鱗片がある。和名の「コクモウ」は、この鱗片（つまり、本当は毛ではない）に基づく。「クジャク」は羽片がやや放射状に広がることから名付けられたと思われるが、適切とは言い難い。

【関連文献】

保シダ p.138、平シダ p.254。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1983. 日本のシダ植物図鑑 3: 210-214. 東京大学出版会, 東京。

コガネシダ *Woodsia macrochlaena* Mett. ex Kuhn

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に見てもそれほど多くない植物で、県内でも生育地、個体数共に少ない上、園芸目的で採取されるおそれもある。

【形態】

夏緑性の多年生草本。根茎は短く斜上または直立し、先端に葉を束生する。葉柄は褐色～赤褐色で長さ 3～10cm。葉身は葉柄より長く、長楕円状披針形で 2 回羽状中～深裂、長さ 5～15cm、幅 2～5cm、葉質は草質でやわらかく、黄緑色～淡緑色である。羽片は卵形～卵状長楕円形で、無柄か、基部が中軸に流れる。裂片は長楕円形で円頭、表裏とも白い毛がある。胞子のう群は裂片の辺縁近くにつき、包膜は胞子のう群を包み込む。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 82148）、東栄（小林 38793）、設楽西部（小林 47519）。設楽東部（岩古谷、鳥居喜一 31339, 1976-9-16, HNSM）にもあったが絶滅した。

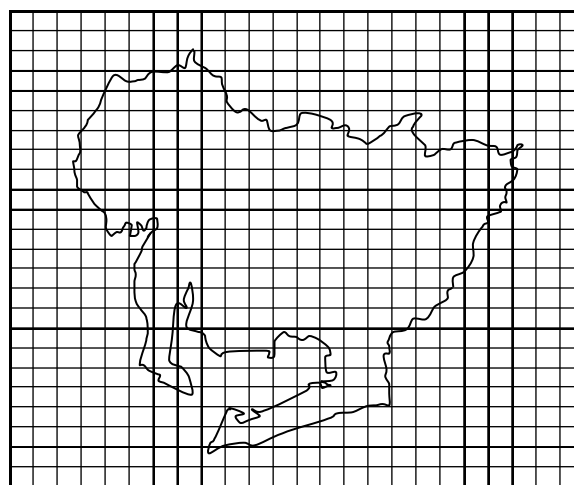
【国内の分布】

本州、四国、九州の山地に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の森林におおわれた、あるいは半日陰の岩場に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

設楽東部には葉身の長さ 12cm に達するものが小群落を作って生育していたが、道路の改修のために生育地が削られて絶滅した。他の 3 ヲ所も小群落で、個体数は少ない。「黄金シダ」というほどのシダではないが、名前につられての園芸目的の採取が最も危惧される。

【保全上の留意点】

園芸目的で採取される可能性があるため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【関連文献】

保シダ p.76、平シダ p.225、SOS 旧版 p.42。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1979. 日本のシダ植物図鑑 1: 610-614. 東京大学出版会, 東京.



イワオモダカ *Pyrrhosia hastata* (Thunb.) Ching

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。東アジアの固有種で、園芸目的の採取と開発により激減している。

【形態】

常緑性の多年生草本。根茎は短く横走り、接近して葉をつける。葉柄は長さ 12~25cm である。葉身は 3 裂し、側裂片は通常更に 2 裂して全体として細長い掌状になり、長さ 5~15cm、幅 3.5~12cm。中央の裂片は三角状披針形~披針形で、基部か中央が最も幅広く、先端に向けて狭くなる。葉裏は褐色の星状毛で密に覆われる。胞子のう群は主側脈の間に 3~7 列に並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄 (小林 61305)、鳳来北東部 (小林 58169)、稲武 (塚本威彦 2691)、小原 (日比野修 3273)、犬山 (芹沢 38809)。新城 (桜淵, 加藤等次 s.n., 1966-1-6)、旭 (伊熊, 大原準之助 s.n., 1964-8-26) で採集された標本もある。

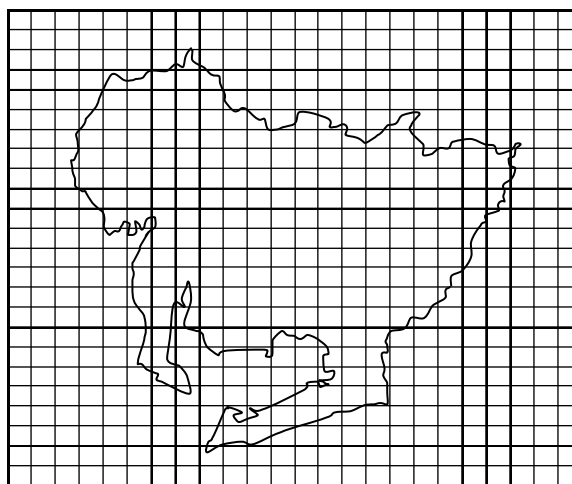
【国内の分布】

北海道から九州まで広く分布する。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

岩崖地に着生したり、森林の樹幹に着生したりする。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

古くから園芸栽培の対象となっている植物で、愛知県ではもともとあまり多くない上に、採取により減少している。森林の伐採により消失した事例もある。犬山ではかなり個体数が多かったが、多量に持ち去られた上、開発により地形が改変され、現在ではほとんど残っていない。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、常時監視できない場所については、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ヒトツバ属の中で葉が掌状に切れ込む種は、本種と台湾のモミジヒトツバだけである。本種とビロードシダとの自然雑種であるヤツシロヒトツバ *P. × nipponica* Beppu et Seriz. は、愛知県鳳来町で初めて発見され、中国大陸のイワダレヒトツバにあてられたことがある。この雑種は今のところ愛知県内で現存を確認できず、県内では絶滅したものと思われる。

【関連文献】

保シダ p.161、平シダ p.263。  
倉田 悟・中池敏之(編), 1981. 日本のシダ植物図鑑 2: 624-629. 東京大学出版会, 東京.

ハリモミ *Picea polita* (Sieb. et Zucc.) Carr.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の樹木で、自然林の構成樹種である。愛知県では生育地、個体数ともに少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ約 30m、直径約 1m になる。樹皮は灰褐色で不ぞろいに裂け、鱗片状になってはがれる。若枝は淡黄褐色で毛がなく、光沢がある。葉は線形、長さ 15～20mm、幅 1.5～2.5mm、少し内側に曲がり、先端は鋭くとがり、横断面は四角形で 4 面に白色の気孔帯がある。花期は 5～6 月、雄花は狭長楕円形で紅紫色である。毬果ははじめ上向きであるが、のちに下垂してその年の秋に熟し、卵状長楕円形で先は丸く、黄緑色、長さ 8～10cm、直径約 4.5cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 44820)、豊根 (芹沢 77984)、設楽西部 (小林 36190)。3 区画に生育しているが、個体数はごく少ない。

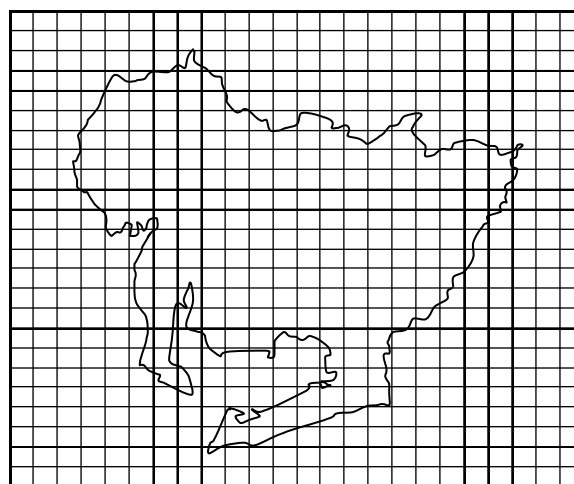
【国内の分布】

本州 (福島県以南)、四国、九州。富士山麓には純林があり、国の天然記念物として保護されている。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

トウヒ属としては最も低いところに生育し、一般にあまり群生しない。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

自然林内に点在しているだけで、高木であるだけに成木の個体数は更に少ない。拡大造林のため自然林が広範囲に伐採された時代に、相当減少したと思われる。

【保全上の留意点】

自然林は愛知県では僅かに残存するだけであり、現在残っている林は嚴重に保全する必要がある。本種の場合は、個体レベルでの個別的な保全も必要である。

【特記事項】

日本産のトウヒ属の中では葉が最も太くて硬く、ハリモミの名はそれに由来する。

【関連文献】

保木Ⅱ p.434、平木Ⅰ p.12、SOS 旧版 p.43+図版 2、SOS 新版 p.15,17。

## ハイネズ *Juniperus conferta* Parl.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。海岸部の自然植生を特徴づける種であり、太平洋側の分布域の西限にも近い。なお、ここで絶滅危惧Ⅱ類としているのは遺伝的に純粋な集団についてであり、オキアガリネズは対象外である。

### 【形態】

常緑性の低木。ネズミサシ *J. rigida* Sieb. et Zucc. に似るが、幹は地をはい、分枝して四方に広がる。葉は針形状で3輪生し、長さ10~18mm、先はとがって硬く、触れると痛い。表面に深い白色の気孔帯がある。雌雄異株で、花期は4~5月、雄花は楕円形で長さ4~4.5mmである。毬果は翌年の秋に熟し、球形で肉質、直径9~10mm、ネズミサシよりやや大きく、成熟したものは黒紫色で粉白をおびる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

蒲郡（小林 78642）、田原赤羽根（芹沢 83635）、渥美（芹沢 81162）、幡豆（芹沢 82250）、知多南部（芹沢 81392）。伊良湖岬には比較的大きい群落がある。伊良湖岬の集団は、まとまった個体群としては太平洋側の西限である。

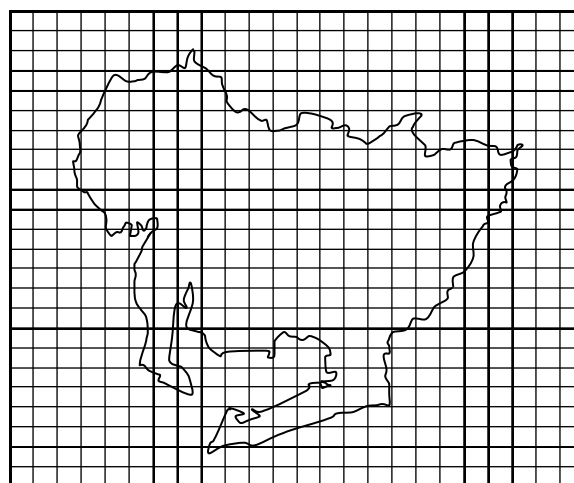
#### 【国内の分布】

北海道および本州（日本海側は山陰地方、太平洋側は紀伊半島まで）の海岸部に生育する。琉球列島の海岸には、近縁のオキナワハイネズが分布している。

#### 【世界の分布】

サハリンおよび日本。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の砂丘にマット状の群落を作ることが多いが、岩崖地の上に生育したり、崖面に垂れ下がったりすることもある。やや内陸の丘陵地のやせた尾根などに生育しているものは、多少なりともネズミサシの遺伝子が入ったオキアガリネズである。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

最大の自生地である伊良湖岬周辺では、砂防工事や観光開発により本種の生育地は著しく狭くなり、比較的大きい群落は恋路が浜に残っているだけである。

### 【保全上の留意点】

自然海岸は、開発や防災工事などのため著しく減少している。現在自然植生が残されている海浜は、注意深く保全する必要がある。特に本種は、葉が針状でさわると痛いため、観光開発の際に邪魔者扱いされることが多い。貴重な植物であることを認識する必要がある。

### 【特記事項】

「原色日本植物図鑑」木本編Ⅱ、「日本の野生植物」木本編Ⅰなどでは愛知県のものをオキナワハイネズとしているが、これは誤りである。オキアガリネズとの関係については、ネズミサシの項(519頁)参照。オキアガリネズの中にも完全に匍匐するものがあるから、樹形だけでは識別できない。識別の手がかりとしては、若枝が太いことが有効である。

### 【関連文献】

保木Ⅱp.409、平木Ⅰp.18、SOS旧版p.44、SOS新版p.150,152。

クロベ *Thuja standishii* (Gord.) Carr.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の樹木で、山間湿地の自然植生を特徴づける種でもある。愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ約 30m、直径約 1m になるものもある。樹皮は赤褐色、縦に裂け、薄くはがれる。葉は鱗片状で十字対生し、長さ 2~4mm、鈍頭、葉裏に灰白色の気孔群があり、ヒノキに似ているがやや大きくて厚みがある。花期は 5 月、雄花は小枝の端に 1 個つき、球形~楕円形、長さ 1.5~2mm。雌花も小枝の端に 1 個つき、卵円形である。毬果はその年の秋に熟し、広卵形または楕円形、長さ 8~10mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（芹沢 77990）、津具（芹沢 78755）。愛知県では、茶臼山周辺の限られた範囲に生育しているだけである。

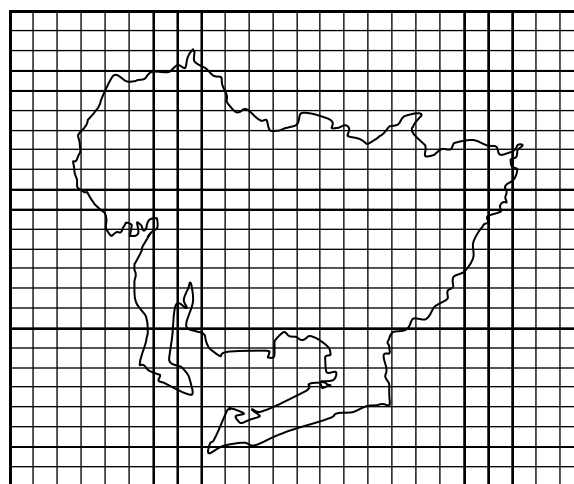
【国内の分布】

本州および四国の山地に分布するが、中部地方以北の日本海側に多い。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

他の樹木が育ちにくい、やせた尾根、谷沿いの岩崖地、湿地周辺の過湿地などに生育していることが多い。愛知県の自生地は湿地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭く、大型の樹木であるだけに成木の個体数も少ない。現地の自然林は、過去の牧場開発、観光開発、拡大造林などによって狭められ、現在は僅かに残存するだけである。

【保全上の留意点】

東三河のなだらかな山陵部の湿地林は、拡大造林や牧場造成などにより、詳細な調査が行われないうままほとんどが消滅している。現在残存している湿地林は、特に注意して保全する必要がある。また茶臼山周辺は、自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

ネズコとも呼ばれる。

【関連文献】

保木Ⅱp.410、平木Ⅰp.20。

## ウダイカンバ *Betula maximowicziana* Regel

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。温帯性の樹木で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

### 【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 30m、直径 1m に達する。樹皮は灰白色または橙黄色で、横に紙状にはがれる。枝には長枝と短枝がある。葉は長枝には互生、短枝には 2 枚が対をなしてつき、葉柄は長さ 2~6cm、葉身は広卵形で鋭尖頭、長さ 8~14cm、幅 6~10cm、基部は深い心形となり、辺縁には凸端に終わる不ぞろいな細鋸歯がある。葉の表面は濃緑色、裏面は淡緑色~帯黄緑色で腺点がある。花は 5~6 月に新葉の展開とほぼ同時に咲き、雄花序は長枝の先端に数個つき、下垂して長さ 10~14cm になり、雌花序は短枝の先に 2~4 個つく。果穂は秋に熟し、果実は扁平で幅の広い翼がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

富山 (小林 45493)、豊根 (芹沢 81947)、稲武 (日比野修 4094)、足助 (芹沢・水野 260)。津具にもあるという (小林, 2006)。県東北部の山地に点在するが、個体数は少ない。

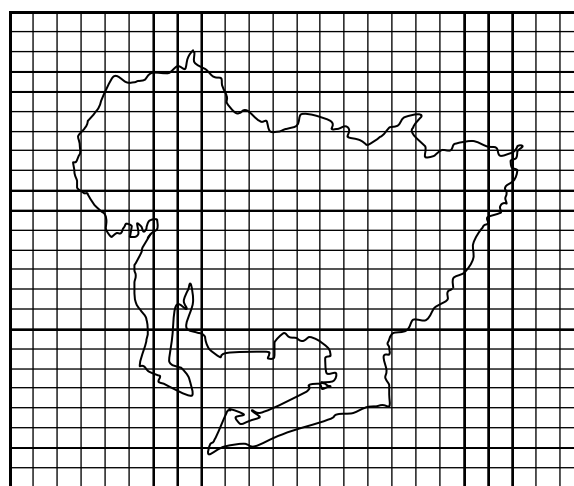
#### 【国内の分布】

北海道および本州中部以北。長野県まで行けば、あちこちに生育している。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

陽性の樹木で、山地の適湿な攪乱地や伐採跡地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

大形の樹木だけに成木は少なく、ほとんどが単木状に生育している。林道わきなどに生育しているものは、改修等の際に伐採されることがある。

### 【保全上の留意点】

陽樹であるため、個体群の存続には適度の攪乱が必要である。その一方で、希少種であることを意識しない伐採によって失われないよう、個別的な保全が必要である。

### 【特記事項】

日本産カバノキ属の中では最も大きくなる種であり、また良質な材の得られる有用樹である。

### 【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.124. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保木Ⅱp.297、平木Ⅰp.57。

## オノオレカンバ *Betula schmidtii* Regel

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。岩崖地の自然植生を特徴づける樹木で、全国的に希少であり、愛知県は分布域の南限にあたる。

### 【形態】

落葉性の高木。幹は高さ 15m、直径 50cm に達する。樹皮は黒褐色～暗灰色で厚く、亀甲状に割れる。枝には長枝と短枝がある。葉は長枝には互生、短枝には 2 枚が対をなしてつき、葉柄は長さ 5～10mm、葉身は広卵形～卵状楕円形、長さ 4～9cm、幅 3～6cm、先端は鋭尖頭、基部は円形またはやや広くさび形、辺縁には不ぞろいな鋸歯がある。葉の表面は深緑色でほぼ無毛、裏面は淡緑色で脈上に白色の長毛がある。花期は 5 月、雄花序は枝端の葉腋につき、下垂して長さ 4～6cm になり、雌花序は短枝に頂生する。果穂は秋に熟し、果実は卵状楕円形、扁平でほとんど翼がない。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

富山（芹沢 81073）、豊根（小林 53108）。天竜川沿いの岩尾根や急傾斜地に点在する。

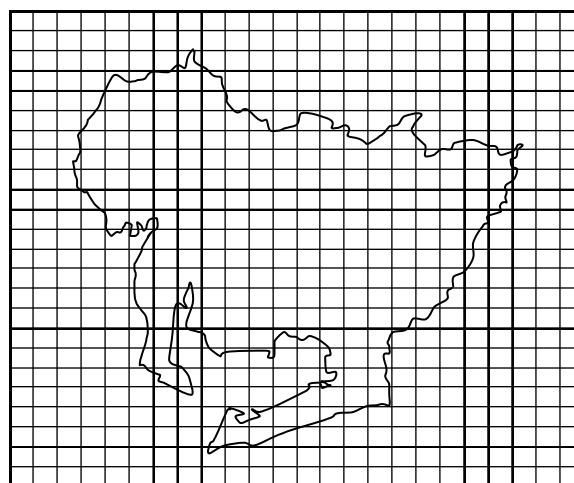
#### 【国内の分布】

本州（中部地方以北）の、主として太平洋側に分布する。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、ウスリー。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

岩礫地や土壌の浅い尾根などに生育することが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

範囲は狭いが、小群落が点在する。急峻な地形の場所に生育しているため、不用意な伐採がなければ、当面は存続するものと思われる。

### 【保全上の留意点】

希少な樹木であることを認識する必要がある。遊歩道の整備などの際には、特に注意が必要である。

### 【特記事項】

材がかたく斧が折れるほどであるというので、オノオレカンバと呼ばれる。

### 【関連文献】

保木Ⅱ p.295、平木Ⅰ p.59、SOS 旧版 p.45。

## シリブカガシ *Lithocarpus glabra* (Thunb.) Nakai

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の樹木で、県内では生育地が極めて少なく、もし自生ならば分布域の東限にあたる。

### 【形態】

常緑性の高木。幹は高さ 15m、直径 50cm に達する。樹皮は灰黒色で、縦に皮目の列がある。若枝は淡緑色で、黄褐色の短毛を密生する。葉は長さ 1~1.5cm の柄があり、葉身は倒披針状長楕円形、長さ 8~12cm、幅 2.5~4cm、厚い革質、先端は短く鋭尖頭、基部は広くさび形、辺縁は全縁または上部にわずかに鋸歯がある。葉の表面は深緑色で光沢があり、裏面の脈間は微細な毛を密生して銀灰色になる。花は 9~10 月に咲き、雄花序は新枝の葉腋に数個つき、斜上して長さ 6~9cm、雌花序も新枝の上部の葉腋から出て斜上し、長さ 5~9cm である。果実は翌年の秋に熟し、楕円形、長さ約 2cm、殻斗は椀状で、多数の鱗状の総苞片におおわれる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

額田 (芹沢 57182)。植栽されたものもあるが、山中に自生状に生育しているものもある。ただし、古い時代に植栽されたものである可能性は否定しきれない。瀬戸尾張旭などにもあるが、これらは明らかに逸出である。

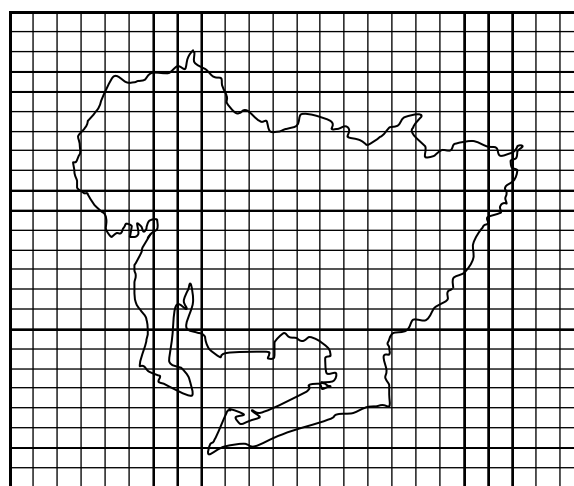
#### 【国内の分布】

一般に本州 (近畿地方以西)、四国、九州、琉球に分布するとされている。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸中南部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の照葉樹林の構成種である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

自生状のものは山中に点在しているが、個体数は少ない。選択的に伐り残されて、造林地内に残存している場合もある。

### 【保全上の留意点】

希少種であることを意識しない伐採により失われまいよう、個別的な保全が必要である。

### 【特記事項】

薪炭材として利用されるほか、果実が食べられるため、古い時代には食用目的も兼ねて植栽されたのではないと思われる。

### 【関連文献】

保木Ⅱ p.280、平木Ⅰ p.78、SOS 旧版 p.46。

ヤナギイチゴ *Debregeasia edulis* (Sieb. et Zucc.) Wedd.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

落葉性の低木。高さ 2~3m になる。葉は互生し、長さ 0.5~4cm の柄があり、葉身は披針形~線状長楕円形、長さ 5~18cm、幅 1~3cm、先端は鋭尖頭、基部は広くさび形~円形、辺縁には細鋸歯がある。葉の表面は暗緑色で無毛、裏面は白綿毛が密生する。雌雄異株で、花期は 4~5 月、雄花も雌花も球形の花序になる。果実は直径 5~7mm の集合果となり、6 月に橙黄色に熟し、多汁質で甘く、食べることができる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（芹沢 51917）、田原赤羽根（小林 49452）。2 区画で確認されているだけである。

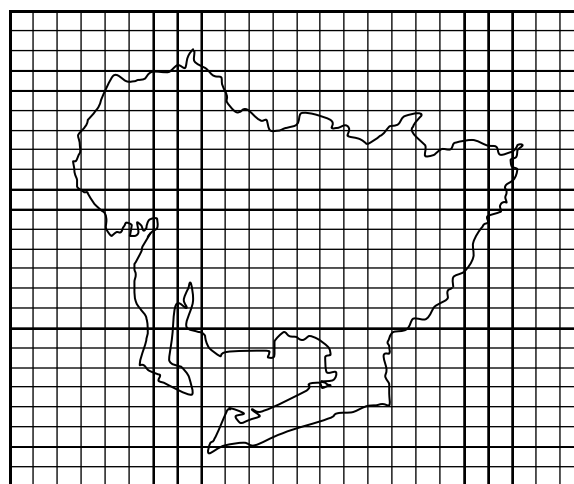
【国内の分布】

本州（関東地方南部~紀伊半島）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は林縁や路傍、伐採跡地などの、多少なりとも攪乱された場所に生育する。愛知県では石灰岩地にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の各 2 カ所に小群落がある。

【保全上の留意点】

石灰岩地に生育しているものは、必要に応じ周辺の樹木を多少伐採する程度の手入れを行えば、そのまま存続すると思われる。しかし攪乱地に生育しているものは、土地が安定化すれば光条件が悪化して消滅すると思われる、効果的な保全対策を立てにくい。愛知県ではもともと、生育地の拡大と消失をくり返している植物なのであろう。

【特記事項】

葉がヤナギに似ており、実がイチゴに似ることから、ヤナギイチゴと呼ばれる。

【関連文献】

保木 II p.229、平木 I p.95。



ミヤマイラクサ *Laportea macrostachya* (Maxim.) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

夏緑性の多年生草本。茎は高さ 70～100cm になる。葉は互生し、長い柄があり、葉身は円形～広卵形、長さ 8～20cm、幅 5～15cm、先端はやや尾状にのび、辺縁の鋸歯は下部のものは小さく、上部のものほど大きくなる。花期は 7～9 月、雌雄同株で、雌花序は上方の葉腋に立ち、穂状で長いものは 20～30cm に伸びる。雄花序は下方の葉腋につき、円錐状で長さ 5～10cm である。そう果はゆがんだ卵形で、長さ 1.5mm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (小林 38960)。

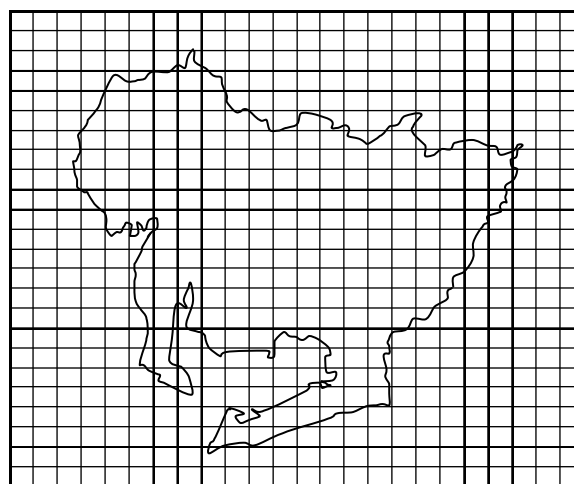
【国内の分布】

北海道、本州、九州。日本海側に多い植物である。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの林内や林縁、高茎草原などに群生する。愛知県では沢沿いの二次林の林縁に生育しているという。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では、1カ所に小群落があるだけである。集団が小さいので、砂防ダムの建設や鉄砲水により絶滅するおそれがある。また、伐採等の著しい攪乱によっても大きな影響を受ける可能性がある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

イラクサと同様、触れると痛い。若葉は山菜として食用にされる。

【関連文献】

保草Ⅱp.332、平草Ⅱp.4。

コケミズ *Pilea peploides* (Gaud.) Hook. et Arn.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 2。小型の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

1年生草本。茎は下部で分枝し、高さ5~15cmになる。葉は対生、5~10mmの柄があり、葉身は卵円形、長さは葉柄と同じくらい、先端はやや円く、基部はくさび形、辺縁は全縁か不明瞭な波状になる。花期は3~7月、雄花と雌花が混生して無柄の花序を作り、葉腋につく。雄花は少なく、花被は4裂し、雌花の花被は3裂する。そう果は卵形扁平で長さ0.5mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具(芹沢 82152)、足助(山崎玲子 3575)。鳳来北東部(鳳来寺県有林, 小林 19632, 1978-11-5)で採集された標本もある。鳳来北東部は1回採集されただけで、現地は地形等の改変を受けている場所でないが、その後の状況は確認されていない。

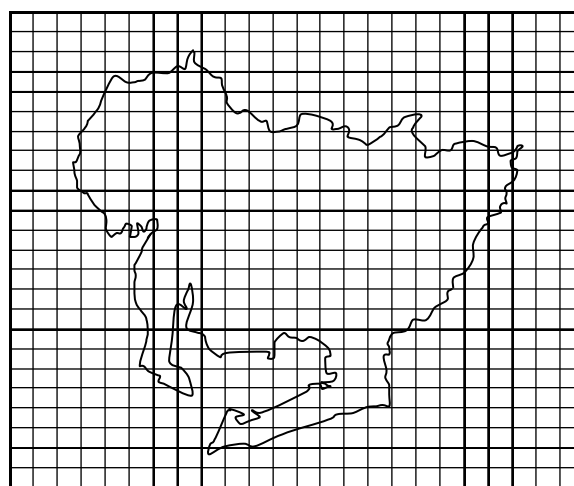
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、マレーシア、インド、ハワイ、ガラパゴス諸島など。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

岩地や石垣に生育する。津具と鳳来北東部は自然度の高い場所である。足助は人里で本来の自生地ではなく、そのため生育地点数から除外してある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

津具では、山地の岩棚に小群落がある。現地は開発等が想定される場所ではなく、当面は現状通り存続すると思われる。

【保全上の留意点】

山地の岩場は、本種以外にも多数の注目すべき植物の生育地となっており、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

小形で目立たない植物なので、調査の際には特に注意して探索する必要がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.333、平草Ⅱp.5、SOS旧版 p.46。

ミヤマミズ *Pilea petiolaris* (Sieb. et Zucc.) Blume

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有度階級 2。西日本系の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は高さ 40～80cm になる。葉は対生し、長さ 1～10cm の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 7～15cm、幅 3～6cm、先端は短くとがり、基部はくさび形、3 脈が目立ち、辺縁には低い鋸歯がある。托葉は大きく長さ 10～15mm あるが、早く落ちる。花期は 7～10 月、雌雄同株で、上部 2～4 対の葉腋に雌花序、その下の葉腋に雄花序が、いずれも密な集散状につく。雄花被片は 4 個、雌花被片は 3 個である。果実はそう果で広卵形、長さ 1～1.3mm、緑褐色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

作手(小林 65043)、豊川宝飯(小林 77469)。

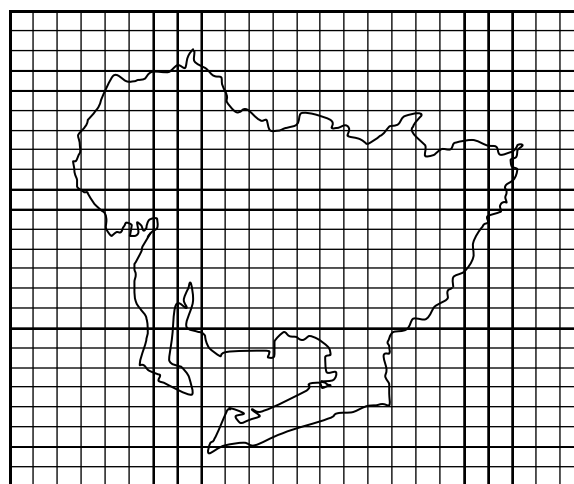
【国内の分布】

本州(関東地方以西)、四国、九州。近畿地方以西には多いが、それより東では稀である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いの林内や林縁に生育する。愛知県の生育地は、作手は道路沿いのスギの造林地内、豊川宝飯は河川敷の林内という。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 カ所に小群落があるだけである。作手のものは生育地が道路沿いなので、道路の拡幅等により失われるおそれがある。ニホンジカの食害により壊滅的な影響を受ける可能性もある。

【保全上の留意点】

特別な環境の場所に生育しているわけではないので、生育地の個別的な保全が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱp.333、平草Ⅱp.6、SOS 旧版 p.46。

ヤマモガシ *Helicia cochinchinensis* Lour.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の樹木で、暖地の照葉樹林の構成種であり、愛知県は分布域の北限に近い。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ 10m くらいになる。樹皮は黒褐色で比較的平滑、小枝は黄緑色で稜がある。葉は互生し、6~15mm の柄があり、葉身は薄い革質、長楕円形~楕円形、通常鋭頭~鋭尖頭だがやや鈍頭のこともあり、基部はくさび形で葉柄に流れ、長さ 5~10cm、幅 2~3.5cm、両面は無毛、辺縁は成木ではほとんど全縁だが、若木ではあらい鋸歯がある。花期は 7~8 月、葉腋から長さ 6~18cm の総状花序を伸ばし、多くの花をつける。花は白色で長さ約 1cm、つぼみの時は細長い筒形で先がこん棒状にふくらみ、開花すると線形の 4 枚の花被片がねじれて開く。果実は楕円形で長さ約 1cm、黒色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根 (小林 49996)、渥美 (芹沢 73292)。県内では渥美半島だけに生育している。

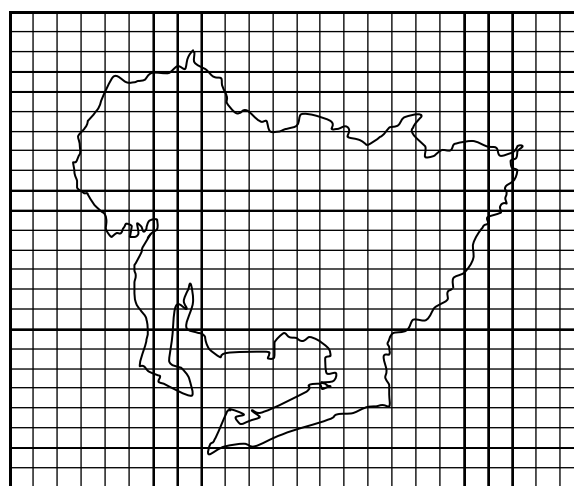
【国内の分布】

本州 (東海地方以西)、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸、インドシナ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの常緑広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

社寺林などの、自然度が高い状態のまま保護された林に稀に生育している。照葉樹林の伐採によって減少し、現在の状態になったものと思われる。

【保全上の留意点】

本種が生育しているような自然度の高い照葉樹林は、愛知県では僅かに残存しているだけである。社寺林は常時は保護されていても、社殿の改築などの際に伐採されるおそれがある。現在残されている林は、この地域の本来の自然の姿を示す貴重な場所であることを地域住民にもよく認識してもらい、厳重に保全する必要がある。

【特記事項】

和名は山に生えるモガシ。モガシはホルトノキの別名である。

【関連文献】

保木Ⅱp.228、平木Ⅰp.96、SOS旧版p.46。

オオツルイタドリ *Fallopia dentato-alata* (Fr.Schm.) Holub

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 1、人為圧階級 2、固有度階級 2。攪乱地に生じ、しかもあまり多くない大陸系の植物で、愛知県でも生育地、個体数共に極めて少ない。

【形態】

つる性の1年生草本。茎は分枝して長く伸び、長さ1m以上になる。葉は心形、長さ3~6cm、幅2.5~4cm、先端は鋭尖頭、基部は浅~深心形、辺縁と葉脈上に乳頭状突起がある。花期は8~10月、総状花序を頂生あるいは腋生し、まばらに花をつける。花被は紅色を帯びた緑色、長さ2mm程度であるが花後大きくなり、倒卵形、長さ8~9mm、幅5~6mmになる。そう果は3稜形、黒色で長さ4~5mmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

旭(芹沢 64307)。現在のところ1カ所で小群落が確認されているだけである。

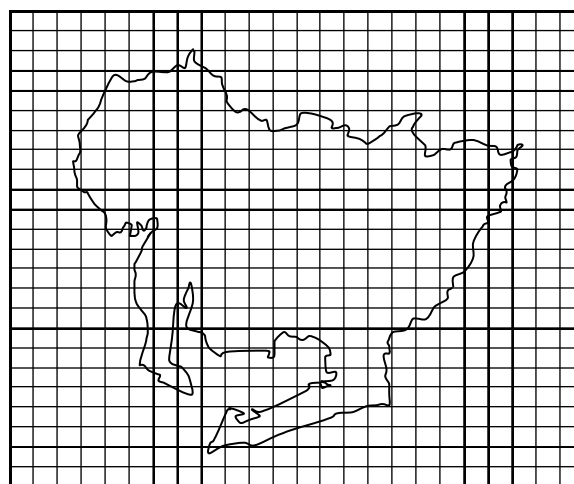
【国内の分布】

北海道および本州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸(北部・東北部)、ウズリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

川岸や荒地などに生育する。愛知県の生育地も、山地の林道わきである。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

林道わきに、少数個体が生育しているにすぎない。最近の状況は確認されていないが、不安定な立地なので、すでに消滅した可能性もある。その一方で、新たに別の場所に出現する可能性もある。

【保全上の留意点】

本種のような偶発的に生育する植物は、具体的な保全策が立てにくい。愛知県においても、種子等が保存できる施設を整備し、このような植物については保険的措置として、人為的な系統保存を行う必要がある。

【特記事項】

帰化植物のツルタデ *F. dumetora* (L.) Holub に似ているが、花後の花被が大きい。

【関連文献】

保草Ⅱp.315、平草Ⅱp.26。

ヌカボタデ (コヌカボタデを含む) *Persicaria taquetii* (Lev.) Koidz.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい低湿地性植物で、愛知県でも生育地が少ない。なおコヌカボタデは、環境省のレッドリストに従い今回のリストでは区別しないでおくが、もし区別すればヌカボタデ (狭義) は絶滅危惧ⅠB類、コヌカボタデは絶滅危惧ⅠA類になる。

【形態】

1 年生草本。茎は細く、下部は地をはって節から根を出し、上部は直立して多くの枝を分け、高さ 20~40cm になる。葉はほぼ無柄、葉身は長披針形、長さ 2~6cm、両端は細まる。托葉鞘は筒状で、長さ 2~6mm、ほぼ同じ長さの縁毛がある。花期は 9~11 月、総状花序は細長く、長さ 2~5cm で先端はたれ、まばらに花をつける。がくは 5 深裂し、先端が紅色またはほとんど白色、長さ約 1.5mm である。そう果は 3 稜形 (狭義のヌカボタデ) かレンズ形 (コヌカボタデ)、黒褐色で光沢があり、長さ 1.5~1.7mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

日進長久手 (半田多美子 3439)、豊明東郷 (半田多美子 3450)、一宮木曾川 (渡辺幸子 3275-コヌカボタデ、4941)、尾西 (芹沢 77721)。コヌカボタデ型のは、愛知県では木曾川河川敷で 1 回採集されただけであるが、木曾三川の岐阜県側には小群落がある。

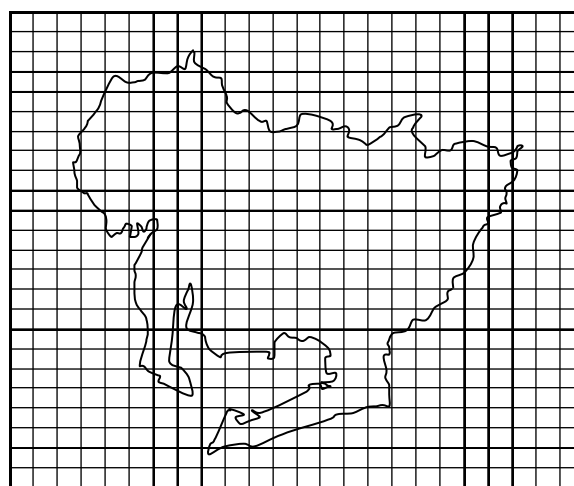
【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷、池沼やため池の周辺などの低湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は、年による変動が著しい。現在のところ既知の自生地は破壊されていないが、河川敷の開発やため池の改修により、本種が生育できそうな場所は著しく減少している。

【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全上の重要性が高い。ただし河川敷の植物は、もともと洪水などの攪乱に耐えてきたものであり、本種の場合も個体群の存続には軽度の攪乱が必要と思われる。

【特記事項】

低湿地を特徴づける狭葉性のタデ類の 1 種である。繊細なタデであり目立たないので、調査時には注意が必要である。

【関連文献】

保草Ⅱp.312、平草Ⅱp.23、SOS 旧版 p.47+図版 28、環境庁 p.436。

ホソバイヌタデ *Persicaria trigonocarpa* (Makino) Nakai

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい低湿地性植物で、愛知県でも生育地、個体数共に少ない。総点は 14 であるが、隣接する岐阜県側に比較的多いので絶滅危惧Ⅱ類と評価する。

【形態】

1 年生草本。茎の下部は地をはい、上部はしだいに直立して枝を分け、高さ 30~50cm になる。葉はほとんど無柄、葉身は狭披針形~披針形、長さ 6~12cm、幅 1~2cm、先端は次第に細まり、基部はくさび形である。托葉鞘は長さ 7~12mm で、それよりやや短い縁毛がある。花期は 9~10 月、総状花序は長さ 2~4cm で、やや密に花をつける。がくは 5 深裂し、淡紅色でまばらに腺点があり、長さ 2mm 程度である。そう果は 3 稜形、黒色で光沢があり、長さ 1.8~2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

海部西部(芹沢 75167)、海部南部(福岡義洋 5181)。海部西部はやや離れた 2 地点(生育地としては 1 カ所)、海部南部は 1 地点に小群落があるだけである。ただし、隣接する岐阜県側には比較的多い。岩倉西春(新川町五条川, 芹沢 78936, 2003-10-3)と海部東部(大治町庄内川, 鈴木敏弘 s.n., 2005-10-4)でも採集されているが、河川工事に伴い移入されたものらしく、継続的な生育は確認できない。

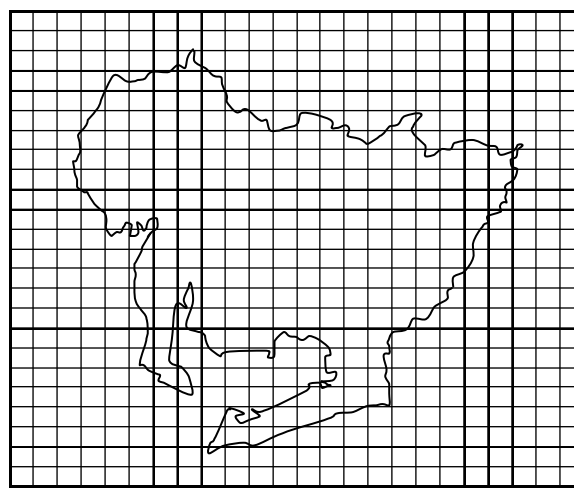
【国内の分布】

北海道および本州(近畿地方以北)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸(北部、東北部)、ウズリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川敷の低湿地に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ既知の場所では存続しているが、河川敷の開発やため池の改修により、本種が生育できそうな場所は著しく減少している。

【保全上の留意点】

河川敷は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧植物も多く生育していて、保全上の重要性が高い。ただし河川敷の植物は、もともと洪水などの攪乱に耐えてきたものであり、本種の場合も個体群の存続には軽度の攪乱が必要と思われる。

【特記事項】

低湿地性のタデで、普通種のイヌタデと紛らわしいので、調査時には注意が必要である。植物体が比較的大きく、花が淡紅色で紫色を帯びないことが探索の手がかりになるが、時にはイヌタデでもそのようなものがある。和名はホソバイヌタデであるが、葉が著しく細いというわけではない。「日本の野生植物」Ⅱ22 図版に本種として掲載されている写真は、イヌタデである。

【関連文献】

保草Ⅱp.313、平草Ⅱp.23、環境庁 p.275、SOS 新版 p.134,136。

## オオヤマフスマ *Moehringia lateriflora* (L.) Fenzl

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の草地性植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

### 【形態】

多年生草本。長くはう地下茎がある。地上茎は細く、多少分枝し、高さ 10～20cm になる。葉は対生し、無柄、葉身は広楕円形～倒披針形、長さ 1～2.5cm、幅 3～10mm、先端は鈍頭～円頭、辺縁と裏面脈上に毛がある。花期は 6～8 月、茎の先端や葉腋に、まばらな集散花序をつける。花弁は 5 枚、白色、長倒卵形で長さ 5～8mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊根(芹沢 51701)、稲武(塚本威彦 2261)、足助(芹沢 76871)。このほか豊川宝飯(小林 78626)、豊明東郷(岡本沙矢香 225)、半田武豊(阿久比町草木、渡邊麻子 167, 1995-4-24、絶滅)にもあり、安城からも記録されている(安城市史編集委員会, 2005)が、シバについて移入された可能性がある。

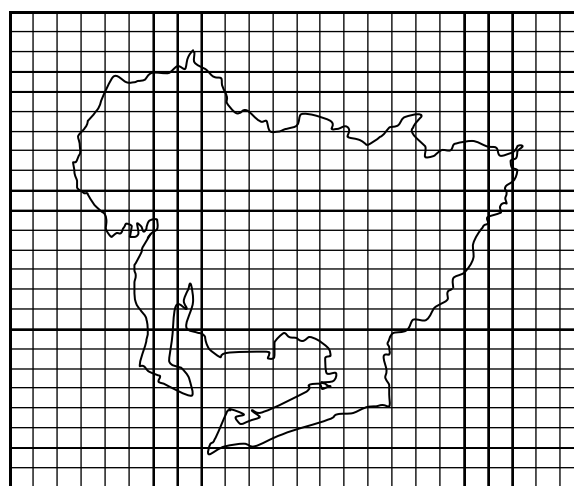
#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

#### 【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

温帯域の明るい林内、草地などに生育する。愛知県の場合、豊根は明るい落葉広葉樹林の林内、稲武は川沿いのスギ造林地、足助は水田わきの草地である。豊明東郷は愛知用水わきの草地であり、半田武豊も同様であった。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所も個体数は少ない。足助では里草地としての利用が停止されれば絶滅は必至である。半田武豊は愛知用水の改修によって消滅し、豊明東郷もやはり改修により、危機的な状況である。

### 【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地(いわゆるボタ)は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。また、愛知用水などの幹線水路沿いでは定期的に草刈りが行われるため、草地が減少する中で、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修に際しては、これらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、十分な配慮が必要である。

### 【特記事項】

ヒメタガソデソウとも呼ばれる。

### 【引用文献】

安城市史編集委員会(編), 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.27. 安城市, 安城.

### 【関連文献】

保草Ⅱp.266、平草Ⅱp.35。



ワダソウ *Pseudostellaria heterophylla* (Miq.) Pax

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。大陸系の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は直立し、分枝せず、高さ 10～20cm になる。根は主根が紡錘状に太くなる。葉は対生し、上部の 2 対は接近して仮輪生状、葉身は広卵形～ひし状卵形、長さ 3～6cm、幅 1.5～3cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、下部の葉は細く、倒披針形～長いへら状である。花期は 4～5 月、花は茎の先端に 1～5 個がつき、1～2cm の柄がある。花弁は 5 枚、白色、倒卵形で先はややへこみ、長さ 7～8mm である。閉鎖花は少数が茎の下部につく。蒴果は卵球形で、直径 6mm 程度である。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 52017)、東栄 (小林 36921)。

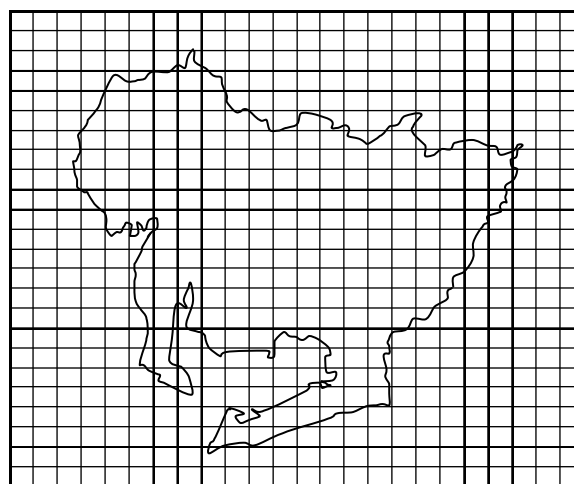
【国内の分布】

本州 (中部地方以北)、九州 (北部)。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。愛知県の生育地は、いずれも明るい二次林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所も、少数の個体が点在しているだけである。一方で林の伐採、他方で二次林の利用停止による被陰により、消滅するおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を、いわゆる里山状態で保全することが必要である。

【特記事項】

和名は、長野県和田峠に多産したからである。ヨツバハコベの名もあるが、現在ではこの名は他の帰化植物に使われることが多い。

【関連文献】

保草Ⅱp.267、平草Ⅱp.34。

ハマアカザ *Atriplex subcordata* Kitagawa

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。北方系の海浜植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、また減少傾向も著しい。

【形態】

1 年生草本。茎は斜上または直立して分枝し、高さ 40～60cm になる。葉は互生し、有柄、葉身は 3 角状卵形～長卵形、長さ 2～8cm、幅 2～4.5cm、肉質、先端は鋭頭か鈍頭、基部はくさび形、辺縁には通常ふぞろいな歯牙がある。上部の葉は次第に狭く小さくなり、全縁になる。花期は 8～10 月、花は密集してかたまり、それが穂状につく。雌花の苞は果時に大きくなり、卵形～3 角形、長さ 6～11mm、幅 5～9mm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 65309）、豊橋南部（芹沢 81136）、幡豆（芹沢 82267）、東海知多（岡島錦也 73B）、知多南部（芹沢 63660）。名古屋南東部（港区加福町、高木順夫 5623, 1997-11-1）にもあったが絶滅した。田原赤羽根（田原町馬草、鳥居喜一 14098, 1960-7-29, HNSM）で採集された標本もある。

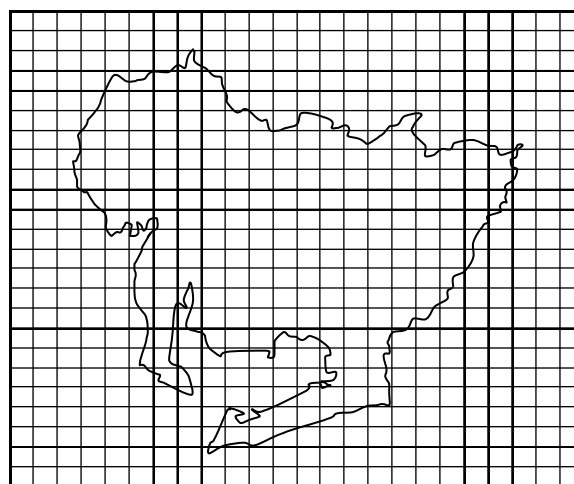
【国内の分布】

北海道および本州。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、ウズリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海浜の塩湿地や河口部の砂地などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				○
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

やや不安定な場所に生育しているため、個体数には年変動がある。名古屋南東部では貯木場跡地に生育していたが、廃棄物処分場設置のために埋め立てられて絶滅した。

【保全上の留意点】

内湾の塩湿地やそれに隣接する砂浜は、開発圧力が高く、全国的にも愛知県でも急激に減少している。現在残存している場所は、特に注意して保全する必要がある。生育地の直接的な改変を避けることはもちろんであるが、通常は河口にあるので、流入する河川の水質維持にも注意を払う必要がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.290、平草Ⅱp.48。

シデコブシ *Magnolia tomentosa* Thunb.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 4。本地域を代表する固有種である。

【形態】

夏緑性の小高木または低木。高さは5mくらいのもが多いが、時には10mに達する。葉は互生し、長さ2~5mmの柄があり、葉身は長楕円形または倒披針形、長さ5~10cm、幅1~3cm、先端は鈍頭または円頭、基部はくさび形、やや薄い紙質で表面は無毛、裏面は淡緑色で脈上に毛がある。花は3~4月に葉が展開する前に咲き、直径7~10cm、花被片は12~18枚あってがくと花卉の区別はなく、淡紅色またはわずかに紅色を帯びた白色、縁は多少波をうつ。集合果は長さ3~7cmになり、種子は赤色である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部(芹沢 57642)、田原赤羽根(芹沢 74427)、渥美(芹沢 74436)、小原(芹沢 58070)、藤岡(芹沢 58007)、豊田東部(芹沢 75276)、豊田北西部(芹沢 74428)、岡崎南部(芹沢 48083)、幸田(芹沢 60785)、瀬戸尾張旭(芹沢 75279)、犬山(芹沢 71407)、小牧(日比野修 4700)、春日井(福岡義洋 2225)、名古屋北部(芹沢 74429)。ただし幸田は、幼木が1株あっただけである。半田武豊(武豊町二ツ峯湿地)にもあったというが、この湿地は知多半島道路拡幅に伴う土砂採取によって破壊され、標本も残されていない。

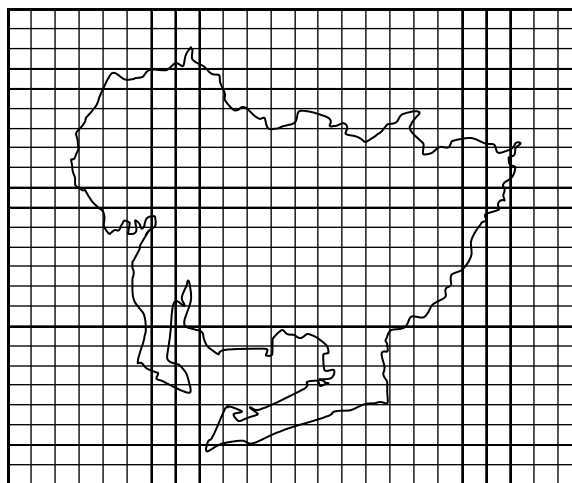
【国内の分布】

本州中部(愛知県、岐阜県美濃地方中・東部、三重県北部)に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の湧水湿地やその周辺に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ個体数は多いが、二次林の利用停止に伴い、被陰によって枯死する個体が目立つ。とりわけ、岡崎南部の集団は危機的である。丘陵地だけに開発圧力も高く、砂防ダム建設等により生育地が破壊されることもある。一方で、分布域の周辺にある小集団では、園芸目的で持ち去られ絶滅した例もある。その一方で保全されている場所では、過剰管理によって自然集団としての特性が失われてしまった例もある。

【保全上の留意点】

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。萌芽力の強い樹種であるため、ある程度の株数がある場所ならば、伐採に際して本種に特に配慮する必要はない。

【特記事項】

やや矮性で花の色が濃い系統は、「ヒメコブシ」の名で広く栽培される。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 1 に掲載されている。

【関連文献】

保木Ⅱp.219、平木Ⅰp.106、SOS 旧版 p.49+図版 16、環境庁 p.443、SOS 新版 p.94-97。

バリバリノキ *Litsea acuminata* (Blume) Sa.Kurata

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地の照葉樹林の構成種で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の高木。高さ 15m、直径 50cm に達する。葉は互生し、枝の上部にやや車輪状に集まり、長さ 10～30mm の柄があり、葉身は長披針形または倒披針形、長さ 10～15cm、幅 15～20mm、先端は長くとがり、薄い革質で全縁、表面は深緑色で光沢があり、裏面は灰白色である。花期は 8 月、雌雄異株で、葉腋から短枝を出し、その先に黄白色の花が球形に集まってつく。果実は楕円形で長さ約 15mm、翌年の初夏に紫黒色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来北東部（芹沢 83311）。少数の個体が点在しているだけである。

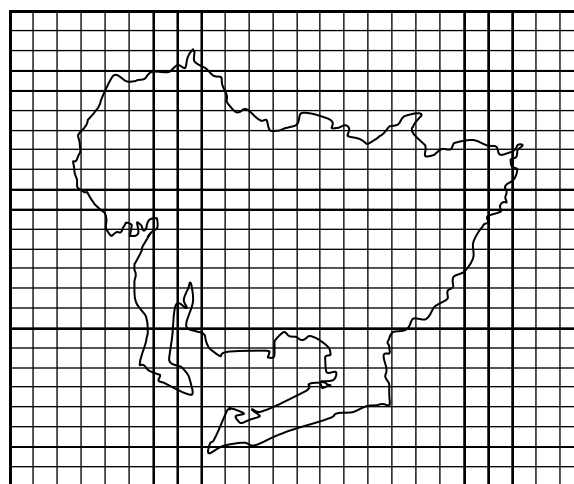
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州、琉球に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の沢沿いの、照葉樹林構成種である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

もともと個体数は少ない。森林の伐採や沢沿いの林道建設・拡幅などにより減少している。乳岩では周囲が全体として攪乱されたため、台風時の風害により倒れてしまったという。

【保全上の留意点】

旧鳳来町の沢沿いに残存する林は、自然林の要素を多く残しており、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

細く長い葉が特徴的である。和名は、硬い葉が触れ合うときの音によると言われる。

【関連文献】

保木 II p.180、平草 II p.122。

ルイヨウショウマ *Actaea asiatica* H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は分枝せず、高さ 40～70cm になる。茎葉は 2～3 枚で大きく、葉身は 2～4 回 3 出複葉、小葉は卵形または狭卵形、鋭尖頭、長さ 4～10cm、ときに 3 裂し、不ぞろいのあらい鋸歯がある。葉質は薄く、脈上に細い毛がある。花期は 5～6 月、茎の先端に短い総状花序をつける。花は白色、がく片は倒卵形で長さ約 3mm、花弁はへら形で基部は狭まり、長さ 2～3mm である。果序は長さ約 6～8cm、果柄は太く、長さ 12～17mm、開出または水平に開く。果実は黒色に熟し、球形で直径約 6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（加藤等次 4445）。津具にもあるという（小林, 2006）。

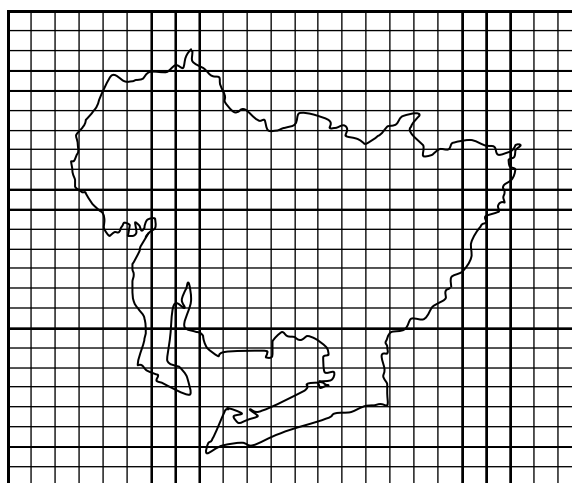
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、ウスリーに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林の林内や林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所でも個体数は少ない。過去の自然林が広範囲に伐採された時代に、大きな影響を受けたものと思われる。最近ではニホンジカの食害によりほとんど見られなくなっているという（小林, 2006）。

【保全上の留意点】

茶臼山周辺は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発は避けるべきである。とりわけ、沢の源頭部に僅かに残る自然林は、注意して保全する必要がある。

【特記事項】

和名は、葉がユキノシタ科のショウマ類に似ているからである。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.138. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草Ⅱp.205、平草Ⅱp.61。

## ヒメイチゲ *Anemone debilis* Fisch.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。亜高山帯に多い植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、個体数も少ない。

### 【形態】

多年生草本。根茎は横にはい、紡錘状にふくらんだ所とくびれた所がある。根出葉は5~12cmの柄があり、1回3出複葉、小葉は倒卵状楕円形でほとんど無柄、深く分裂することはなく、あらい鋸歯がある。花茎は高さ5~15cm、茎葉は3枚が輪生し、3全裂し、裂片は線状披針形または披針形で分裂せず、鋸歯がある。花期は4~5月、茎の先端に直径1cmくらいの花を1個頂生する。がく片は5枚で白色である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊根(芹沢 51349)。1カ所(茶臼山)に生育しているだけである。

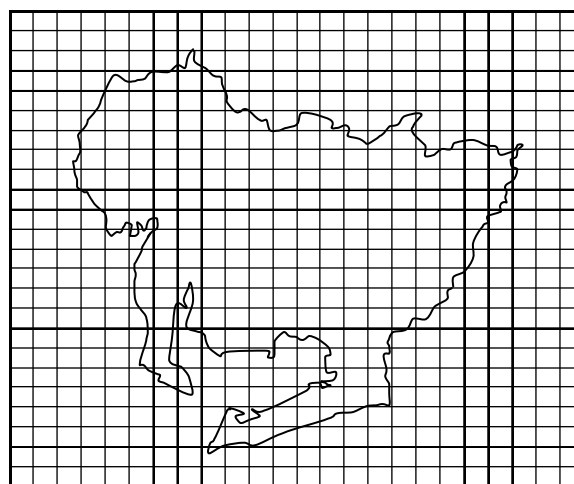
#### 【国内の分布】

北海道および本州(近畿地方以北)に分布する。

#### 【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸北部および東北部、シベリア東部に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林、亜高山の針葉樹林、高山のハイマツ林などの林内や林縁に生育する小形の早春植物で、夏には地上部が消失する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭い。最近に限れば特に減少しているわけではないが、過去には観光開発や牧場造成の影響で大幅に減少したと思われる。

### 【保全上の留意点】

茶臼山は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している場所である。自然とのふれあいの場所を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

### 【特記事項】

日本産イチリンソウ属の中では最も小型の種である。この属としてはあまり目立たない植物なので、調査の際には注意を要する。

### 【関連文献】

保草Ⅱp.232、平草Ⅱp.69。

レンゲショウマ *Anemonopsis macrophylla* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯域の林内に生育する日本特産の 1 属 1 種の植物で、愛知県では生育地が少ない。総点は 11 であるが、シカによる食害が著しいので、VU と評価する。

【形態】

多年生草本。茎は上部で枝を分け、高さ 40～80cm になる。根出葉と下部の茎葉は大型で、2～4 回 3 複葉、小葉は卵形で長さ 4～8cm、鋭尖頭、ときに 3 浅～中裂し、不ぞろいのあらく鋭い鋸歯がある。花期は 7～8 月、茎と枝の先端に直径 3～3.5cm の花を下向きに数個～十数個つけ、全体としてまばらな円錐花序となる。がく片は長楕円形、長さ 1.5～2cm、淡紫色、花弁は倒卵形、長さ約 1.2cm、開出せず、淡紫色で先の方はしばしば濃色となる。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（小林 34301）、稲武（小林 38508）。

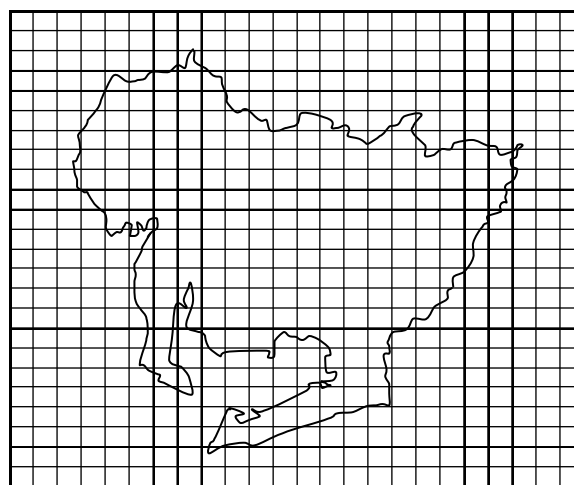
【国内の分布】

本州（福島県～奈良県）の主として太平洋岸の山地に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は落葉広葉樹林の林内に生育する。愛知県では造林地内にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

場所によっては比較的多いが、シカの食害により深刻な影響を受けている。林の伐採により失われるおそれもある。

【保全上の留意点】

良好な群落については、防護柵を設置する必要がある。その一方で、園芸目的の採取やカメラマン、観察者の踏み荒らしを防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は花がハスに、葉がユキノシタ科のショウマ類に似ているからである。

【関連文献】

保草Ⅱp.213、平草Ⅱp.59、SOS 旧版 p.49。

**キケンショウマ** *Cimicifuga acerina* (Sieb. et Zucc.) C.Tanaka var. *peltata* (Makino) H.Hara

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

**【形態】**

多年生草本。茎は高さ 40～120cm になる。根出葉は 1 回 3 出複葉、小葉は円心形、長さ 7～20cm、5～9 に浅～中裂し、裂片の辺縁にはふぞろいな鋸歯があり、小葉柄は楕状につく。茎葉は苞状に退化する。花期は 8～9 月、花序は穂状で、単一または下部で分枝し、花は白色、がく片は広楕円形、長さ 4～6mm、花弁も長さ 4～6mm である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

稲武 (芹沢 82607)。

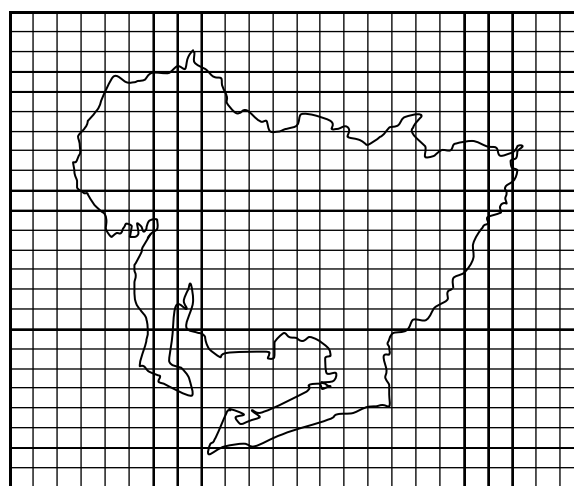
**【国内の分布】**

本州中部 (長野県西部～滋賀県)。基準変種のオオバショウマ var. *acerina* は小葉が楕状にならないもので、本州、四国、九州に分布している。

**【世界の分布】**

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

山地の沢沿いの、落葉広葉樹林内やスギ造林地内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

小群落があるだけで、個体数は少なく、伐採や沢すじの小崩壊などにより失われるおそれがある。造林地内にあるものは、手入れ不足で林床の光条件が悪化しており、衰退傾向が著しい。

**【保全上の留意点】**

生育地の森林を保全することが必要である。

**【特記事項】**

愛知県ではオオバショウマも希少で、稲武、旭で確認されているだけである。和名は鬼臉升麻で、近縁種の漢名を音読みにしたものである。

**【関連文献】**

保草Ⅱ p.219、平草Ⅱ p.60、SOS 旧版 p.50。



## フジセンニンソウ *Clematis fujisanensis* Hisauti et H.Hara

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。本州および九州の一部地域に隔離的に分布する種で、愛知県は関東～東海の分布域の西限にあたる。県内では生育地も個体数も少ない。

### 【形態】

つる性で落葉性の半低木。葉は対生し、羽状複葉、小葉は5～7枚、卵形～長卵形、先端は鋭尖頭、基部は切形～広くさび形、長さ3～7cm、幅1.5～5cm、辺縁は全縁で、乾くと黒褐色になる。最下の小葉は更に3裂することもある。花期は8～9月、枝の先端および葉腋に3出集散状の花序をつけ、しばしば全体として大きな円錐状となる。花は白色で、上を向いて平開し、直径2～3cm、がく片は4枚で、生時は白色であるが、乾けば褐色になる。センニンソウに比べ、小葉の先端がより尖る傾向がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

鳳来南部(芹沢 52496)、新城(芹沢 56116)。

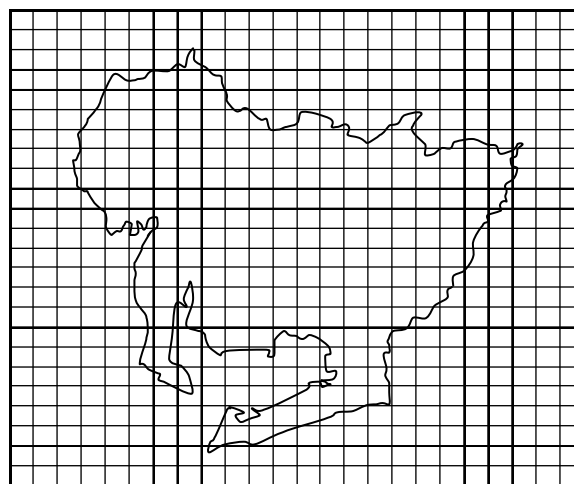
#### 【国内の分布】

本州(東京都～愛知県東部および岡山県)、九州(熊本県、宮崎県、鹿児島県)。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内の分布域は東三河の一部地域に限られ、そこでは点在するが、個体数は少ない。やや攪乱された場所に生育する植物で、現在のところ特に減少しているわけではないが、開発等により消失する可能性もある。

### 【保全上の留意点】

普通種のセンニンソウと混同して粗略に扱わないよう、注意が必要である。

### 【特記事項】

センニンソウに類似しており、乾燥すれば黒変するため容易に区別できるが、自生地での識別はかなり困難である。センニンソウとの関係を含め、詳細な検討が必要な植物である。植物体の一部を採取しても消滅するおそれは少ないので、他種以上に確実な標本資料を作成する必要がある。

### 【関連文献】

保草Ⅱp227、平草Ⅱp.74。

カザグルマ *Clematis patens* Morr. et Decne.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 4、固有度階級 2。湿地周辺の自然を象徴する植物の一つで、開発圧力の高い場所に生育しており、園芸目的の採取も無視できない。

【形態】

つるになる落葉性の半低木。葉は対生し、羽状複葉、小葉は3~5枚、卵形で先はとがり、基部は円形または浅い心形、長さ4~8cm、ときに3裂するが鋸歯はない。花期は5~6月、1~3対の葉をつけた枝の先に1個の花を頂生する。花は上向きに平開し、直径7~12cm、がく片は通常8枚、淡紫色のものもあるが愛知県ではすべて白色、狭倒卵形、上部は広がり、先端は急に細まって鋭尖頭になる。そう果は広卵形で長さ5mm、残存花柱は3~4cmで強く曲がり、黄褐色の長毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(小林 37815)、鳳来南部(芹沢 58522)、作手(芹沢 79778)、新城(芹沢 65009)、豊橋北部(芹沢 58540)、渥美(芹沢 58628)、小原(伊藤泰輔 207)、藤岡(塚本威彦 585)、豊田東部(山崎玲子 1407)、豊田北西部(芹沢 51443)、額田(福岡義洋 629)、岡崎南部(芹沢 69084)、瀬戸尾張旭(塚本威彦 3014)、犬山(塚本威彦 1500)、春日井(山田果与乃 146)、名古屋北部(鳥居ちる子 1931)。豊川宝飯にもあるという(小林, 2004)。名古屋南東部(緑区滝の水、浜島繁隆 s.n., 1971-5-18)で採集された標本もある。丘陵地~低山地に広く分布するが、渥美半島には少なく、知多半島からは知られていない。

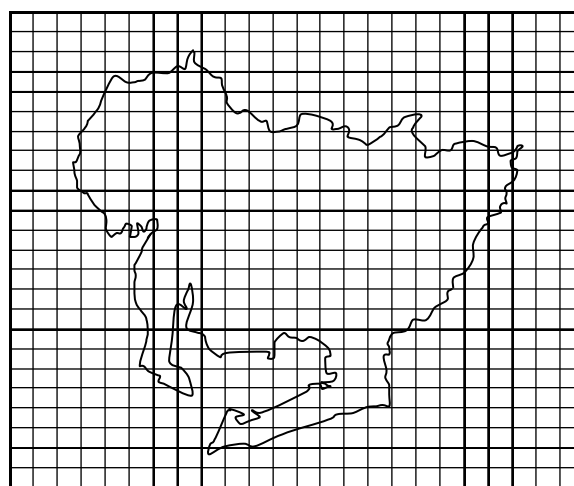
【国内の分布】

本州、四国、九州北部。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湿地周辺の林縁、湿った土手などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところまだ生育地も個体数も多いが、開発により生育地が破壊されたり、園芸目的で採取されたりして、次第に減少している。その一方で、丘陵地の二次林の利用が停止されたため、遷移が進行し、被陰されて衰退している集団も少なくない。

【保全上の留意点】

丘陵地の崩壊地がなかなか放置できない現状では、地形の改変を伴わない二次林の伐採は本種の個体群維持にとって不可欠である。園芸目的の採取やカメラマン、観察者による攪乱を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

園芸的には、遺伝子資源の確保という点で重要である。園芸植物のクレマチスは、本種などから交配により作出されたものである。彩色画はレッドデータブックなごや 2004 植物編 図版 4 に掲載されている。

【引用文献】

小林元男, 2004. 宝飯の植物 p.39, 115. 東三河農林水産事務所, 豊橋.

【関連文献】

保草Ⅱp.226、平草Ⅱp.73、SOS 旧版 p.50 (シロバナカザグルマとして)、環境庁 p.447、SOS 新版 p.103,105.

## クサボタン *Clematis stans* Sieb. et Zucc.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。山地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

落葉性の半低木。茎は高さ 1m くらいになり、下部は木化して冬になっても残る。葉は対生で長柄があり、1回3出複葉、小葉はほぼ卵形で3浅裂し、長さ4~13cm、先端は鋭くとがり、基部はくさび形~切形、辺縁には不ぞろいなあらい鋸歯がある。花期は7~8月、茎の先端や葉腋に集散状の花序を作り、多数の花を下向きにつける。花は長い鐘状、長さ1.2~2cm、がく片は4枚で、基部は合わさって筒状になり、先はそり返り、外面は短い白毛を密生し、内面は淡紫色である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東栄(小林 54001)、豊橋北部(芹沢 67023)の2区画に、各1カ所生育地がある。名古屋北部(守山区)にもあったという(安原, 1990)。

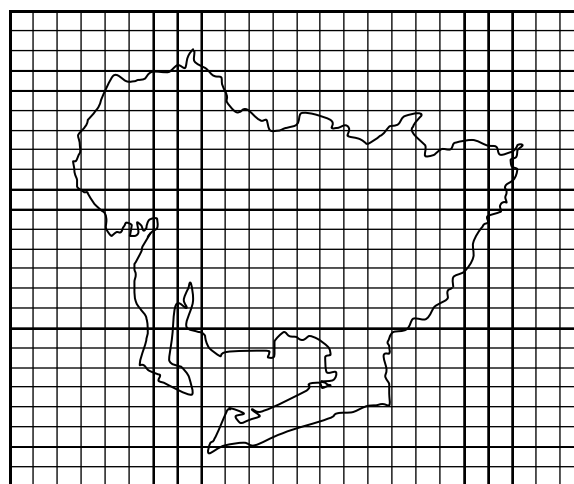
#### 【国内の分布】

本州全域に分布する。四国、九州のものは、変種ツクシクサボタン var. *austrojaponensis* (Ohwi) Ohwi である。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

林縁や崖状地に生育する。暖地では石灰岩地に多く、豊橋市の自生地もそのような場所である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

どちらの場所も、小群落があるにすぎない。東栄町の自生地は町道沿いの風穴のガレ場で、植生遷移により衰退傾向にある。豊橋市の自生地は石巻山で、一帯は国指定天然記念物として保護されているが、岩登りなどの際に枝を折られることがある。

### 【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。特に道路の拡幅、遊歩道整備などの際には注意を要する。石巻山の岩場は本種以外にも多くの重要な植物が生育しており、ロッククライミングなどの利用に際しては細心の注意が必要である。

### 【特記事項】

クサボタンの名はあるが、低木性である。

### 【引用文献】

安原修次, 1990. なごや野の花 p.128. エフエー出版, 名古屋.

### 【関連文献】

保草Ⅱp.223、平草Ⅱp.73.

セツブンソウ *Shibateranthis pinnatifida* (Maxim.) Satake et Okuyama

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 4、固有度階級 2。代表的な早春植物で、園芸目的の採取により著しく減少している。

【形態】

多年生草本。球状の塊茎がある。根出葉は5~10cmの柄があり、葉身は5角状円形、長さ幅ともに3~5cm、羽状に深く切れ込み、裂片は線形で先端は鈍頭である。茎は高さ5~15cm、茎葉は2枚で、不ぞろいに深裂し、裂片は線形である。花期は2~3月、茎の先端に、直径約2cmの花を1個つけ、がく片は5個あり、白色で大きい。花弁は黄色で小さく、2分して蜜腺をもつ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 55878）、鳳来北東部（小林 65654）。豊橋北部（石巻山，恒川敏雄 374, 1951-2-18, TMNH）で採集された標本もある。

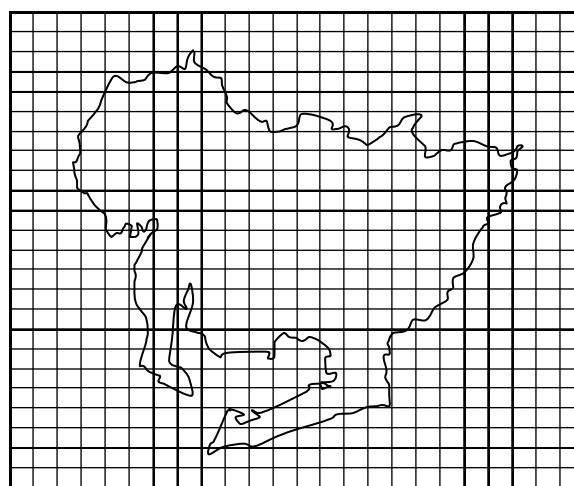
【国内の分布】

本州（関東地方以西）に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林等の林内や林縁に生育する。春早く開花し、晩春には地上部が消失する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在しているが、場所によっては園芸目的の採取により、ほとんど絶滅状態である。その一方で保全されている場所では、過剰管理により、本来の自生状態が失われている例もある。鳳来町の大島川沿いに生育していたものは、ダム建設により消滅した。また豊橋北部の生育地は、地滑りで消滅した。

【保全上の留意点】

開花期が早く少数回の調査では見落とされてしまうおそれがあるので、調査の際には注意を要する。園芸目的の採取を防止するため、常時監視できない場所では分布情報の公表を避けるべきである。

【特記事項】

春早く開花するので、節分草という。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 8 に掲載されている。

【関連文献】

保草Ⅱp.234、平草Ⅱp.61、SOS旧版 p.50、環境庁 p.450、SOS新版 p.30,32。

ルイヨウボタン *Caulophyllum robustum* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は無毛で、高さ 40～70cm になる。茎葉は通常 2 枚、2～3 回 3 出複葉で、葉柄はほとんどなく、第 1 次小葉柄が長いために 3 個の複葉が輪生するように見える。小葉は長楕円形で全縁、頂小葉は有柄、側小葉は無柄、無毛、幅の広いものは先が 2～3 裂する。花期は 4～6 月、花は緑黄色で直径 8～10mm、10 個内外が葉腋または茎頂に集散状につく。種子は 2 個ならんでつき、青くて液果状、それぞれ長さ約 5mm の珠柄がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 78735）、東栄（小林 34146）、鳳来北東部（小林 65986）。

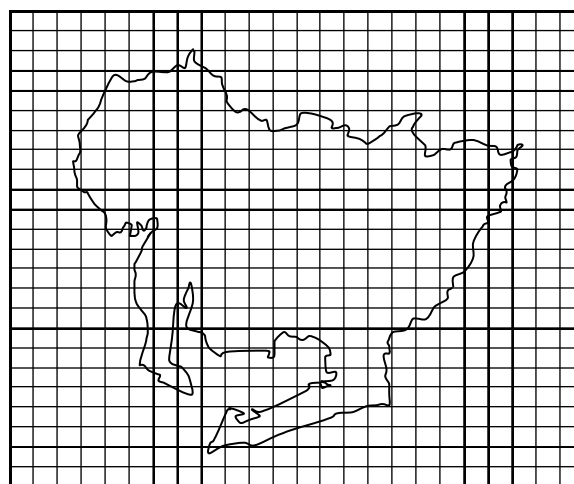
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。長野県まで行けば普通に見られる植物である。

【世界の分布】

サハリン、日本、朝鮮半島、中国大陸、ウズベキスタン。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

通常は山地の落葉広葉樹林内に生育する。愛知県では落葉広葉樹林のほか、スギ造林地にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

小群落があるだけで、個体数は少ない。造林地内ものは手入れ不足で林床の光条件が悪化し、衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。造林地の場合は、間伐等の適切な管理を行う必要がある。

【特記事項】

葉の形がボタンに似ているから、類葉ボタンという。

【関連文献】

保草Ⅱp.200、平草Ⅱp.89。

ヤマシャクヤク *Paeonia japonica* (Makino) Miyabe et Takeda

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。花が大きく、保全の必要性が高い植物で、園芸目的の採取により激減している。

【形態】

多年生草本。高さ 30~40cm になる。根茎は横にのび、太い根を出す。茎には 3~4 枚の茎葉を互生し、基部には数枚の鱗片葉がある。葉は 2 回 3 出複葉、小葉は楕円形~倒卵形、先は狭まってとがり、裏面は白色を帯びる。花期は 5 月、花は茎の先端に 1 個つき、直径 4~5cm で上を向いて開き、がく片は緑色、花弁は 5~7 枚で倒卵形、白色で互いに重なり合っつく。めしべの花柱は短く、少し外側に曲がる。袋果は長楕円形、開出し、長さ 2~3.3cm である。葉裏は通常無毛であるが、時に毛があるものがあり、ケヤマシャクヤク form. *hirsuta* H.Hara と呼ばれる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根 (芹沢 81452)、津具 (芹沢 78734)、鳳来北東部 (小林 65987)、稲武 (鈴木 学 1016)、旭 (小林 56515)。個体数は少ない。

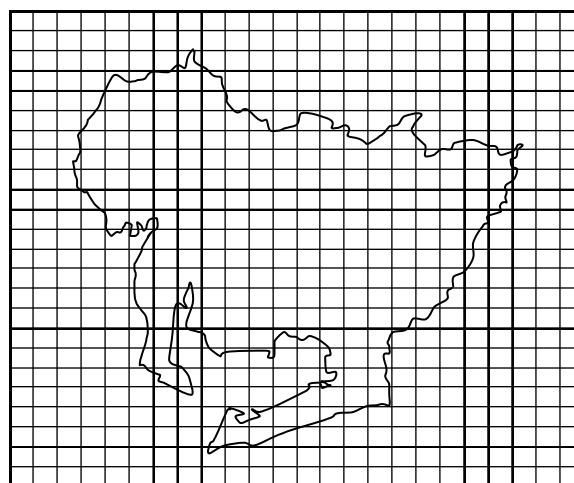
【国内の分布】

北海道 (南部)、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の、主として落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

もともとあまり多くない上に、園芸目的の採取により著しく減少している。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

本書のヤマシャクヤクは、ケヤマシャクヤクを含むものである。全国的にはシカ食害の激化に伴って不嗜好植物である本種が増加する事例もあるが、愛知県では現在のところ増加傾向は認められない。

【関連文献】

保草Ⅱp.217、平草Ⅱp.111、環境庁 p.462、SOS 新版 p.18,20。

**アゼオトギリ** *Hypericum oliganthum* Franch. et Sav.

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に見ても減少傾向が著しい低湿地性の植物で、愛知県では人為的影響を受けやすい場所に生育しており、生育地も個体数も極めて少ない。

**【形態】**

多年生草本。茎は数本叢生し、よく分枝し、高さ 10~40cm になる。葉は対生、倒卵形または長楕円形、鈍頭、基部は多少茎を抱き、長さ 1.3~2.5cm、明点が密に入り、縁には黒点が並ぶ。花期は 7~9 月、少数の花からなる花序を茎や枝の先端につける。花弁は 5 枚、長楕円形で長さ 7~8mm、黄色、黒点と明点が入り、縁に黒腺がある。果実は丸みを帯び、長さ約 6.5mm である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

渥美(小林 74194)、安城(堀田喜久 7132)、西尾(堀田喜久 5419)、常滑(梅田零奈 862)。各 1 カ所に、ごく少数の個体が生育しているだけである。鳳来南部(黄柳野, 鳥居喜一 3658, 1971-8-15, HNSM)、新城(平井, 鳥居喜一 6194, 1958-8-10, HNSM)、豊橋北部(下条, 恒川敏雄 2769, 1952-8-5, TMNH)で採集された標本もある。木曾三川の愛知県側ではまだ確認されていないが、岐阜県側には点在する。

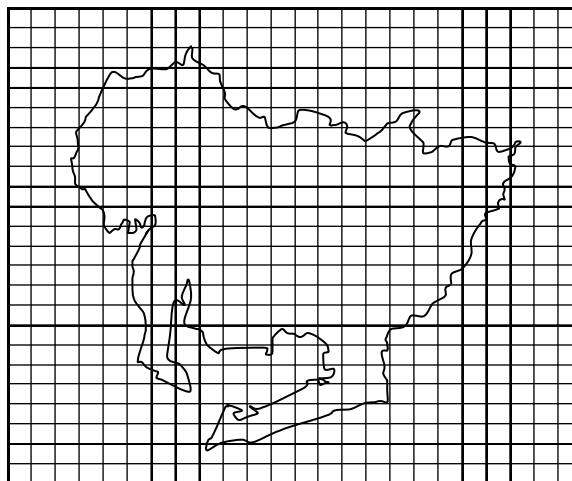
**【国内の分布】**

本州(関東地方以西)、四国、九州。

**【世界の分布】**

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

河川敷などの低湿地や水田のあぜなどに生育する。自然度の高い場所だけでなく、人為的攪乱のある場所にも生育している。愛知県の自生地は、攪乱地である。隣接する岐阜県側では、河川敷のやや自然度の高い場所にも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

愛知県の生育地はいずれも不安定な立地で、個体数も少なく、将来の存続が懸念される。

**【保全上の留意点】**

絶滅危惧種は自生地で野生状態で保全することが原則であり、移植や栽培は保全策にはならない。しかし本種のような不安定な立地に生育する絶滅危惧植物の場合は、保険的措置として、現地での保全と平行して人為的な系統保存も行う必要がある。

**【特記事項】**

サワオトギリに似ているが、葉に柄がないこと、花が大きく、果実も大きいことなどで区別できる。

**【関連文献】**

平草Ⅱp.118、SOS 旧版 p.53、環境庁 p.292。

イシモチソウ *Drosera peltata* Smith var. *nipponica* (Masamune) Ohwi

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的にも愛知県でも減少傾向の著しい食虫植物である。

【形態】

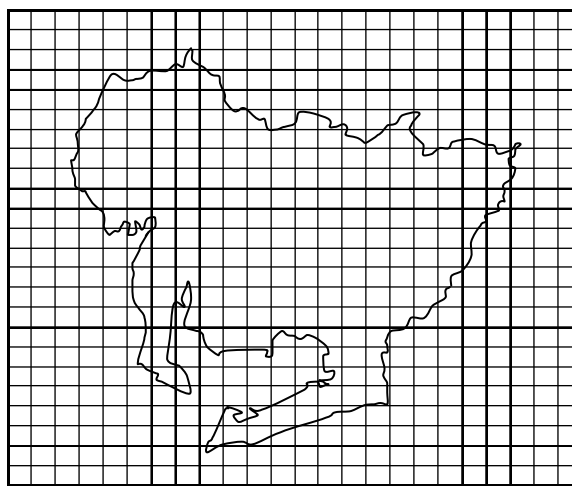
食虫性の多年生草本。地下に球形の塊茎がある。地上茎は高さ 10～30cm、はじめは根出葉があるが、花期にはなくなる。茎葉はまばらに互生し、長さ 10～15mm の細い葉柄があり、葉身は三日月形で幅 4～6mm、基部は湾入し、表面と辺縁に昆虫類を捕らえるための長腺毛が多い。花期は 5～6 月、茎の先端のまばらな総状花序に、2～10 個の白色の花をつける。花弁は 5 枚で広倒卵形、長さ 6～8mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川宝飯（小林 37116）、小原（日比野修 2800）、藤岡（塚本威彦 1537）、豊田北西部（畑佐武司 4227）、三好（臼井里華 476）、岡崎南部（芹沢 52179）、瀬戸尾張旭（芹沢 75733）、日進長久手（近藤洋一朗 8320）、半田武豊（芹沢 61652）、常滑（芹沢 55093）、知多南部（芹沢 77365）、春日井（芹沢 55314）、名古屋北部（鳥居ちる子 1313）。西三河と尾張の丘陵地に点在するが、東三河では極めて稀で、1カ所に少数の個体が生育しているだけである。豊橋南部（大清水町、小林 16724, 1977-6-5）、幸田（六栗～桐山、大原準之助 s.n., 1960-5）、豊明東郷（桶狭間湿地、瀧崎吉雄 s.n., 1953-6-14）、東海知多（東海市加木屋町、岡島錦也 157, 1977-8-19）、名古屋南東部（天白、井波一雄 s.n., 1941-5-22, CBM127121）などで採集された標本もある。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州（関東地方以西）、四国、九州、琉球（西表島）。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、台湾、中国大陸。

【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地の湿地やその周辺のやせ地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○		
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

主要な生育地が尾張、西三河の丘陵地であるだけに、かなりの自生地に開発が迫っている。豊明市では、廃棄物処分場として谷が埋められ絶滅したという。湿地の踏み荒らしにより消滅した例もある。その一方で、里山の利用停止に伴う遷移の進行も懸念材料である。園芸目的の採取も深刻で、たくさんの掘り跡が残されていたこともある。市町村誌などではっきり生育地が示されたことが、絶滅の引き金になったのではないと思われる例もある。

その一方で、名古屋市などの一部の湿地では、市民グループ等の手でももとはなかった場所への移入が行われ、本来の自然状態に対する大きな脅威となっている。本来ないものは、「ない」のが自然の状態であることを認識する必要がある。

【保全上の留意点】

湧水湿地やその周辺のやせ山を、水源部の地形を含めて保全する必要がある。その一方で園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、葉の腺毛に小石がつくからだと言われる。

【関連文献】

保草Ⅱp.167、平草Ⅱp.121、SOS 旧版 p.54、環境庁 p.464、SOS 新版 p.111,113。



ヤマブキソウ *Chelidonium japonicum* Thunb.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 3、固有度階級 1。愛知県では生育地が少ない。総点は 11 であるが、花が美しく園芸目的で採取される危険が高いことを考慮し、絶滅危惧Ⅱ類と評価する。

【形態】

多年生草本。高さ 30~40cm になる。根出葉は長い柄があり、葉身は羽状複葉、小葉は 5~7 個で広卵形または楕円形、先端はとがり、さらに切れ込みと細かい鋸歯がある。茎葉は茎の上端近くに少数つき、小葉は 3~5 個である。花期は 4~6 月、茎の上部の葉腋に、直径 3~4cm の黄色の花を 1~2 個ずつつける。花弁は 4 枚、倒卵円形で長さ 2~2.5cm である。果実は細長く、長さ 3~5cm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武（芹沢 82848）、足助（芹沢 69056）。

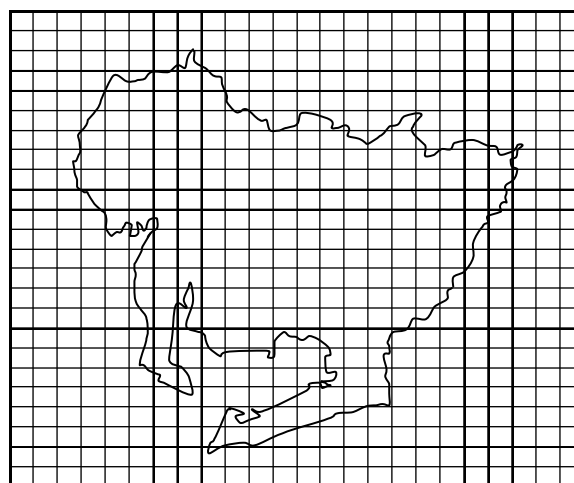
【国内の分布】

本州、四国、九州。隣接地では、鈴鹿山脈に多く見られる場所がある。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の林内、林縁に生育する。通常は沢沿いに生育している。河川の岸の竹林内などにも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

林の手入れ不足により光条件が悪化し、全体的にやや衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

生育地の個別的な保全が必要である。

【特記事項】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際しては慎重な配慮が必要である。葉形は変異が大きく、ホソバヤマブキソウやセリバヤマブキソウが区別されることもあるが、愛知県のものは普通のヤマブキソウの型である。

【関連文献】

保草Ⅱp.195、平草Ⅱp.123。

ハクサンハタザオ *Arabis gemmifera* (Matsum.) Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。日本海要素に準ずる植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。茎は長さ 20～40cm、細く、花後に倒れて地につき、そこから新苗を出す。根出葉は短い柄があり、葉身は長さ 2～7cm、幅 8～15mm、羽状に分裂し、頂裂片が大きい。茎葉は細く、倒披針形または倒卵形、長さ 1～4cm、羽状に中裂する。花期は 3～5 月、枝の先端に総状花序をつけ、白色の花をつける。花弁は 4 枚で倒卵形、長さ約 5～6mm である。果実は線形で、じゅず状にくびれ、長さ 10～20mm になる。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具（芹沢 83548）、東栄（小林 61330）。各 1 カ所に小群落がある。三重県や岐阜県の山地ではやや普通に見られる植物であるが、愛知県や静岡県では極めて稀である。

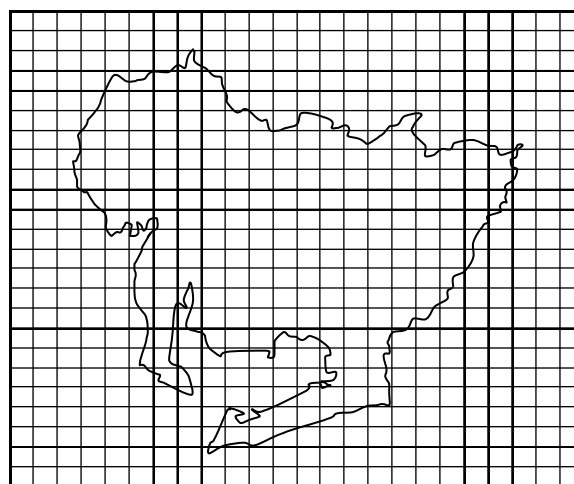
【国内の分布】

北海道、本州、四国（剣山）、九州（宮崎県）。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの岩上や礫質の地上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

群落はどちらも小さく、茎長も 20cm 程度で、生育状態はよくない。地滑りや鉄砲水があれば、容易に絶滅してしまう。

【保全上の留意点】

森林の伐採を避け、生育地の現状を維持する必要がある。

【特記事項】

白山の名がつく植物には高山性のものが多いが、本種は高山性ではない。

【関連文献】

保草Ⅱp.180、平草Ⅱp.134、SOS 旧版 p.54。

マルバタネツケバナ *Cardamine* sp.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 4。本地域の低湿地に固有の、未記載の植物である。おそらくはオオバタネツケバナの変種となるのではないかとと思われる。

【形態】

多年生草本。茎は分枝して斜上し、高さ 20～40cm になる。葉は互生し、下部のものには長さ 2～5cm の柄があり、葉身は長卵形～楕円形、長さ 3～6cm、幅 1.5～3cm、先は円頭でしばしば微凹端、辺縁には少数の丸い大きな鋸歯があり、基部はくさび形で時に小さい側羽片をつける。花期は 4 月中旬～5 月上旬、茎の先端に総状花序を出し、白色の花をつける。花弁は 4 枚で倒卵形、長さ約 3mm である。果実は線形で、長さ 1.5～2.5cm、7～12mm の柄がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

岩倉西春（芹沢 77353）、祖父江（渡辺幸子 3859）、海部東部（芹沢 77336）、海部西部（芹沢 75360）。木曾三川と五条川の下流域に生育している。

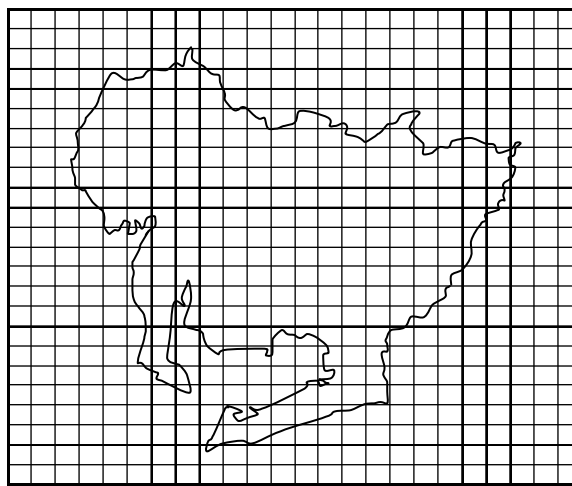
【国内の分布】

本州（濃尾平野）。よく似て多少異なるものが、九州（筑後川下流部）にある。

【世界の分布】

日本固有。オオバタネツケバナは北海道～九州、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムールなどに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

河川下流部河川敷のヤナギ林内や林縁で、満潮時には水没するような場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地			○	
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところ個体数は多いが、河川敷開発の影響を受けて、生育可能地が減少している。甚目寺町五条川には大きい群落があったが、清掃工場建設により、大半が破壊された。長良川河口部にあったものは、河口堰の建設により水位の変動がなくなり、ほぼ全滅した。

【保全上の留意点】

河川敷のヤナギ林やヨシ原は、平野部の本来の自然の姿を残す貴重な場所であり、絶滅危惧種が集中して生育している場所でもある。丘陵地の湧水湿地とともに、保全上の重要性は極めて高い。特に河口部では、潮の干満による水位の変動が環境の重要な要素になっており、保全を考える際にはこの点に対する配慮が必要である。

【特記事項】

和名はレッドデータブックあいち 2001 植物編で新称されたもので、葉があまり切れ込まず、しばしば単葉になることによる。名古屋市の近郊にさえ、このような未記載の植物がある。東海地方の自然誌の調査は、これほど遅れている。

【関連文献】

SOS 新版 p.166,202,204。  
芹沢俊介, 1995. エコロジーガイド 人里の自然, p.155. 保育社。

## ダンドミズキ *Corylopsis gotoana* Makino var.

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。分布域が限られており、分類学的に検討を要する植物である。

### 【形態】

落葉性の低木。よく枝分かれし、高さ 2~3m になる。若枝は黄褐色で無毛である。葉は互生し、長さ 1~2cm の柄があり、葉身は卵形~楕円形、長さ 6~10cm、幅 4~6.5cm、先端は短くとがり、基部は浅い心形、8~10 対の側脈があり、表面は無毛、裏面はやや白色を帯び、脈上にも脈間にも長軟毛がある。葉縁の鋸歯は先端が芒状になる。花期は葉が展開する前の 4 月、花序は短枝の先端につき、長さ 4~5cm で下垂する。花は 1 花序に 6~10 個つき、黄色、花弁は 5 枚、狭倒卵形で長さ約 1cm、雄ずいは長さ約 5mm で花弁より短く、葯は暗黄色である。

雄ずいが花弁より短く、葯が暗黄色である点でキリシマミズキに似ているため、しばしばキリシマミズキと同定される。しかし、葉の形態はコウヤミズキ(ミヤマトサミズキ) *C. gotoana* Makino に近く、キリシマミズキとはかなり異なっており、コウヤミズキの新変種とすべきものである。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

稲武(小林 36250)、設楽西部(芹沢 71752)、足助(小林 56240)。

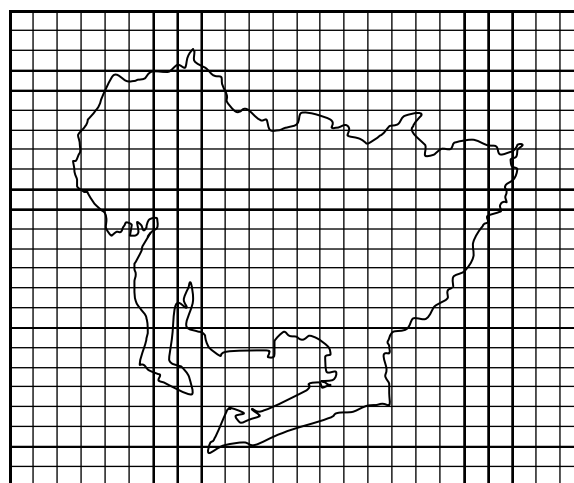
#### 【国内の分布】

本州(長野県西部、岐阜県、愛知県、奈良県)、四国(高知県、愛媛県)。

#### 【世界の分布】

日本固有。種としては日本および朝鮮半島に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少ないが、3カ所はややまとまった集団である。他の樹木の生長により被陰されて、全体的に衰退傾向にある。

### 【保全上の留意点】

二次林を適度な間隔で伐採し、さまざまな発達段階が混在する里山状態を維持することが必要である。

### 【特記事項】

コウヤミズキ var. *gotoana* は三河山地に点在しており、尾張でも瀬戸尾張旭の一部に見られる。

**ミカワショウマ** *Astilbe thunbergii* (Sieb. et Zucc.) Miq. var. *okuyamae* (H.Hara) Ohwi

**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。日本列島で多様に分化しているアカショウマ群の 1 型で、愛知県に固有の変種である。

**【形態】**

多年生草本。茎は斜上し、長さ 40～80cm になる。根出葉は 2 回または一部が 3 回の 3 出複葉、頂小葉は卵形で、先端は尾状～鋭尖頭、基部は浅心形で、辺縁には浅い重鋸歯がある。茎葉は小さく、時にはほとんど発達しない。花期は 7～8 月、花序は円錐状で、茎の先端に 1 個つき、白色の花を密につけ、下方の側枝は分枝する。がく裂片は卵状披針形で長さ約 1.2mm。花弁は 5 枚でさじ状線形、長さ約 4mm である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

設楽東部（小林 53625）、鳳来北東部（芹沢 52501）、小原（塚本威彦 1309）、藤岡（塚本威彦 2671）、豊田北西部（畑佐武司 1452）、瀬戸尾張旭（芹沢 81905）。東三河、西三河、尾張の 3 地区とも分布しているが、実際の分布範囲は限られており、自生地も多いものではない。

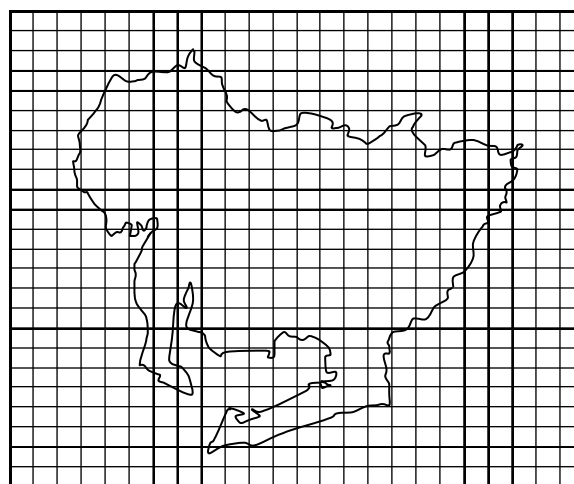
**【国内の分布】**

本州（愛知県）。本県に固有の植物である。

**【世界の分布】**

日本固有。種としても日本固有種である。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

沢沿いの岩上に生育する。地上に生育していることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

東三河では、「ミカワ」の名がつくため園芸目的で採取され、減少している。西三河、尾張では被陰による衰退が懸念される。沢沿いに生育するため、周辺の伐採の影響による沢すじの荒廃で失われることもある。

**【保全上の留意点】**

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

**【特記事項】**

茎葉の発達が悪いこと、小葉の辺縁に欠刻がないことがよい特徴である。

**【関連文献】**

保草Ⅱp.149、平草Ⅱp.166、SOS 旧版 p.56+図版 8、環境庁 p.470、SOS 新版 p.34,36。

ツルネコノメソウ *Chrysosplenium flagelliferum* Fr.Schm.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

小型の多年生草本で、高さ 3～15cm になる。地上性の走出枝があり、花茎の葉と同形の葉を互生し、花後に成長して先端で発根し、新個体となる。根出葉は長さ 5～8cm の柄があり、葉身は円形で基部は心形、長さ 2～3.5cm、辺縁に 7～17 個の鋸歯があるが、花時には枯れることが多い。茎葉は小さく、扇形で長さ 2～8mm、幅 3～9mm である。花期は 4～5 月、集散花序を頂生し、直径 3～6mm の花をつける。がく裂片は 4 枚、広卵形で花時に平開し、緑色または黄緑色、長さ 1～2mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根(小林 51344)。1カ所に小群落がある。

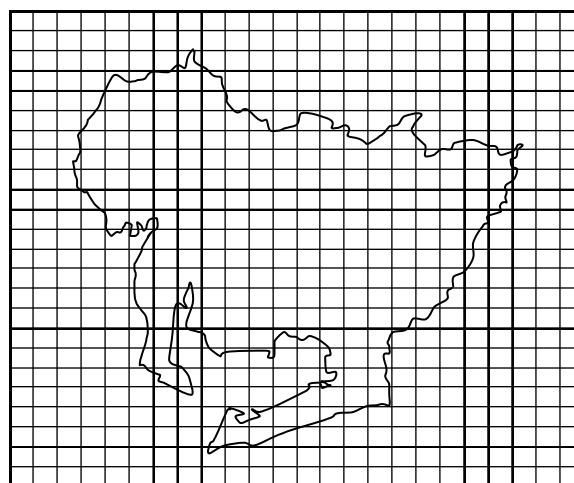
【国内の分布】

北海道、本州(近畿地方以北)、四国(剣山)。

【世界の分布】

千島列島、日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、アムール、ウスリー。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

スギ林内の沢の源頭部に生育しており、現在のところ生育状況は良好であるという。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全する必要がある。

【特記事項】

タチネコノメソウ *C. tosaense* (Makino) Makino に似ているが、地上性の走出枝がある。

【関連文献】

保草Ⅱp.140、平草Ⅱp.160。

ビロードノリウツギ *Hydrangea paniculata* Sieb. et Zucc. var. *velutina* Nakai

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。分布域の狭い、本県に固有の変種である。

【形態】

落葉性の小高木あるいは低木。高さ 4m に達する。樹皮は灰白色で、不規則に裂けてはがれる。葉は対生または 3 輪生、長さ 1~3cm の柄があり、葉身は楕円形~卵状楕円形、長さ 5~15cm、幅 3~8cm、先端は短く鋭尖頭、基部は広くさび形または円形、辺縁には内曲した鋭鋸歯があり、両面に短毛を密生する。花期は 8~9 月、花序は円錐状で枝先に頂生し、長さ 8~30cm に達する。装飾花のがく片は通常 4 枚、長楕円形~円形、長さ 1~2cm、白色で果時には淡紅色か淡緑色に変わる。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 53586）、設楽東部（小林 38772）、鳳来北東部（芹沢 83356）。

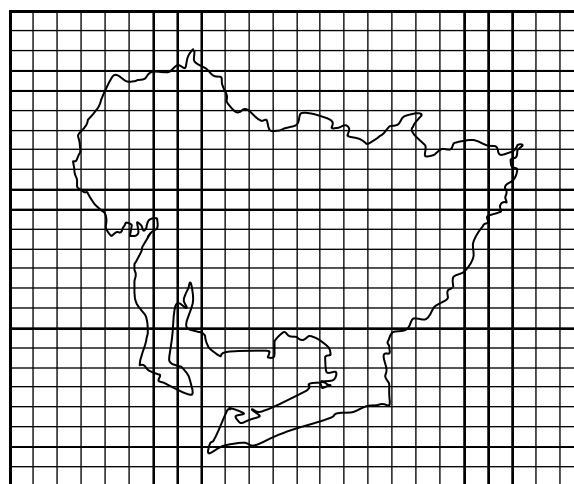
【国内の分布】

本州（愛知県東三河の一部）。本県に固有の植物で、狭い範囲だけに分布している。

【世界の分布】

日本固有。種としては千島列島南部から中国大陸まで分布している。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

沢沿いや尾根などの岩崖地に生育する。自然地形の場所だけでなく、林道のわきなどにも生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

分布範囲は狭いが、その中では点在している。しかし、大きな群落はない。林道わきに生育しているものは、改修などの際に失われる可能性がある。

【保全上の留意点】

陽性の低木なので、個体群の維持には適度の攪乱が必要である。林道の改修等が行われる場合、法面に岩肌が残されればそのうちに再度生育すると思われるが、コンクリートで固められれば復活は不可能である。工事に際し、配慮が必要である。

【特記事項】

形態的には基準変種のノリウツギから葉に密毛がある点で異なるだけであるが、分布域が限定されており、開花期が 1 ヶ月程度遅く、単なる品種ではないと思われる。

【関連文献】

保木Ⅱp.120、平木Ⅰp.168、SOS 旧版 p.56+図版 7、SOS 新版 p.46,48。

ヤブサンザシ *Ribes fasciculatum* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。分布域は広いが、全国的に個体数の少ない低木で、丘陵地の開発等により減少傾向にある。

【形態】

落葉性の低木。下部からよく分枝し、高さ 1m くらいになる。樹皮は縦方向にはがれる。葉は互生し、長さ 2~3.5cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 2~6cm、幅 2.5~6cm になり、薄い草質で掌状に 3 浅・中裂し、先端は円頭または鈍頭、基部は切形、辺縁には欠刻状の鈍鋸歯がある。花期は 4~5 月、雌雄異株で、花は雄花は 3~6 個、雌花は 2~4 個が短枝の葉腋に束状につく。がくは 5 裂し、直径 6~8mm、黄緑色で裂片はそり返る。果実は球形、直径 7~8mm となり、赤く熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄(芹沢 81772)、豊橋北部(芹沢 67024)、田原赤羽根(小林 41079)、渥美(小林 47024)、豊田東部(山崎玲子 1031)、瀬戸尾張旭(塚本威彦 496)、日進長久手(半田多美子 2759)、犬山(塚本威彦 s.n.)、春日井(村松正雄 797)、名古屋北部(鳥居ちよ子 1734)、名古屋南東部(渡辺幸子 4995)。刈谷知立(刈谷市井ヶ谷町、芹沢 34432, 1982-5-1)で採集された標本もある。

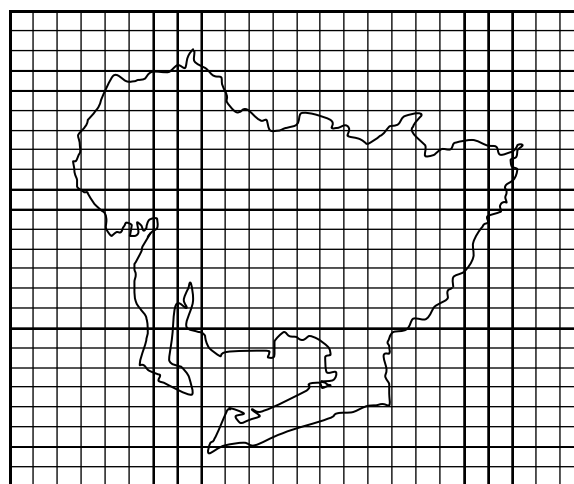
【国内の分布】

本州、四国、九州。山野に生ずるが、多いものではない。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

二次林の林縁や岩礫地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では比較的広い範囲に点在するが、個体数は多いものではない。一方で丘陵地の開発による生育地の破壊、他方で里山の利用停止に伴う森林化の進行による被陰で、減少傾向にある。豊橋北部では石巻山の石灰岩地に生育しており、この場所は国指定の天然記念物として保護されている。

【保全上の留意点】

おそらくはやせ山に依存する植物であり、そのような環境の保全が必要である。やせ山のような自然・半自然環境は、近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。

【特記事項】

ヤブサンザシの名の通り、どうということのない藪地にも生育していることがある。調査の際には注意が必要である。

【関連文献】

保木Ⅱp.102、平木Ⅰp.159、SOS 旧版 p.57。



ヤマブキショウマ *Aruncus dioicus* (Walt.) Fern. var. *tenuifolius* (Nakai) H. Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

多年生草本。高さ 30～80cm になる。根茎は太く、分枝する。葉は大きく、互生し、2 回 3 出複葉、小葉は卵形、長さ 3～10cm、先端は尾状鋭尖頭、辺縁には欠刻と鋸歯がある。花期は 6～8 月、雌雄異株で、茎の先端の長さ 10～30cm の複総状円錐花序に、多数の白色の小さい花をつける。花弁は 5 個、へら形で、雄花には約 20 個の雄ずい、雌花には直立した 3 心皮がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

富山 (小林 52774)。

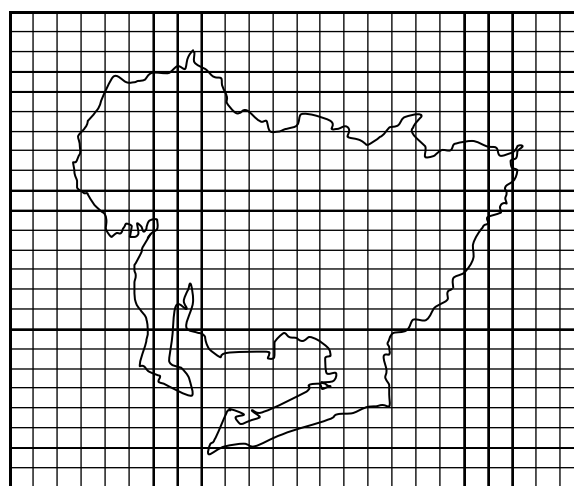
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の山地に生育する。北日本では普通に見られる植物である。

【世界の分布】

北半球の温帯に広く分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの林縁に生育する。愛知県の生育地は、ヒノキ造林地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では小群落があるだけで、植物体も本種としては小形である。造林地の手入れ不足により、被陰されて衰退傾向にある。自生地周辺ではシカの食害が著しく、その影響も懸念される。

【保全上の留意点】

生育地の造林地について、間伐などの適切な管理を行うことが必要である。シカの個体数調整も急ぐ必要がある。

【特記事項】

和名は、小葉の形がヤマブキによく似ているからだと言われる。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.121、平草本Ⅱ p.174。

イワキンバイ *Potentilla dickinsii* Franch. et Sav.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯域の岩崖地に生育する植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。高さ 10～30cm になり、全体に伏毛がある。根出葉は長い柄があり、葉身は 3 出葉または 5 小葉からなる奇数羽状複葉、後者の場合下方 1 対の小葉は小さい。小葉は、ひし状卵形で長さ 2.5～5cm、先端はとがり、辺縁にはあらい鋸歯があり、裏面は緑白色となる。茎葉は少数である。花期は 6～7 月、茎の先端に分枝した花序をつけ、直径 1cm 程度の黄色の花を数個～十数個つける。がくは 5 裂し、裂片は狭卵形で鋭くとがり、花弁は 5 枚で、倒卵形である。

【分布の概要】

【県内の分布】

津具(芹沢 51662)、設楽西部(小林 44956)。

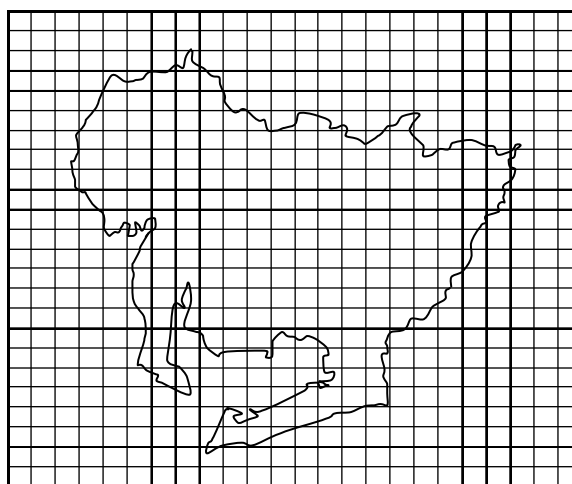
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州に生育する。

【世界の分布】

千島列島南部、日本、朝鮮半島に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の日当たりのよい、あるいは半日陰の岩上に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 カ所とも個体数は少なく、株も概して小さいものが多い。開発等が想定される場所ではないため、園芸目的の採取がなければ、当面は存続するものと思われる。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

日本産の岩崖地性キジムシロ属の種の中では、最も南に分布している。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.136、平草本Ⅱ p.178。

## テリハキンバイ *Potentilla riparia* Murata

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。

### 【形態】

多年生草本。根茎は短く、直径 3～5mm だがミツバツチグリのようには肥厚することなく、長い走出枝を出す。葉は束生し、花時のものは長さ 2～10cm の柄があり、葉身は 3 出葉、中央小葉は広楕円形～広卵形で長さ 1～2.5cm、幅 0.8～2cm、中上部の辺縁には丸味を帯びた大きい鋸歯があり、時に小さな側羽片をつける。花後の葉は大きく、中央小葉は長さ 5cm、幅 3cm に達する。花茎は長さ 4～20cm、2 個の葉をつけるが下方のものは葉身がほとんど退化し、先端に 1～5 個の花をつける。花は黄色で、直径 1～1.5cm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

旭（芹沢 81260）、藤岡（日比野修 2181）、足助（芹沢 81228）、豊田東部（芹沢 81219）。県内では矢作川中流域だけに分布する種類で、そこでは点在するが、他の場所での生育は確認されていない。

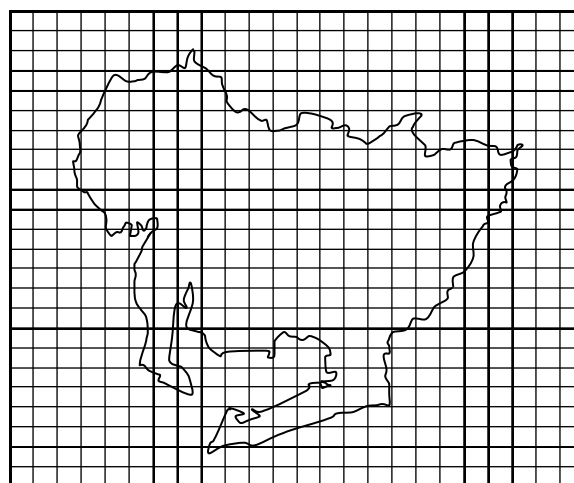
#### 【国内の分布】

本州（愛知県以西）、四国。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

川沿いの林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

矢作川沿いに小群落が点在しているが、多いものではない。路傍の土手や崖地に多いので、道路の拡幅によって失われるおそれがある。

### 【保全上の留意点】

矢作川やその支流沿いの道路を整備する際には、特に注意が必要である。

### 【特記事項】

池田ほか（2005）によって愛知県での分布が確認された種類である。

### 【引用文献】

池田 博・津坂真智子・天野 誠, 2005. 愛知県初記録のテリハキンバイ(バラ科). 分類 5: 123-125.

### 【関連文献】

保草本Ⅱp.136、平草本Ⅱp.178.

ハチジョウイチゴ *Rubus ribisoideus* Matsum.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、個体数も少ない。

【形態】

落葉性の低木。茎は直立または斜上して分枝し、高さ 1~2m になる。葉は互生し、広卵形~卵円形、先端は鋭頭、基部は切形または心形、長さ 5~7cm、3~5 に浅~中裂し、裏面は全面に短毛があり、ピロード状である。花期は 2~4 月で、花は葉の基部に 1~3 個つき、白色で直径 3~4cm、花弁は 5 枚である。果実は球形で直径 1~1.2cm、橙黄色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美(芹沢 82797)。知多南部(篠島)にもあるが、良好な標本を採取できていない。知多南部では野島にもあるという(小林・深谷, 2008)。

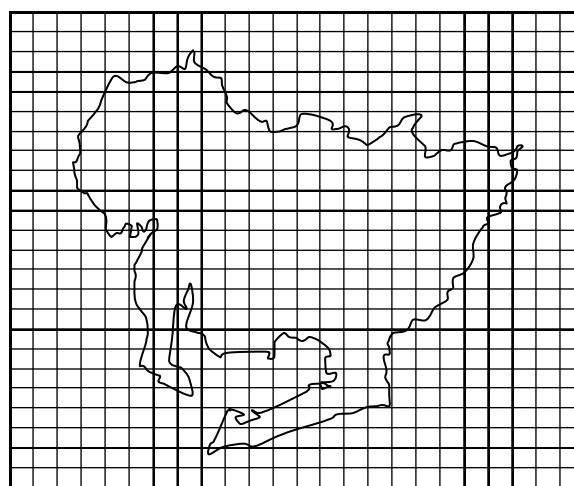
【国内の分布】

本州(伊豆七島、東海地方、紀伊半島、山口県)、四国、九州の沿海地に生育する。静岡県や紀伊半島では、少ないものではない。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸近くの林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

常緑広葉樹林の林縁や道路沿いなどに生育しているが、ヒサカキ、ネザサなどの繁茂が著しく、場所によっては衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

陽性の植物なので、存続のためには伐採など適度の攪乱が必要である。

【特記事項】

葉に密に短毛があることが特徴で、ピロードカジイチゴとも呼ばれる。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.191, 239. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保木本Ⅱ p.82、平木本Ⅰ p.207.

オオバナスビトハギ *Desmodium laxum* DC.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は直立し、花序を含めて高さ 60～100cm になる。葉は茎の下方に集まってつくことが多く、3 出葉、頂小葉は卵形または楕円形、先は多少とも伸びてとがり、長さ 5～15cm、幅 3～6cm、やや硬い洋紙質である。花期は 8～9 月、花序は茎の先端につき、長さ 20～40cm、通常総状であるが、ときに根元から分枝することもある。花は紅紫色で長さ約 7mm、果実は 2～4 小節果からなり、長さ 10～18mm の柄があり、小節果はゆがんだ半円形、狭く接着して熟すとばらばらになり、全面にかぎ毛があつて動物に付着する。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（小林 39718）、豊川宝飯（小林 33954）、蒲郡御津（小林 39894）。

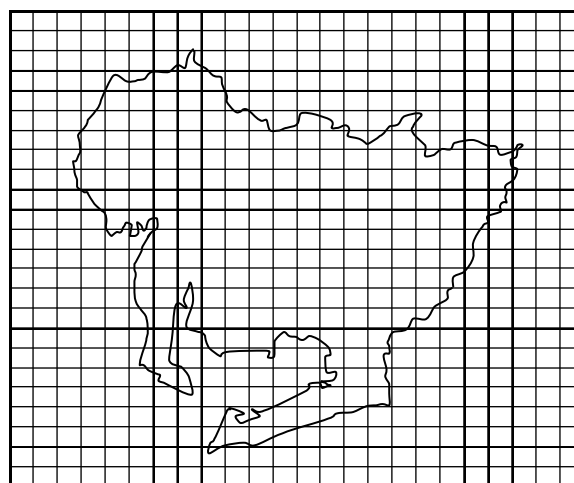
【国内の分布】

本州（千葉県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本からインドシナ、ヒマラヤ東部、インド、セイロンにかけて分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

平野や丘陵地の林内に生育する。自然林のほか二次林やスギ造林地にも見られ、しばしばかなり暗い場所に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○	○	
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

個体数は少ないが、耐陰性のある植物なので、現在のところ衰退してはいない。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全することが必要である。造林地はそのうちに伐採されるはずであるが、その際にも大面積の皆伐は避ける必要がある。

【特記事項】

茎の下部に集まる常緑性の葉が特徴である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.102、平草本Ⅱ p.203。

## サイカチ *Gledistia japonica* Miq.

### 【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。大型の木本で、自生と思われるものは生育地も個体数も極めて少ない。植栽または植栽起源の逸出個体は、評価の対象外である。

### 【形態】

落葉性の高木。高さ 20m、直径 1m に達し、幹には枝の変化した大型の刺がある。葉は 1~2 回羽状複葉、1 回羽状複葉は狭倒卵形で短枝につき、小葉は 12~24 枚で楕円形、円頭~鈍頭、長さ 3~5cm、2 回羽状複葉は広倒卵形または広楕円形で長枝に互生し、4~8 対の羽片があり、各羽片には 12~20 枚のやや小さい小葉がつく。花期は 5~6 月、短枝の葉腋から長さ 10~15cm の総状花序を出し、雄花、または雌花を密につける。花は黄緑色、長さ 5mm 程度である。豆果は広線形、ねじれて長さ 20~30cm になり、濃紫色に熟し、中に 10~25 個の種子がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

稲武 (小林 43105)、旭 (小林 43124)。このほか、新城 (石川静雄 146)、豊橋北部 (小林 61183)、尾西 (渡辺幸子 2919) にも野生状態のものがある。明らかに植栽されたものは、他にもあちこちで見られる。

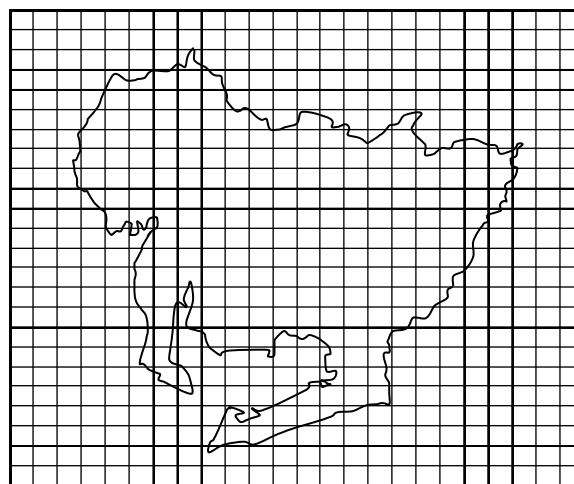
#### 【国内の分布】

本州、四国、九州に生育する。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

河岸や原野の水辺などに生育し、またしばしば植栽される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○		○	
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

川岸に生育しているが、個体数は少なく、どこでも単木か、せいぜい数株が生育しているだけである。川岸以外のは、おそらく植栽起源である。尾西では、母樹は伐採され、切り株のまわりに数本の若木が生えているだけである。他の場所でも、希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがある。

### 【保全上の留意点】

個別的な保全が必要である。

### 【特記事項】

幹の鋭い刺がよい特徴である。

### 【関連文献】

保木本 I p.357、平木本 I p.236。

## イタチササゲ *Lathyrus davidii* Hance

### 【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の植物で、愛知県では個体数が極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

多年生草本。全体ほとんど無毛で、高さ 60~200cm になる。葉は互生し、羽状複葉、小葉は 4~8 枚、楕円形~卵形で鈍頭、長さ 3~8cm、幅 2~4cm、裏面は白緑色で網状脈が目立ち、葉軸の先は分枝した巻きひげとなる。托葉は大きく、鋭頭、長さ 12~35mm である。花期は 7~8 月、葉腋に 20~30 個の花からなる総状花序をつける。花は長さ 15~18mm、はじめ黄色であるが、後に黄褐色に変わる。豆果は扁平な線形、長さ 8~10cm、幅 5~6mm、中に 11~17 個の種子がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東栄(芹沢 80833)、豊橋北部(小林 66940)、足助(中西・堀田 357)。どの場所でも個体数は極めて少ない。

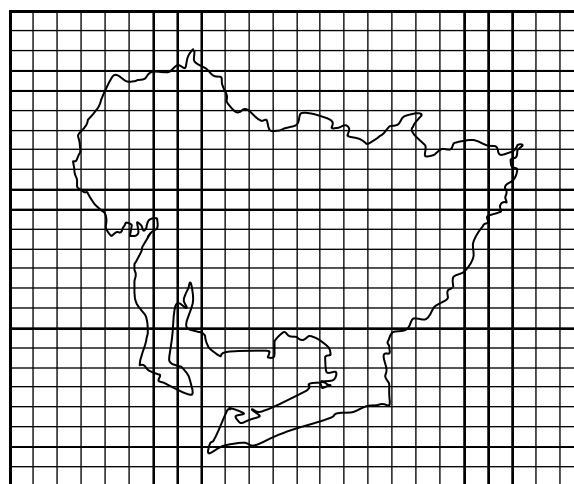
#### 【国内の分布】

北海道、本州、九州。長野県まで行けば普通に見られる植物である。

#### 【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸(北部・東北部)、ウズリー。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

林縁の草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

やや不安定な立地に生育しており、個体数が少ないため、土地の改変や過度の草刈りがあれば容易に絶滅してしまう。

### 【保全上の留意点】

適度な伐採や草刈りにより、林縁の草地状態を維持することが必要である。

### 【特記事項】

和名は、花の色がイタチの毛皮の色に似ているからである。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.104、平草本Ⅱ p.200。

レンリソウ *Lathyrus quinquerivius* (Miq.)Litv.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。大陸系の草地性植物で、愛知県では生育地も個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は3稜形で幅1~2mmの翼があり、直立して高さ80cmに達する。葉は互生し、偶数羽状複葉、小葉は2~6枚、狭長楕円形で両端は細くとがり、鋭頭、長さ5~10cm、幅4~7mm、托葉は基部で大小に2裂し、ほぼV字形になる。葉軸の先の巻きひげは分枝しない。花期は5~7月、葉腋に総状花序を出し、長さ1.5~2cmの紫色の蝶形花を4~8個つける。豆果は広線形、長さ3~4.5cmである。

【分布の概要】

【県内の分布】

半田武豊（渡邊麻子 330）、常滑（中井三従美 s.n.）。安城にもあるという（安城市史編集委員会, 2005）。

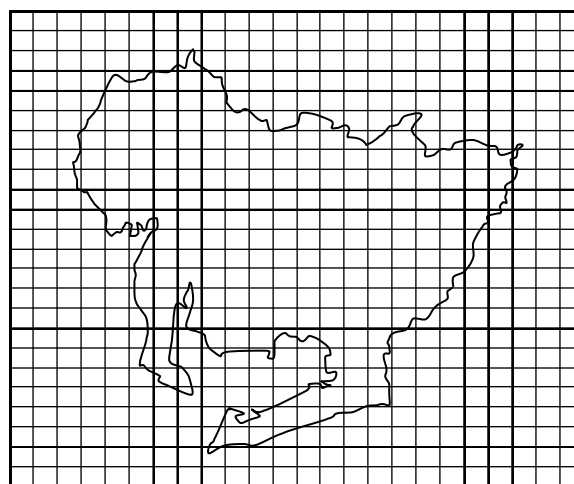
【国内の分布】

本州および九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、アムール、ウズリー、シベリア東部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

やや湿った日当たりのよい草地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○	○	
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

安城の自生地は矢作川の堤防であり、他所からシバと共に移入された可能性もある。半田武豊と常滑は、愛知用水わきの草地に貧弱な小群落があったが、ごく最近の状況は確認されていない。これらも、移入の可能性は否定できない。

【保全上の留意点】

愛知用水などの幹線水路わきの草地は、定期的に草刈りが行われるため遷移が進行せず、多くの草地性植物の逃避場所になっている。改修工事に際しては、これらの植物の最後の「頼みの綱」を断ち切らないよう、十分な配慮が必要である。

【特記事項】

細く直立した小葉が特徴である。和名は、対になった小葉が連なって生じるからである。

【引用文献】

安城市史編集委員会(編), 2005. 新編安城市史 11 資料編自然別冊 安城市植物目録 p.48. 安城市, 安城.

【関連文献】

保草本Ⅱp.104、平草本Ⅱp.199、SOSp.60。



イヌハギ *Lespedeza tomentosa* (Thunb.) Sieb. ex Maxim. (図版 6)

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい草地性植物で、愛知県でも個体数が少ない。

【形態】

多年生草本。高さ 60～150cm になり、全体に褐色をおびた斜上する毛がある。葉は互生し、下部の葉には長さ 2～4.5cm の柄があり、葉身は 3 出葉、頂小葉は楕円形～長楕円形、円頭、長さ 3～6cm、幅 1.5～3cm である。花期は 7～9 月、茎の先端や上部の葉腋から出た枝の先に長い総状花序をつける。花は黄白色で、多数つき、長さ 8～10mm の蝶形花、がくは 5 深裂し、長さ約 6mm である。通常花のほかに、閉鎖花が葉腋に集まってつく。豆果は卵形で、長さ 4～5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

稲武 (塚本威彦 2544)、鳳来北西部 (小林 53875)、豊川宝飯 (小林 76792)、豊橋北部 (芹沢 67028)、豊田東部 (畑佐武司 2443)、西尾 (芹沢 67587)、東海知多 (鳥居ちる子 2506)、名古屋北部 (鳥居ちる子 2440)。

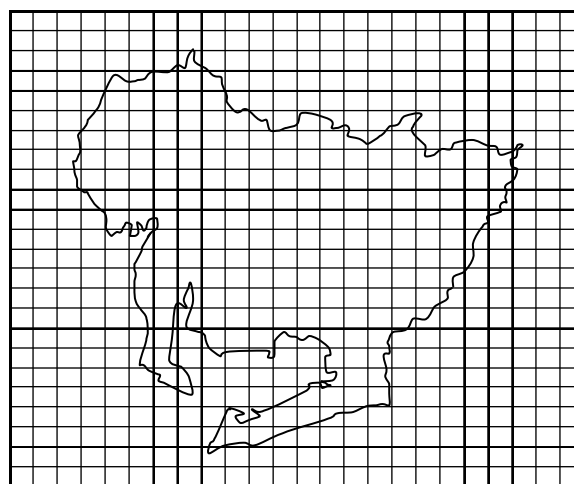
【国内の分布】

本州、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド、ヒマラヤ。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地に生育する。しばしば用水わきの草地に生育している。川原などに見られることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩		○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育区画は比較的多いが、どの場所でも個体数は少なく、散在的に生育しているだけである。採草草が利用されなくなったため、本種が生育できるような場所は著しく減少している。用水わきの草地に生育しているものは、しばしば改修工事により消滅してしまう。

【保全上の留意点】

草地の保全が必要である。特に幹線水路わきの草地は多くの草地性植物の逃避場所になっており、改修工事の際には十分な配慮が必要である。

【特記事項】

和名は、植物体が直立し、全体に黄褐色の毛が多い状態に由来するものと思われ、おそらくネコハギに対する名である。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.97、平草本Ⅱ p.206、SOS 旧版 p.60+図版 13、環境庁 p.479、SOS 新版 p.87,89。

ヨツバハギ *Vicia nipponica* Matsum.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。草地性の植物で、草地の減少に伴い激減している。

【形態】

多年生草本。茎は少数が叢生し、直立または斜上して長さ 40～80cm になる。葉は互生し、下部の葉には長さ 1～5cm の柄があり、葉身は偶数羽状複葉、小葉は 2～3 対で楕円形、長さ 2～4.5cm、幅 1.2～3cm、ほとんど無柄、先端は鈍頭～円頭のことが多いが鋭頭のこともある。葉の先端は巻きひげになるが、それが小突起に退化していることも多い。花期は 8～9 月、茎の先端や上部の葉腋から出た枝の先の短い総状花序に密に 7～25 個の花をつける。花は紅紫色～青紫色、長さ 10～15mm、がくは長さ 4～5mm で先は斜めに切れる。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（芹沢 56845）、新城（小林 32390）、豊川宝飯（小林 38289）、渥美（小林 48383）、足助（深見 弘 31）、小原（日比野修 2616）、幡豆（岡田 速 40）。東栄、豊橋北部にもあるという（小林, 2001, 2006）。ただしほとんどの区画では近況が確認されておらず、上記の個体数階級と集団数階級は見込み値である。額田（宮崎村牛滝, 井波一雄 s.n., 1947-10-20, CBM222773）、岡崎南部（生平, 高橋 孝 s.n., 1950-8-26）、知多南部（篠島, 岡田善敏 s.n., 1948-7-23）で採集された標本もある。

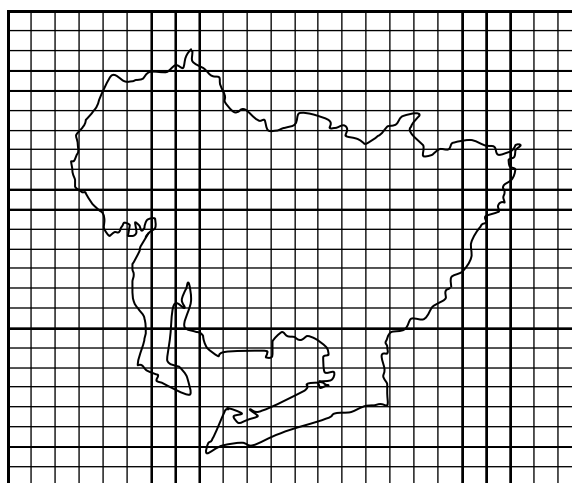
【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

日当たりのよい草地や、明るい疎林の下に生育する。愛知県では丘陵地・山地の林縁部や谷戸田のわきの草地に生育していることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○	○		
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1990 年代の初めまではそれほど稀少な植物でなかったが、森林化の進行や草地の放棄に伴い激減し、現在ではほとんど見ることができなくなった。

【保全上の留意点】

丘陵地や低山地の谷戸田周辺にある里草地（いわゆるボタ）は、草地性植物が多く生育しており、その中には絶滅危惧植物も多い。文化遺産としても重要で、特に保全に配慮する必要がある。

【特記事項】

マメ科植物では、やはり草地性のマキエハギも減少傾向が著しい。

【引用文献】

小林元男, 2001. 愛知県地域別植物誌(1) 豊橋市の植物 p.97. 愛知県植物誌調査会, 安城.  
小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.159. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.97、平草本Ⅱ p.206、SOSp.60+図版 13、環境庁 p.479.

イワタイゲキ *Euphorbia jolkinii* Boiss.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。自然度の高い海岸に生育する海浜植物で、愛知県では生育地が極めて少なく、個体数も少ない。

【形態】

多年生草本。茎は太く、多数が叢生して直立し、高さ 30~50cm、時にはそれ以上になり、傷がつくと白色の乳液を出す。葉は多数密に互生し、長楕円形~倒披針形、長さ約 4cm、先端は鈍頭、辺縁は全縁である。茎の先端には数枚の葉が輪生し、葉腋から散形枝を出し、各枝に杯状花序を頂生して、分枝を繰り返す。花期は 4~6 月、杯状花序の腺体は楕円形、苞葉は黄色で楕円形、長さ 1~2cm である。果実は直径約 5mm、表面にはこぶ状の突起が密生する。

【分布の概要】

【県内の分布】

幡豆(沖島、芹沢 58173)。梶島にもあるという(小林・深谷, 2008)。三河湾内の他の場所からも記録されているが、確実な資料は残されていない。

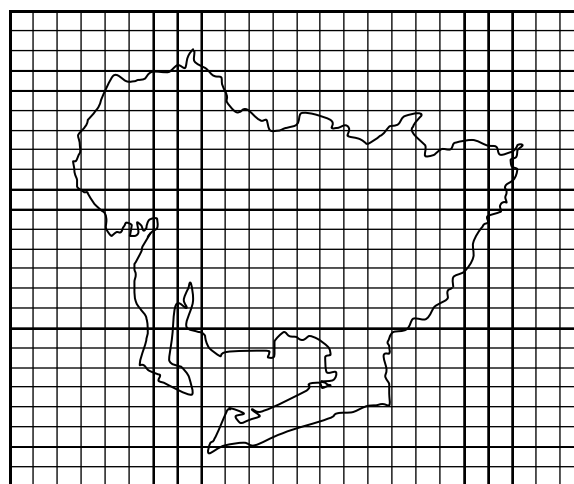
【国内の分布】

本州(関東地方南部以南)、四国、九州、琉球に生育する。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島南部、台湾、中国大陸に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の岩地に生育する。生育地の状態は、「植物からの SOS」(SOS 旧版) 31 図版に示されている。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				○
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭いが、かなり大型の株もある。現地は近づきにくい状態になっており、開発がなければ当面は現状どおり存続すると思われる。

【保全上の留意点】

現地は再開発が企画される可能性があり、そのような場合は特に配慮が必要である。

【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p192, 242. 佐久島会, 刈谷.

【関連文献】

保草本Ⅱ p.80、平草本Ⅱ p.226、SOS 旧版 p.62+図版 31、SOS 新版 p.147,149.

**シナノタイゲキ** *Euphorbia sinanensis* (Hurusawa) T.Kurosawa et H.Ohashi

**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。本州中北部に分布する植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が少ない。

**【形態】**

多年生草本。茎は少数が叢生して直立し、高さ 50～80cm になる。葉は互生し、披針形～倒楕円状披針形、長さ 5～6cm、幅 5～7mm、辺縁には細鋸歯があり、裏面に白色の長い軟毛がある。茎の先端には 5 枚の葉が輪生し、葉腋から散形枝を出し、各枝に杯状花序を頂生して、更に分枝する。茎頂に近い茎葉から花枝を腋生する。花期は 5～6 月、杯状花序の腺体は楕円形、苞葉は黄緑色で菱状卵形である。果実は直径 3～4mm、表面には小さいいぼ状の突起が密生する。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

新城（芹沢 54728）、豊川宝飯（小林 41917）、豊橋北部（芹沢 72926）。東栄にもあるという（小林, 2006）。

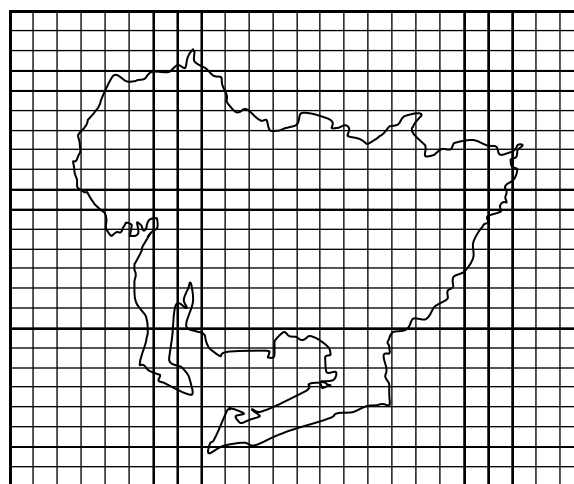
**【国内の分布】**

本州（東北地方～中部地方）。

**【世界の分布】**

日本固有種。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

草地や林縁、明るい落葉広葉樹林内などに生育する。愛知県の生育地は、蛇紋岩地、かんらん岩地などのやせた草地か、安山岩の風穴周辺である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

愛知県内で本種が自生している超塩基性岩地は、草地としての利用がされなくなるにつれ遷移が進行し、全体的に森林化する傾向がある。本種も、定期的に草刈りが行われる用水沿いなどの他では衰退傾向が著しい。

**【保全上の留意点】**

超塩基性岩地では必要に応じて草刈りや火入れを行い、非森林的環境を維持する必要がある。

**【特記事項】**

タカトウダイに似ているが、草丈が低く、開花期が 1 ヶ月ほど早い。

**【引用文献】**

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.161. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

**【関連文献】**

平草本Ⅱ p.227.

カンコノキ *Glochidion obovatum* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の樹木で、愛知県は分布域の北限に近い。県内では生育地も個体数も少ない。

【形態】

落葉または半落葉性の低木。高さ 1~6m になり、よく分枝し、短い枝はしばしば刺状となる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は下部の葉では倒卵形またはくさび形、上部のものでは狭倒卵形、長さ 2.5~5.5cm、幅 1.5~2.5cm、先端は鈍頭~切形、基部はくさび形、辺縁は全縁である。花期は 7~10 月、通常雌雄異株、花は白色で葉腋に束生する。果実は蒴果で 4~5 個の分果からなり、熟して褐色になり、中に各 2 個の朱色の種子を生じる。

【分布の概要】

【県内の分布】

渥美（芹沢 80802）。

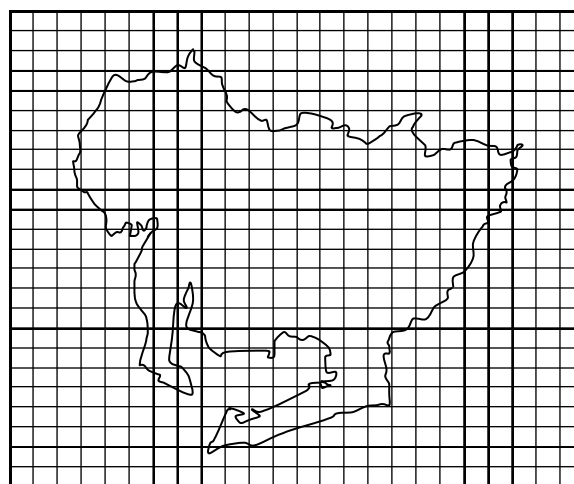
【国内の分布】

本州（東海地方以西）、四国、九州、琉球に分布する。紀伊半島南部では普通にみられる樹木である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸に近い丘陵地の、林縁や疎林に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				○
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

4 カ所で確認されているが、伊良湖岬を除く 3 カ所は数株があるにすぎない。伊良湖岬の林は将来とも保全されると思われるが、それ以外の生育地は開発等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

目立つ花をつける樹木ではないため、一般にあまり注目されることはない。伊良湖岬は観光地であり、今後も各種工事が行われると思われる。その際、希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがあるので、特に注意を要する。

【特記事項】

和名の語源はよくわからない。

【関連文献】

保木本 I p.340、平木本 I p.264、SOS 旧版 p.62、SOS 新版 p.146,149。

ホソエカエデ *Acer capillipes* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の樹木で、愛知県では個体数が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

落葉性の小高木ないし高木。高さ 10～15m になる。樹皮は緑色で黒斑がある。葉は対生し、有花枝に 1 対、無花枝に 1～4 対つき、長さ 4～8cm の柄がある。葉身は 5 角形～卵状 5 角形、3～5 浅裂し、長さ 8～15cm、幅 6～12cm、先端は尾状鋭尖頭、基部は浅心形から円形、辺縁には不ぞろいの重鋸歯がある。花期は 5 月、花序は総状で有花枝に頂生し、長さ 5～10cm で下垂し、雌雄異株、花は一つの花序に 20～50 個つき、淡黄色である。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ 1.3～1.8cm、翼は鈍角に開く。

【分布の概要】

【県内の分布】

東栄（小林 34193）、鳳来北東部（小林 62265）。設楽東部（鹿島山）にもあるという（小林, 2006）。

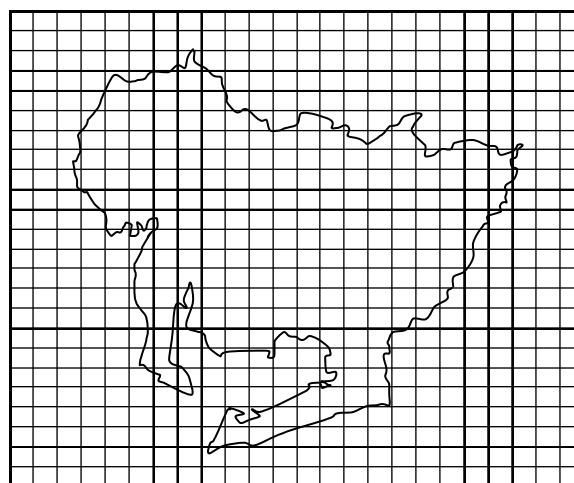
【国内の分布】

主として本州中部（福島県以南）に分布し、近畿地方、四国にも稀に生育する。長野県まで行けば普通に見られる種類である。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

一般的には山地の落葉広葉樹林内に生育するが、愛知県では岩崖地に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

愛知県では鳳来寺山系などの岩崖地に点在するが、個体数は極めて少ない。自生地は特に開発が想定されるような場所ではないが、個体数が少ないため、希少種であることを意識しない伐採等により失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

愛知県では希少な樹木であることを認識する必要がある。

【特記事項】

ウリハダカエデに似ているが、葉柄が長く通常紅色を帯びること、葉裏に毛が少なく、脈腋に小膜があることなどで区別できる。

【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p.58. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

【関連文献】

保木本 I p.297、平木本 II p.12.

**カラコギカエデ** *Acer ginnala* Maxim.

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 1。温帯性の樹木であるが、愛知県では暖帯域の丘陵地に生育しており、その点で注目に値する。県内では開発圧の高い場所に生育しており、個体数も少ない。

**【形態】**

落葉性の小高木。高さ 2～5m になる。葉は対生し、有花枝に 2～3 対、無花枝に 2～5 対つき、長さ 3～5cm の柄がある。葉身は楕円形、長さ 6～12cm、幅 3～7cm、3 浅裂またはほとんど切れ込まず、掌状の 3 脈および羽状脈があり、辺縁には大きな重鋸歯がある。花期は 5～6 月、花序は短い円錐花序で有花枝に頂生し、1 花序に雄花と両性花が混在する雄性同株、花は一つの花序に 30～150 個つき、淡黄緑色である。果実は 2 つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ約 3cm、翼は鋭角に開くか、ほとんど平行である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

瀬戸尾張旭（塚本威彦 1464）、犬山（芹沢 73744）、小牧（日比野修 4735）。名古屋南東部（中島ひろみ 648）にもあるが、これは逸出の可能性が高い。

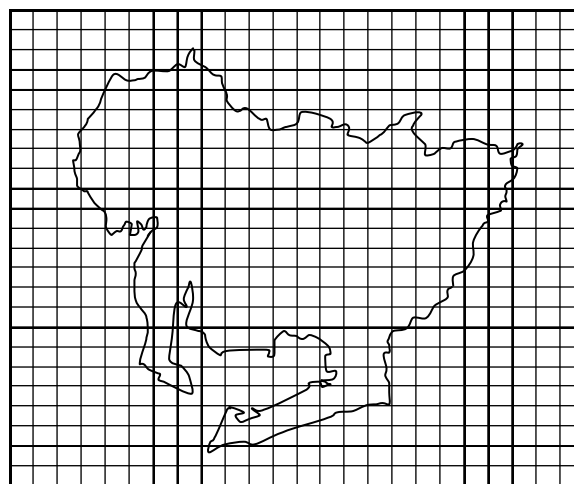
**【国内の分布】**

北海道、本州、四国、九州。

**【世界の分布】**

日本、朝鮮半島、中国大陸東北部、シベリア東部など。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

通常は寒冷地の湿地の林縁に生育する。愛知県の自生地は丘陵地の川岸である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

犬山では八幡地区の五条川沿いに点在している。瀬戸尾張旭には数個体、小牧には 3 個体があるだけである。いずれもよく果実をつける。一部の個体は、道路の拡幅や観光開発により伐採された。

**【保全上の留意点】**

観光開発や土木工事が想定される場所であり、希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがあるので、特に保全上の配慮が必要である。分布上注目すべき植物であることをよく認識する必要がある。

**【特記事項】**

和名は本来鹿の子木カエデで、樹皮が所々で剥げて鹿の子模様になることから来していると言われる。

**【関連文献】**

保木本 I p.294、平木本 II p.9、SOS 旧版 p.63。

## ハウチワカエデ *Acer japonicum* Thunb.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

落葉性の小高木。高さ7～10mになる。葉は対生し、有花枝に1対、無花枝に1～3対つき、長さ2～4cmの柄がある。葉身は掌状に浅～中裂し、長さ5～9cm、幅6～11cm、基部は心形、裂片は9～11で先端は短くとがり、辺縁に重鋸歯がある。花期は5～6月、花序は散房状、有花枝の先端に頂生して下垂し、1花序に雄花と両性花が混在する雄性同株、花は一つの花序に10～15個つき、暗紅色である。果実は2つの分果に分かれ、それぞれの分果は長さ約2.5cm、翼はほぼ水平に開く。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

富山（小林 44835）、豊根（芹沢 81925）、津具（小林 45731）。

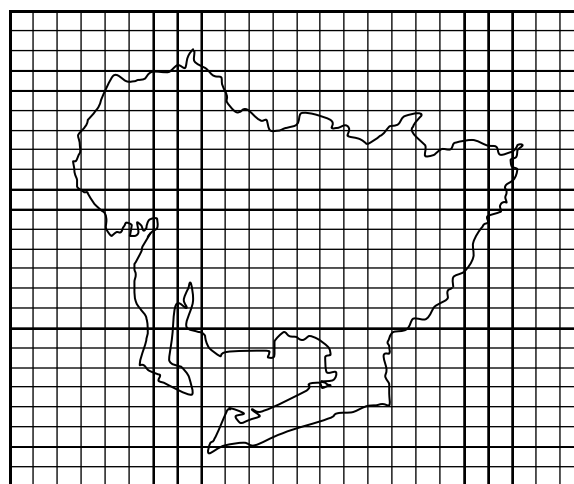
#### 【国内の分布】

北海道および本州。長野県まで行けば普通に見られる種類である。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

ブナ林内等に点在しているが、個体数は極めて少ない。希少種であることを意識しない伐採等により失われるおそれがある。

### 【保全上の留意点】

愛知県では希少な樹木であることを認識する必要がある。茶臼山周辺は、愛知県内では温帯性の植物が集中して生育している場所であり、自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発を避けるべきである。

### 【特記事項】

愛知県産のもの写真は、「植物からの SOS」（SOS 旧版）p.10 に掲載されている。

### 【関連文献】

保木本 I p.290、平木本 II p.11、SOS 旧版 p.10, 63。



ヤマビワ *Meliosma rigida* Sieb. et Zucc.

【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の小高木。高さ 10m、直径 30cm に達する。葉は互生し、長さ 2~4cm の柄があり、葉身は狭倒披針形または倒披針形、長さ 12~22cm、幅 3~7cm、先はやや急に鋭尖頭、基部は次第に細くなって葉柄に続き、革質、辺縁には通常粗い鋸歯があり、表面はほぼ無毛であるが、裏面には葉柄、若枝とともに褐色の綿毛が密生する。花期は 6 月、枝の先端に大きな円錐花序をつけ、花は白色、直径 4~6mm である。果実は球形で直径約 6mm、黒紫色に熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋北部（小林 49977）、渥美（名倉智道 99）。

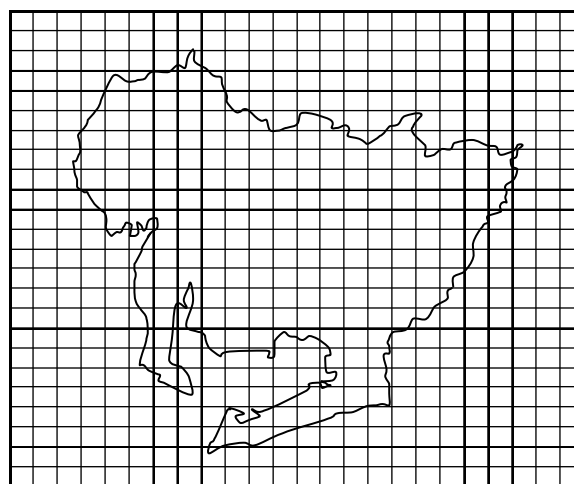
【国内の分布】

本州（伊豆半島以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の照葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

豊橋北部ではヒノキの若い造林地に少数株が生育している。渥美は林道沿いに 1 株が生育しているだけである。現在のところ開花するような個体は確認されておらず、生育状況はやや偶産的である。希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

個体数が少なく、また特別な環境の場所に生育しているものではないので、保全には造林地の下層木を除去する際切り残すなど、個別的な施策が必要である。

【特記事項】

和名は、葉がビワに似ているからである。

【関連文献】

保木本 I p.280、平木本 II p.24、SOS 旧版 p.63。

## エンシュウツリフネ

*Impatiens hypophylla* Makino var. *microhypophylla* (Nakai)H.Hara

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 4。分布域の狭い固有変種。静岡県ではほぼ絶滅状態らしく、岐阜県も 1 カ所に小集団があるのみで、現在ある程度の量が確認できるのは愛知県だけである。しかし、県内でも生育地は少ない。

### 【形態】

1 年生草本。茎は多汁質で分枝し、高さ 30~80cm になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身はひし状楕円形、長さ 4~13cm、幅 2~5cm、先端は鋭頭、基部はくさび形~浅い心形、辺縁には鋸歯がある。花期は 7~10 月、花序は葉腋から出て、すぐ下に曲がり、葉の裏にかくれるように下垂する。花は小型で長さ 15~20mm、淡紅紫色である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊根（芹沢 81920）、稲武（芹沢 74868）。津具にもあるという（小林, 2006）。

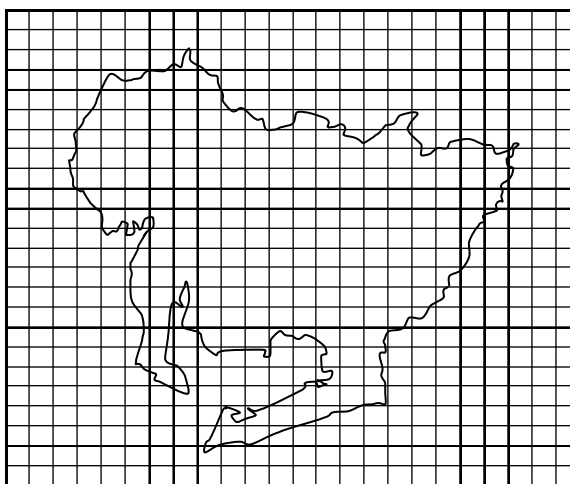
#### 【国内の分布】

本州（長野県南部、静岡県西部、愛知県東北部、岐阜県西部）に分布する。九州北部にも似たものがある。基準変種のアガクリツリフネ var. *hypophylla* は、本州（紀伊半島）、四国、九州に分布している。

#### 【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の沢沿いの林内の、多少開けた場所に生育している。自然度が高い地域の、しかも多少攪乱された場所に限って見られる植物である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は少ないが、そこにはある程度の個体数がある。倒木や軽度の攪乱の影響で、近年に限れば多少増加している傾向もある。しかし、分布が局限されていることから判断して、個体群の存続には何か微妙な条件を必要とするのではないかと思われる。

### 【保全上の留意点】

何が分布を限定しているのかよくわからず、その意味で特に気をつかわなければならない植物である。

### 【特記事項】

アガクリツリフネからは、花が小さく、花弁に濃色の斑点が少ない点で区別される。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 4 に掲載されている。

### 【引用文献】

小林元男, 2006. 北設楽の植物 p. 59, 165. 愛知県林業試験研究推進協議会, 新城.

### 【関連文献】

保草本Ⅱp.73、平草本Ⅱp.236、SOS 旧版 p.63、SOS 新版 p.23,25.

ナナミノキ *Ilex chinensis* Sims.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。暖地性の樹木で、愛知県では個体数が少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の小高木。高さ 6～10m になる。葉は互生し、長さ 1cm 前後の柄があり、葉身は長楕円形、長さ 6～11cm、幅 2.5～3.5cm、先は細くとがり、基部は鋭形、辺縁にはあらい鋸歯があり、薄い革質で両面無毛である。花期は 6 月、新枝の葉腋に集散花序をつけ、雌雄異株、雄花は多数、雌花は少数つき、淡紫色である。果実は広楕円形で長さ約 1cm、赤く熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部（小林 80743）、作手（小林 50561）、豊川宝飯（小林 68253）、岡崎北部（小林 55412）。

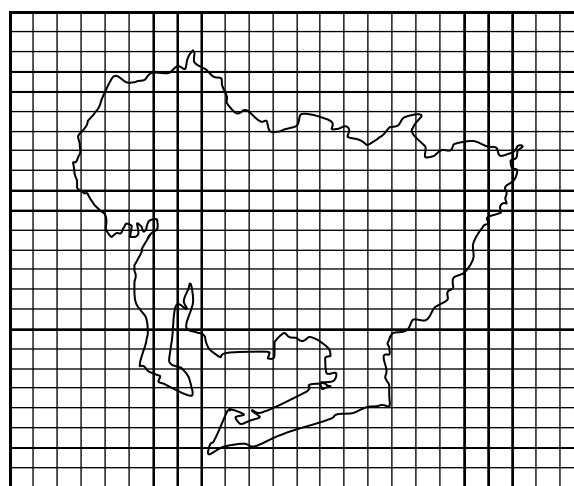
【国内の分布】

本州（静岡県以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および中国大陸。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の照葉樹林内や二次林内、造林地の林縁などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所も 1 本だけか、せいぜい数本があるだけで、個体数は少ない。林縁などのものは、不要な樹木として伐採されることがある。

【保全上の留意点】

個別的な保全が必要で、そのためにもまず、愛知県では希少な樹木であることを認識する必要がある。

【特記事項】

和名は七実の木で、美しい実がたくさんなるからだと言われる。

【関連文献】

保木本 I p.273、平木本 II p.28。

ミヤマウメモドキ *Ilex nipponica* Makino

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本海側に多い湿地性植物で、愛知県は分布域の南限にあたる。県内では生育地が少ない。総点は 14 であるが、隣接する岐阜県側に多いので絶滅危惧Ⅱ類と評価する。

【形態】

落葉性の低木。高さ 3~4m になる。葉は互生し、長さ 5~12mm の柄があり、葉身は倒披針形~長楕円形、長さ 3~10cm、幅 1.5~4cm、先端は鋭頭、鈍頭、円頭など変化が多く、基部は鋭形、辺縁に鋭鋸歯があり、両面無毛または裏面脈上に短毛がある。花期は 6 月、新枝の葉腋に集散花序をつけ、雌雄異株、雄花序は 4~6 個、雌花序は 2~4 個の白色の花をつける。果実は球形で直径約 6mm、赤く熟す。

【分布の概要】

【県内の分布】

小原(芹沢 81713)、藤岡(塚本威彦 1625)、瀬戸尾張旭(塚本威彦 3109)。岐阜県東濃地方の湿地では最も多い樹木の一つであるが、愛知県に入ると急に少なくなる。

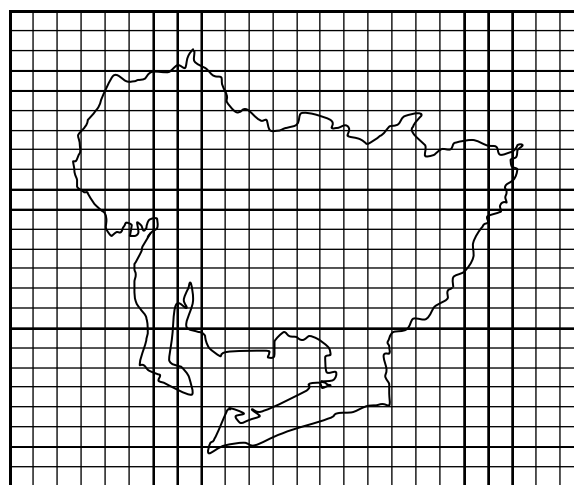
【国内の分布】

本州(東北地方、中部地方中北部、近畿地方北部)に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

湿地の中に低木林を作ったり、湿地周辺の林縁に生育したりする。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

3 区画とも岐阜県から僅かにはみ出したという状況で、県境に近い湿地に点在しているにすぎず、ほとんどの場所では個体数も少ない。周辺の樹木の生長による湿地の縮小により、愛知県内では衰退傾向にある。

【保全上の留意点】

岐阜県側には多い植物なので、一時的に消滅しても、再度分布を拡大してくることが期待される。個体の保護よりも、生育環境である湿地の保全が必要である。

【特記事項】

葉の形態に変異が大きく、分類学的な検討が必要な植物である。

【関連文献】

保木本 I p.272、平木本 II p.32。

**ツゲ** *Buxus microphylla* Sieb. et Zucc. var. *japonica* (Muell.Arg.ex Miq.)Rehd. et Wils.

**【選定理由】**

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に生育地が限定される樹木で、愛知県でも生育地が少ない。

**【形態】**

常緑性の低木（コツゲ）または小高木（ツゲ）。高さ 2～3m になり、密に分枝する。小枝は 4 角形で無毛である。葉は対生し、短い柄があり、葉身は倒卵形～長楕円形、長さ 1～3cm、幅 7～15mm、先端は円頭～鈍頭、革質で光沢があり、辺縁は全縁でやや裏側に巻く。花期は 3～4 月、花は淡黄色で、枝先や上部の葉腋に束生し、雄花に囲まれて 1 個の雌花がある。コツゲとツゲを区別するならば、コツゲは絶滅危惧ⅠB類、ツゲは絶滅危惧Ⅱ類である。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

東三河にコツゲの型（小林 41098）とツゲの型（加藤等次 767）が各 1 カ所、尾張にコツゲの型（芹沢 72783）が 1 カ所、生育している。鳳来南部（黄柳野）の群落はツゲの型で、国の天然記念物に指定されている。

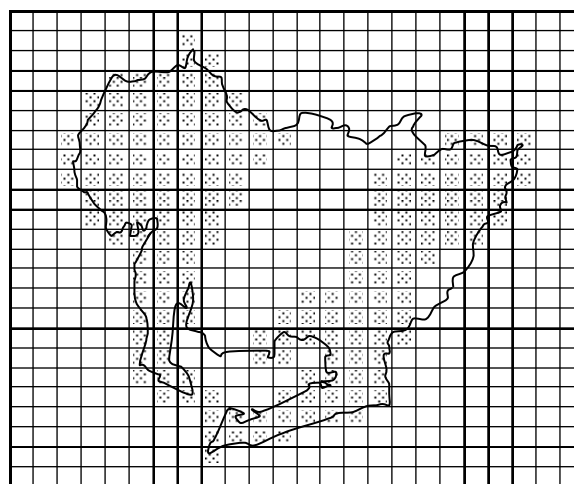
**【国内の分布】**

本州（関東地方以西）、四国、九州、屋久島に分布する。

**【世界の分布】**

日本固有。別亜種台湾アサマツゲは、琉球、台湾、中国大陸に分布している。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

一般に風衝地、石灰岩地などの森林の発達しにくい場所に生育する。愛知県では蛇紋岩地のやせ山に低木林をつくるか、岩崖地に点在する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

黄柳野の自生地は、範囲は狭いが、個体数が多い。しかし、大径木はほとんどない。天然記念物に指定されているため、保全上は問題が少ない。コツゲは個体数が少なく、園芸目的の採取により失われるおそれがある。

**【保全上の留意点】**

コツゲについては、園芸目的の採取を防止するため、詳細な分布情報の公表を避けるべきである。

**【特記事項】**

緻密な材が得られる有用樹である。黄柳野でも、過去には相当利用されたものと思われる。

**【関連文献】**

保木本Ⅰ p.254、平木本Ⅱ p.45、SOS 旧版 p.64。

ホルトノキ *Elaeocarpus sylvestris* (Lour.)Poir. var. *ellipticus* (Thunb.)H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。なお、絶滅危惧Ⅱ類という評価は本来の自生個体だけを対象としたものであり、植栽木や逸出個体は対象外である。

【形態】

常緑性の高木。高さ 20m くらいになり、上部でよく分枝して円い樹冠を形成する。葉は互生し、枝先に集まる傾向があり、長さ 1cm 前後の柄があり、葉身は倒披針形～長楕円状披針形、長さ 5～12cm、幅 1.4～3cm、先端は鋭頭、基部も鋭形、辺縁には低い鈍鋸歯がまばらにある。葉の表面は深緑色であるが、しばしば紅色の老葉がまじる。花期は 6～7 月、前年枝の葉腋から長さ 4～8cm の総状花序を出し、多数の白色の花をつける。果実は長卵状楕円形、長さ 1.5～2cm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊橋南部（小林 40849）、田原赤羽根（瀧崎吉伸 24376）、渥美（小林 40301）、知多南部（小林 50295）。植栽木起源の逸出野生化個体は、平野部の社寺林等に広く見られる。

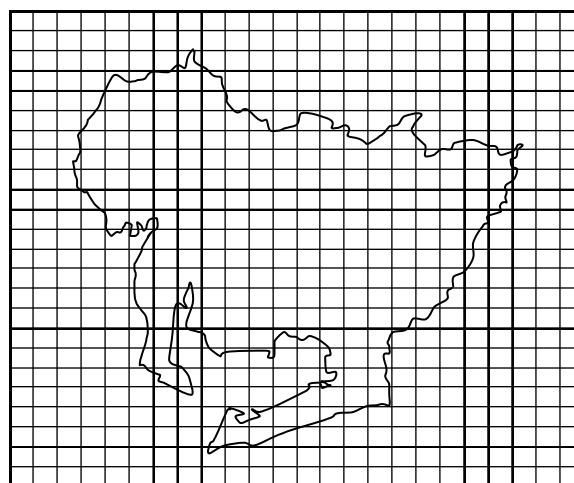
【国内の分布】

本州（千葉県南部以西）、四国、九州、琉球。

【世界の分布】

変種としては日本固有。基準変種は台湾、中国大陸、インドシナに分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

常緑広葉樹林に生育するが、街路樹や庭園木としても広く植栽される。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

渥美半島の一部には優占種となるほどの群落もあるが、他では少数個体が点在するにすぎない。ホルトノキ黄萎病の蔓延により減少が著しい。

【保全上の留意点】

病害対策が必要である。また、社寺林に生育するものは常時は保全されていても、社殿改築などの際に伐採されることがある。地域の人に、照葉樹の社寺林の重要性を認識してもらう必要がある。

【特記事項】

モガンとも言う。

【関連文献】

保木本 I p.236、平木本 II p.63。

## ハマボウ *Hibiscus hamabo* Sieb. et Zucc.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 1。代表的な塩湿地性植物で、鑑賞的な価値も高い。愛知県では生育地が少ない。

### 【形態】

落葉性の低木または小高木。枝はよく分枝し、高さ2~4mになる。葉は互生し、長さ1~2cmの柄があり、葉身は円形~広卵形、長さ4~7cm、幅3~6cm、先端は鋭頭、基部は円形またはやや心形、葉質は厚く、辺縁には細かい鋸歯があり、裏面は星状毛が密生して灰白色となる。花期は7~8月、花は枝の上部の葉腋に1個ずつつき、淡黄色で中心部は暗赤色、直径約5cm、花弁は5枚で倒卵形、先は円形で斜開し、長さ4~5cmである。果実は卵形で長さ約3cm、褐色の毛が密生する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊橋南部（芹沢 79248）、田原赤羽根（小林 53157）、渥美（芹沢 62482）。幡豆にもあるが、良好な標本を採取できていない。小林・深谷（2008）には花の写真が掲載されている。渥美町堀切の群落は県の天然記念物に指定されている。このほか名古屋南東部（南区加福町、高木順夫 8635, 2000-7-28）にもあったが、絶滅した。

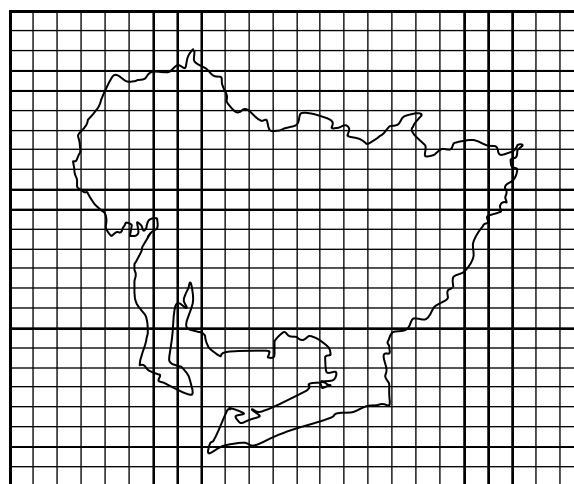
#### 【国内の分布】

本州（関東地方南部、東海地方、紀伊半島、中国地方）、四国、九州、琉球北部（奄美大島まで）。

#### 【世界の分布】

日本および済州島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

海岸の泥湿地に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				○
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

三河湾の奥部には点在しており、特に豊橋市神野新田町にはよい群落がある。本種は海流により種子が散布されるので、多少攪乱された場所でも塩湿地状態が維持されれば定着・生育できるが、開発の結果そのような状態がなくなれば存続できない。赤羽根町の赤羽根漁港には、かつて大きな群落があったらしい。伊勢湾側では名古屋南東部（南区加福町）の貯木場跡に幼木が1株あったが、廃棄物処分場設置のために埋め立てられて消滅した。

### 【保全上の留意点】

塩湿地は開発圧力の高い場所であり、特に注意して保全すべき環境の一つである。

### 【特記事項】

この類としては、最も北に分布している種である。時に観賞用に植栽されることがある。

### 【引用文献】

小林元男・深谷昭登司, 2008. 佐久島・三河湾島々の植物 p.60. 佐久島会, 刈谷.

### 【関連文献】

保木本 I p.229、平木本 II p.71、SOS 旧版 p.64、SOS 新版 p.154,156.

## キガンピ *Wikstroemia trichotoma* (Thunb.) Makino

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 2。西日本系の植物で、愛知県は分布域の東限にあたる。県内では生育地、個体数ともに少ない。

### 【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 1~2m になる。今年枝ははじめ緑色、のちに紫褐色になり、無毛、腋上性の側枝を出す。葉はほぼ対生し、ごく短い柄があり、葉身は卵状楕円形~広披針形、長さ 2~8cm、幅 1~3.5cm、先端は鋭頭~鈍頭、基部はくさび形~円形、葉質は薄く、無毛で全縁である。花期は 7~9 月、花序は小さい穂状で、今年枝上部の枝端につき、全体として円錐状なる。花は淡黄色、長さ 7~8mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

富山(小林 48018)、鳳来南部(芹沢 83373)。

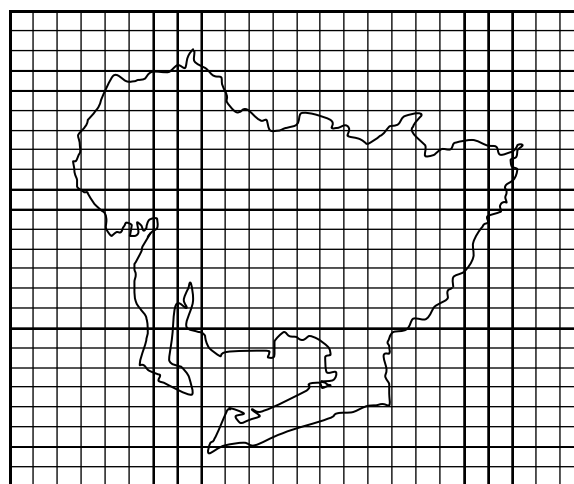
#### 【国内の分布】

本州西部、四国、九州(大隈半島以北)。

#### 【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

低山地の林縁などに生育する。愛知県の生育地のうち富山はやや明るい林内、鳳来南部は造林地の林内である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

2 区画の各 1 カ所に群落がある。鳳来南部は個体数が多いが、生育範囲は狭く、本来の自生かどうかやや疑問が残る。現在のところはよく開花結実するが、遷移の進行により今後衰退する可能性がある。

### 【保全上の留意点】

間伐など、造林地の適切な手入れが必要である。管理が継続されれば、林内では生育できなくても、林縁などで存続できるものと思われる。

### 【特記事項】

ほぼ対生する葉が特徴である。

### 【関連文献】

保木本 I p.225、平木本 II p.81、SOS 旧版 p.64。



コタチツボスミレ *Viola grypoceras* A.Gray var. *exilis* (Miq.) Nakai

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。日本海系の植物で、愛知県は分布の太平洋側の限界にあたる。県内では生育地が極めて少ない。

【形態】

一部常緑性の多年生草本。茎は倒れて横のび、長さ 10cm くらいになる。葉は束生するか茎上に互生し、束生するもので長さ 2~6cm の柄があり、葉身は扁 3 角形、長さ 1~2cm、先端は鋭頭、基部はほとんど切形、辺縁には低い鋸歯がある。托葉は櫛状に切れ込む。花期は 4~5 月、花柄は長さ 4~6cm、小さい個体では根生するが、大きい個体では葉腋から出て、先端に 1 個の花をつける。花は淡紫色で直径 13~18mm、花弁は 5 枚でやや幅が広く、側弁は無毛である。

【分布の概要】

【県内の分布】

瀬戸尾張旭（芹沢 75291）。1 カ所に小群落が点在するだけである。

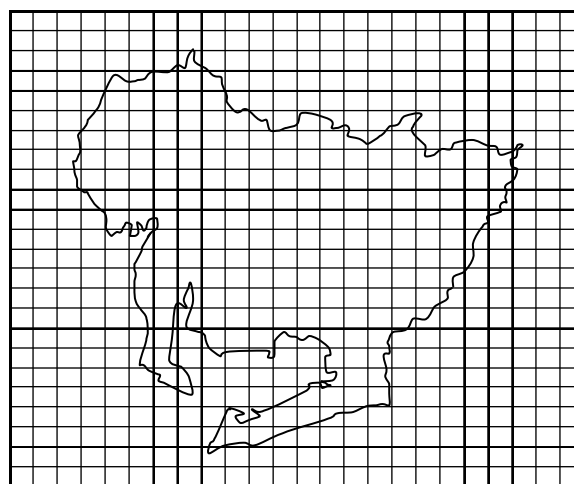
【国内の分布】

本州（中部地方以西）~九州に分布し、日本海側に多い。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島南部に分布する。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や低山地の林縁や明るい林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

1 カ所の 4 地点に生育しているが、森林化が進行し、生育地の光条件が悪化して、全体的に衰退傾向にある。現在個体数が多いのは、砂防ダム建設に伴い伐開された場所だけである。

【保全上の留意点】

樹木やササ類を伐開し、光条件を維持することが必要である。

【特記事項】

タチツボスミレからは、全体に小形で匍匐性であり、葉の基部がほとんど心形にならないことで区別される。葉の形はケイリュウタチツボスミレにも似ているが、それからは花弁の幅が広いことで区別される。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.56、平草本Ⅱ p.251、SOS 新版 p.75,77。

## ミズキカシグサ *Rotala littorea* (Miq.) Nakai

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい1年生の水田雑草で、愛知県でも生育地が少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

1年生草本。茎は軟らかく、直立して枝を分け、高さ10～30cmになる。葉は対生し、無柄、葉身は披針形で先端は鋭頭、茎につくものは長さ0.6～2.5cm、幅約2～5mmであるが、枝につくものは小さくなる。花期は8～11月、花は葉腋につき、無柄、帯紅色、がく筒は杯形で長さ約1mm、裂片は4個で小さく、花弁は4個でがく筒とほぼ同長である。蒴果は球形で約2mm、紅紫色をおびる。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東栄(小林 48463)、設楽西部(小林 54119)、鳳来北東部(芹沢 74332)、旭(小林 58008)。

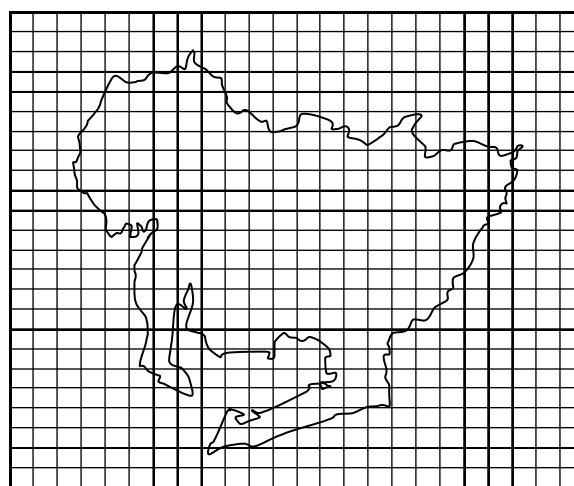
#### 【国内の分布】

本州(中南部)、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本および朝鮮半島。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

水田や湿地に生育する。愛知県での自生地はいずれも山間部の水田である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○	○		
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

どの場所も個体数はそれほど多くない。山間部の水田は減反政策の影響で放棄される危険があり、休耕されれば本種は一時的には増加しても、やがて大形草本に被陰されて消滅すると思われる。一方で営農意欲が高ければ耕地整理が行われ、絶滅する可能性が高い。ただしその一方で、水田雑草は近年、強力な除草剤が使用されなくなったためか多少回復の兆しがあり、新たな生育地が確認される可能性もある。

### 【保全上の留意点】

山間部の谷戸田の保全が必要である。

### 【特記事項】

「日本の野生植物」Ⅱ237 図版に本種として掲載されている写真は、ヒメミソハギである。

### 【関連文献】

保草本Ⅱp.47、平草本Ⅱp.260、SOS旧版p.66+図版25、環境庁p.315。

## オグラノフサモ *Myriophyllum oguraense* Miki

### 【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。全国的に減少傾向の著しい水草で、愛知県でも生育地が少ない。

### 【形態】

多年生でほぼ沈水性の水草。茎は長く伸びて分枝し、長さ 1m くらいになる。水中葉は通常 4 枚が輪生し、長さ 2~5cm、幅 1~3.5cm、羽状に全裂し、裂片は糸状である。花期は 5~7 月、花序は茎の先端につき、穂状、水面から出て直立し、花は白くて小さく、花序の上部に雄花、下部に雌花がつく。花序の葉はやや小さく、淡緑白色である。殖芽は細長い棒状、長さ 2.5~8cm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

幸田 (小林 62818)、春日井 (芹沢 78430)、岩倉西春 (芹沢 81098)、名古屋北部 (植松正和 s.n.)、名古屋南西部 (高木順夫 11730)、尾西 (芹沢 74404)、海部東部 (芹沢 82640)。ただし、幸田のものは典型的なオグラノフサモであるが、それ以外は殖芽がやや太くて短く、フサモとの雑種の可能性がある。評価の対象を幸田のものだけに限定すれば、個体数階級と集団数階級はいずれも 4 になり、愛知県での評価は絶滅危惧 I A 類になる。

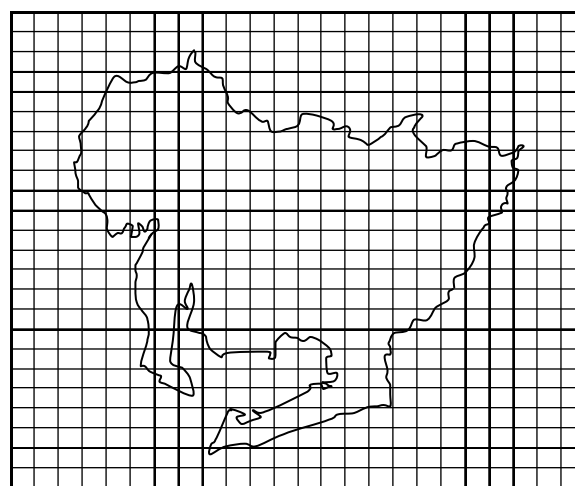
#### 【国内の分布】

本州 (茨城県、新潟県以西)、四国、九州に分布する。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や平野部の池沼、水路に生育する。やや富栄養の、しかし人為的に汚染されていない水域に生育する植物である。愛知県の場合、幸田と名古屋北部のうち 1 カ所はため池、それ以外は河川や小水路に生育している。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域		○	○	

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

名古屋近郊では、数年前まで特定の小水路に生育しているだけで、そこにはある程度の量があっても、隣接する場所には見られないという状態であった。しかし最近になって、以前にはなかったはずの庄内川本流にも見られるようになった。庄内川の水質が多少なりとも改善された成果かもしれない。

### 【保全上の留意点】

雑種性の植物である可能性があっても、また近年多少増加傾向にあっても、保全を要する植物であることは変わらないと思われる。小水路の保全や水質の維持に一層努力する必要がある。

### 【特記事項】

フサモ *M. verticillatum* L. に似ているが、花序の葉が緑白色であること、殖芽が長く手ざわりがかたいことなどで区別できる。フサモも過去の文献では散見されるが、愛知県産の確実な資料は確認できない。和名は、最初の発見地である京都の巨椋池に因む。名古屋北部の守山区才井戸流れのものは、底土中にやや小型の殖芽をつける点で特異的である。

### 【関連文献】

保草本Ⅱ p.36、平草本Ⅱ p.271、環境庁 p.495、SOS 新版 p.127,129。  
角野康郎, 1994. 日本水草図鑑 p.136. 文一総合出版, 東京。

**ノダケモドキ** *Angelica hakonensis* Maxim. var. *nikoensis* (Yabe)H.Hara

**【選定理由】**

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 2。分布域の狭い植物で、愛知県はその西限にあたる。県内では生育地も個体数も少ない。

**【形態】**

多年生草本。高さ 30～120cm になる。葉は互生し、下部の葉には長い柄があり、葉身は 2 回 3 出複葉、小葉はさらに 3 裂することがあり、小葉や裂片は卵形～楕円形、大きいものは長さ 15cm くらいになり、先端は鋭尖頭、辺縁には鋸歯があり、洋紙質、裏面は淡色である。茎の上部につく葉の葉柄は淡色で、袋状にふくらむ。花期は 8～9 月、花序は複散形で枝の先端につき、花序の枝は 8～15 本、長さ 1～3cm、花は小さく、緑白色、白色または帯紫色である。果実は楕円形で、広い翼がある。

**【分布の概要】**

**【県内の分布】**

豊根(村松正雄 16013)、稲武(小林 39978)、設楽東部(芹沢 63033)、旭(小林 48276)。

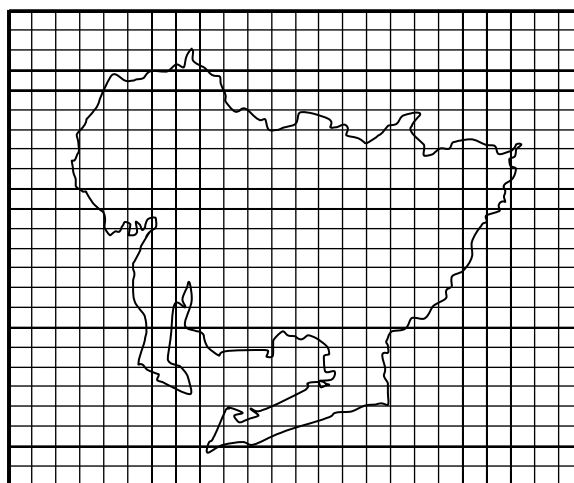
**【国内の分布】**

本州(関東地方、中部地方)。

**【世界の分布】**

日本固有。種としても日本固有である。

要配慮地区図



**【生育地の環境 / 生態的特性】**

山地の岩場やガレ場などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

**【現在の生育状況 / 減少の要因】**

生育地は限られており、個体数も少ない。道沿いにあるものは、道路の拡幅等により失われるおそれがある。

**【保全上の留意点】**

生育地の個別的な保全が必要である。道路工事に際しては、特に注意を要する。

**【特記事項】**

基準変種のイワニンジンに比べ、小葉はややまばらにつき、花序がやや大きい。

**【関連文献】**

保草本Ⅱp.27、平草本Ⅱp.288。

フキヤミツバ *Sanicula tuberculata* Maxim.

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 3。全国的に少ない植物で、愛知県は隣接する静岡県西部と共に分布域の東限にあたる。県内でも個体数が少ない。

【形態】

小形の多年生草本。茎は高さ 8~20cm になる。葉は根生し、長さ 5~12cm の柄があり、葉身は幅 1.5~4cm で 3 小葉に分かれ、各小葉はさらに 2~3 裂する。花期は 5 月、茎の先端に 1 対の葉状の総苞片をつけ、その間に通常 1 個の散形花序をつける。花は小さく緑色、中央部の 1~4 個が雌花、そのまわりが雄花である。果実は長さ約 4mm、先端がかぎ状にならない刺毛がある。

【分布の概要】

【県内の分布】

新城（芹沢 64764）、豊川宝飯（小林 36786）、豊橋北部（小林 37949）、田原赤羽根（小林 50484）。

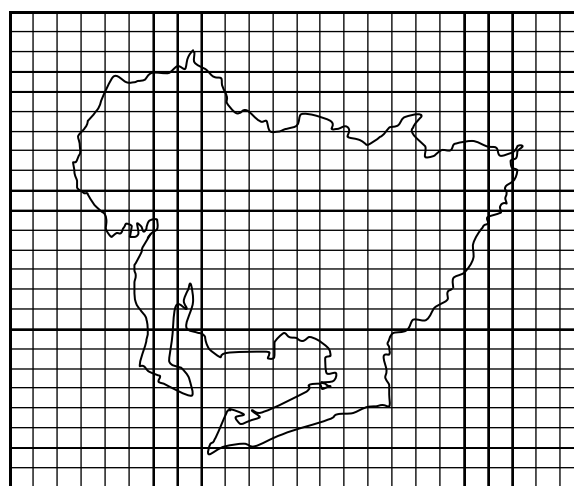
【国内の分布】

本州（中部地方以西）、四国、九州。

【世界の分布】

日本および朝鮮半島中南部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

丘陵地や低山地の明るい林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○	○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

点在しているが、どの場所でも個体数は少ない。森林化の進行により被陰されて、減少傾向にある。

【保全上の留意点】

疎林状態のやせ山に依存する植物であり、そのような環境の保全が必要である。やせ山のような自然・半自然環境は、近傍に住む人に不利益をもたらすため、行政としては今までなるべく消失させるよう努力してきた。しかし、その努力は、一方でそのような環境に住んでいる生物の生活の場を奪い、生物多様性の減少を招いている。住民の利益と生物多様性の保全をどう調和させるかは、今後の重要な課題である。

【特記事項】

目立たない植物なので、調査の際には特に注意を要する。

【関連文献】

保草本Ⅱ p.7、平草本Ⅱ p.278、SOS 旧版 p.67。

オオイワカガミ *Schizocodon soldanelloides* Sieb. et Zucc. var. *magnus* (Makino)H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。日本海系の植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

常緑性の多年生草本。茎は細く地上をはい、先端に数枚の葉を束生する。葉は長い柄があり、葉身はイワカガミより大型で、長さ幅ともに 8~12cm になり、辺縁には多数のとがった鋸歯がある。花期は 4~5 月、葉の間から高さ 10~20cm の花茎を伸ばし、先端に 6~15 個の花をつける。花は淡紅色~紅紫色、花冠は漏斗形で 5 裂し、辺縁は細かく裂ける。

【分布の概要】

【県内の分布】

ほぼ典型的と思われる葉縁の鋸歯が小さくて多いものは、瀬戸尾張旭(村松正雄 16732)、犬山(村松正雄 16961)の各 1 カ所で確認されているだけである。今回の絶滅危惧Ⅱ類という評価は、この型に限定してのものである。植物体の大きさはオオイワカガミに似て葉縁の鋸歯が大きくて少ないものは小原、瀬戸尾張旭、犬山、小牧などに生育しているが、これらは評価の対象に含まれていない。

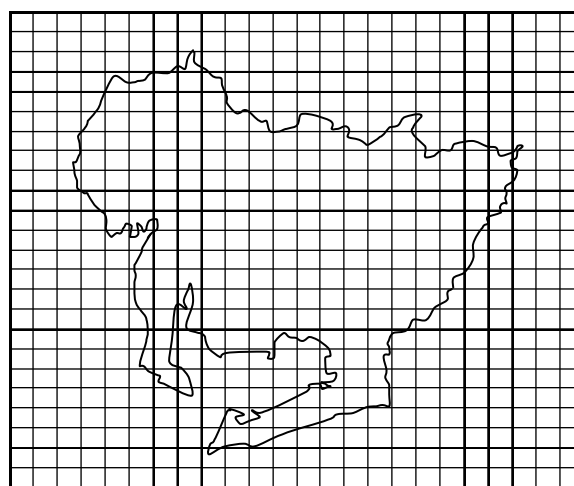
【国内の分布】

北海道南部および本州中北部の、主として日本海側に分布する。鈴鹿山脈北部には比較的多く見られる。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

落葉広葉樹林内に群落を作ることが多い。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林		○		
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

瀬戸尾張旭では、コナラ林内に 3m<sup>2</sup> 程度の小群落がある。現在のところはよく花をつけるが、林内に常緑性の低木が増加すれば、被陰されて衰退する可能性がある。

【保全上の留意点】

生育地の二次林の下層木を刈り払い、いわゆる里山の雑木林状態を維持することが必要である。

【特記事項】

愛知県のイワカガミ類は大部分がヤマイワカガミ系のものであるが、変異が大きく、分類学的に再検討が必要である。

【関連文献】

保草本 I p.240、平草本Ⅲp.1、SOS 新版 p.74,76。

ヒロハドウダンツツジ *Enkianthus perulatus* (Miq.) Schneid. form. *japonicus* (Hook.f.) Kitam.

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 3。分布域は広いがとびとびに生育している希少種で、全国的にも愛知県でも、園芸目的の採取や植生遷移の進行により減少している。

【形態】

落葉性の低木。よく分枝し、高さ 1~2m になる。葉は枝先に集まって互生し、長さ 2~7mm の柄があり、葉身は倒卵形、長さ 2~3cm、幅 1.5~2.5cm、先は尖って先端に腺状突起があり、下部は次第に狭くなって葉柄に続き、辺縁に細鋸歯がある。花期は 4 月中旬~5 月上旬、枝先に 1~5 個の花を散形につける。花は下向きに開き、花冠は白色、つぼ形で長さ 7~8mm、浅く 5 裂し、裂片は反曲する。果実はさく果で上向きにつき、長さ 7~9mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

鳳来南部(芹沢 65625)、新城(芹沢 54725)。

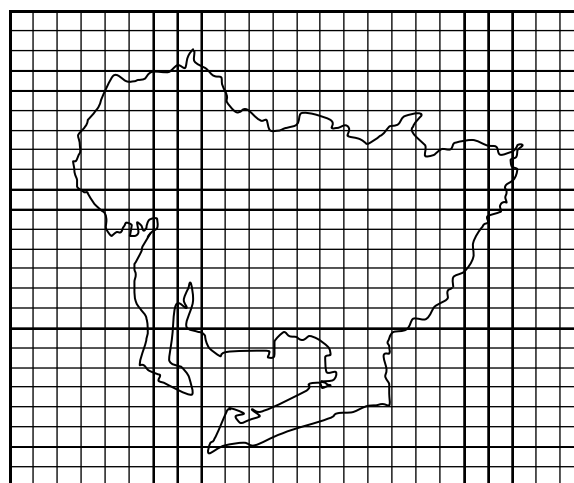
【国内の分布】

本州(千葉県、静岡県、愛知県、紀伊半島)、  
四国(高知県)、九州(鹿児島県)。

【世界の分布】

日本および台湾北部。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

蛇紋岩地などの疎林に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育地は限られているが、その場所では個体数は比較的多い。道路沿いにも見られるが、そのような場所では園芸目的の採取により、減少傾向が著しい。

【保全上の留意点】

疎林内や林縁部に生育する低木なので、林が生長しすぎると衰退する。適度に伐採等を行い、疎林状態を維持する必要がある。ただし本種の場合は、草地になるほど強度に伐採すれば消滅してしまう。生育地は比較的良好に知られている場所であるが、それでもこれ以上の園芸目的の採取を助長しないよう、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

基準品種のドウダンツツジ form. *perulatus* は、葉の幅が 8~15mm のもので、広く栽培される。ヒロハドウダンツツジの中から葉の幅が狭いものを選んで園芸化されたと考えられている。

【関連文献】

保木本 I p.134、平木本 II p.147、SOS 旧版 p.68。

## ハナヒリノキ *Leucothoe grayana* Maxim.

### 【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の低木で、愛知県では生育地も個体数も少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

落葉性の低木。高さ 0.5～1.3m になる。葉は互生し、短い柄があり、葉身は楕円形または長楕円形、長さ 3～15cm、幅 1.5～5.5cm、先端は短くとがり、基部は円形または浅心形、紙質で両面にやや硬い毛を散生し、辺縁には先端が毛になる微小な鋸歯がある。花期は 6 月中旬～7 月下旬、新枝の先に長さ 5～15cm の総状花序を伸ばし、多数の花を下向きに開く。苞は線形または線状披針形であるが、基部のものは葉状になる。花冠は緑白色、つぼ形で長さ 3～4mm、浅く 5 裂し、裂片は反曲する。果実はさく果で、扁球形、幅 4～5mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

富山 (小林 43344)、豊根 (小林 43325)、津具 (小林 46054)、東栄 (芹沢 63581)、旭 (小林 56517)。設楽東部にもあるが標本を採取していない。

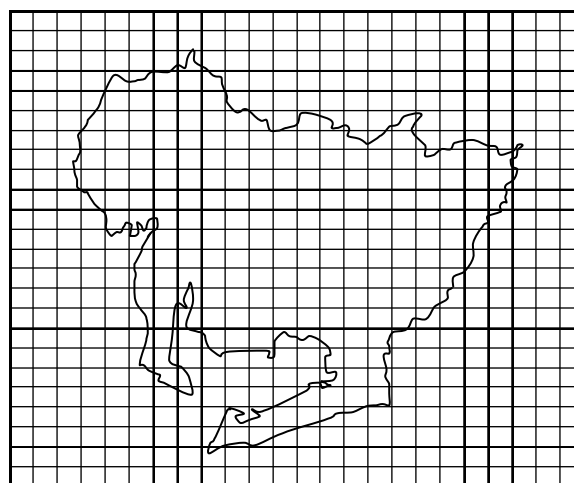
#### 【国内の分布】

北海道および本州 (近畿地方以北) の山地の林縁に生育する。北のものほど葉が大きく、関東地方、中部地方中南部のものは葉が小さい傾向がある。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩地や、尾根すじなどの林縁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

県内での分布は東三河の山地とそれに隣接する西三河の一部に限られており、点在するがどの場所でも個体数は少ない。登山道沿いのものは、しばしば登山者に踏みつけられている。一部の場所では、園芸目的で採取されている。

### 【保全上の留意点】

遊歩道などを設置する際には、注意が必要である。

### 【特記事項】

和名は、この木の葉の粉が有毒で、吸うとくしゃみが出るからである。愛知県のものは、大部分が乾燥標本にした時にはさんだ紙が紅色に染まる型であるが、染まらない型もある。

### 【関連文献】

保木本 I p.137、平木本 II p.148。



ホンシャクナゲ *Rhododendron degronianum* Carr. var. *hondoense* (Nakai)H.Hara

【選定理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有度階級 2。深山性の低木で、鑑賞価値も高い。愛知県では生育地が少ない。

【形態】

常緑性の低木。幹は直立するかまたは下部はまがって地につき、よく分枝し、高さ 4m に達する。葉は枝先に集まって互生し、長さ 1~2.5cm の柄があり、葉身は倒披針形~狭楕円形、長さ 10~15cm、先端は鈍頭、基部はくさび形、革質で全縁、表面は無毛で光沢があり、裏面は綿毛があつて銀白色~淡褐色となる。花期は 4 月下旬~5 月中旬、枝先に短い総状花序をつくり、やや散状に多数の花をつける。花冠は紅紫色から白色、漏斗形で 7 裂し、直径 5cm 内外である。果実はさく果で、円柱形、長さ 14~20mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

設楽西部(芹沢 83166)、旭(小林 56498)。

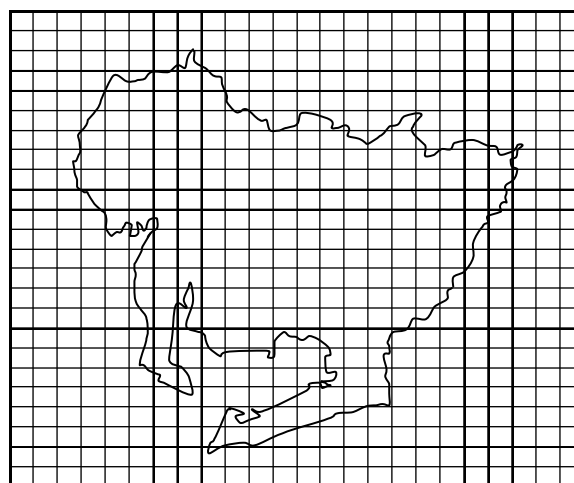
【国内の分布】

本州(新潟県西部以西)、四国(中北部)に分布する。

【世界の分布】

日本固有。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩地や、尾根部の林内などに生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

設楽西部(段戸山)には、比較的まとまった群落がある。原生林伐採前には大きい株が群生していたと言うが、現在は大株は散在するだけである。林縁の個体はよく開花する。造林地に残存しているものは、管理不足で林内が暗くなり、衰退していることが多い。

【保全上の留意点】

花が目立つ植物なので、個別的にはそれなりに保護されている。しかし種の永続的な保全のためには、個体の保護ではなく、生育地の自然環境を全体として維持することが必要である。

【特記事項】

和名は漢名の石南花から来ているが、真の石南花は別の植物であるという。

【関連文献】

保木本 I p.171、平木本 II p.144、SOS 旧版 p.68、SOS 新版 p.47,49。

## ホソバシャクナゲ *Rhododendron makinoi* Tagg. ex Nakai

### 【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 4。本県を代表する固有種で、鳳来寺山系の植物の象徴的な存在であり、鑑賞価値も高い。

### 【形態】

常緑性の低木。幹はよく分枝し、枝を横に広げ、高さ 2~3m になる。葉は枝先に集まって互生し、長さ 1~2.5cm の柄があり、葉身は細長い楕円形、長さ 7~18cm、幅 1~2cm、先端はとがり、下部はくさび形で葉柄に流れ、革質で全縁、表面は無毛、裏面は綿毛状の毛が厚く密生して淡褐色~赤褐色になる。花期は 5 月、枝先に短い総状花序をつくり、5~10 個の花をつける。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で 5 中裂し、直径 4~5cm である。果実はさく果で短い円柱形、長さ 10~15mm、幅約 6mm、褐色の毛が密生する。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

東栄（小林 53977）、設楽東部（小林 53633）、鳳来北東部（加藤等次 1293）、鳳来南部（小林 59333）。県内では東三河東部の鳳来寺山周辺だけに分布している。やや離れて津具にもあるが、標本を採取していない。

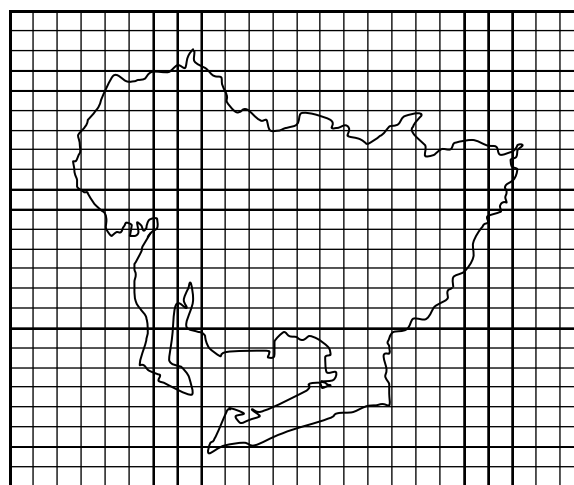
#### 【国内の分布】

本州（静岡県西部、愛知県東部）。

#### 【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の岩場など、急峻な地形の場所に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

生育範囲は狭いが、その中では比較的多い。しかし、上層の樹木の生長につれて光条件が悪化し、衰退傾向にある場所も少なくない。園芸目的の採取は皆無ではないが、急峻な地形であり、地元に関心も高く、現在のところ大量に盗掘されるおそれは少ない。むしろ、本来生育していないようなあちこちの場所に苗木が植えられていることの方が問題である。

### 【保全上の留意点】

地形の変更を伴わない適度な伐採は、本種の存続にとってかえって好都合と思われる。

### 【特記事項】

エンシュウシャクナゲとも呼ばれ、「日本の野生植物」木本編Ⅱではこの名が見出しとして使われている。他のシャクナゲ類に比べて、葉が細いのが特徴である。津具の自生地は、県指定天然記念物として保護されている。

### 【関連文献】

保木本 I p.171、平木本Ⅱ p.145、SOS 旧版 p.68+図版 6、環境庁 p.499。

## カンザブロウノキ *Symplocos theophrastaefolia* Sieb. et Zucc.

### 【選定理由】

個体数階級 4、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 2、固有度階級 1。暖地性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も極めて少なく、存続の基盤が脆弱である。

### 【形態】

常緑性の小高木。高さ 10m くらいになる。葉は互生し、長さ 1cm 程度の柄があり、葉身は狭楕円形、長さ 10~16cm、幅 3~6cm、先端は鋭尖頭、基部はくさび形、革質で表面に光沢があり、両面無毛、辺縁には低い鋸歯がある。側脈は 6~9 対あり、細くて隆起しない。花期は 8~9 月、花序は上部の葉腋につき、穂状でしばしば下部で分枝し、密に褐色の毛がある。花は無柄、花冠は 5 裂し、白色、直径 7~8mm である。果実はつぼ状球形で暗紫色に熟し、長さ約 5mm である。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

豊橋北部（小林 49976）。1 カ所に生育しているだけである。

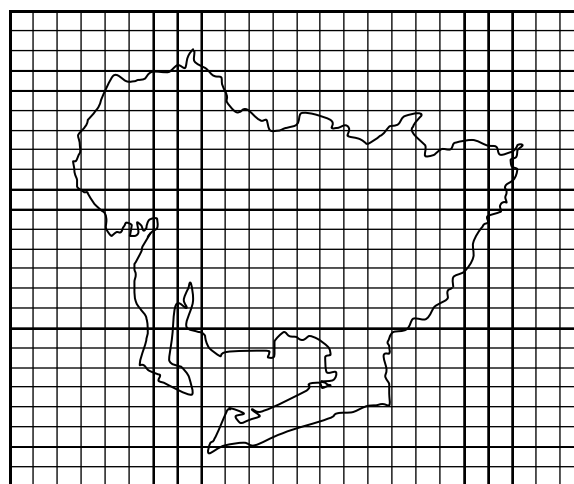
#### 【国内の分布】

本州（静岡県以西）、四国、九州、琉球。

#### 【世界の分布】

日本、台湾、中国大陸。

要配慮地区図



### 【生育地の環境 / 生態的特性】

暖地の照葉樹林内に生育する。愛知県では、ヒノキ造林地の下層木である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

### 【現在の生育状況 / 減少の要因】

造林地内に少数株が生育している。伐採されて切り株から萌芽したものもある。峠を越えた静岡県側には比較的多く見られるが愛知県側には成木はなく、生育状況はやや偶産的である。希少種であることを意識しない伐採によって失われるおそれがある。

### 【保全上の留意点】

個体数が少なく、また特別な環境の場所に生育しているものではないので、保全する場合は造林地の下層木を除去する際切り残すなど、個別的な施策が必要である。

### 【特記事項】

和名の語源ははっきりしない。

### 【関連文献】

保木本 I p.97、平木本 II p.173、SOS 旧版 p.70。

ミヤマアオダモ *Fraxinus apertisquamifera* H.Hara

【選定理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有度階級 1。温帯性の樹木で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

落葉性の小高木。高さ 7～8m になり、枝はやや細く無毛である。葉は対生し、奇数羽状複葉、葉柄を含めて長さ 10～20cm、葉柄や羽軸は無毛である。小葉は 7～9 個、長楕円形、長さ 4～12cm、幅 1.5～4cm、先端は鋭尖頭、辺縁には細鋸歯があり、裏面の中肋沿いに開出毛がある。冬芽の鱗片は、先端が開出する。花期は 5 月、新枝の先端に円錐花序をつけ、花は白色、花弁は 4 個で線形である。翼果は狭倒披針形、長さ 2.5～3cm、幅約 5mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊根（小林 37475）、津具（小林 38417）。茶臼山周辺の狭い範囲に生育しているだけである。

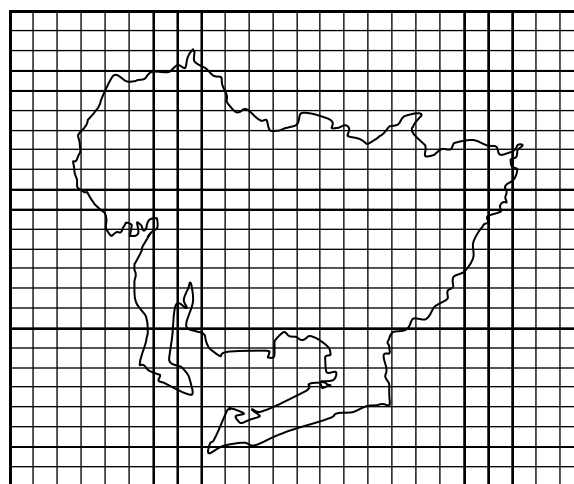
【国内の分布】

本州（中部地方）、四国に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境 / 生態的特性】

山地の落葉広葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況 / 減少の要因】

少数の個体が点在している。萩太郎山では、スキー場造成によりほとんど消滅した。

【保全上の留意点】

茶臼山一帯は、愛知県の中では温帯性の植物が集中して生育している。自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、現在以上の開発は避けるべきである。

【特記事項】

冬芽の鱗片の先が開くことが特徴である。

【関連文献】

保木本 I p.93、平木本 II p.176。